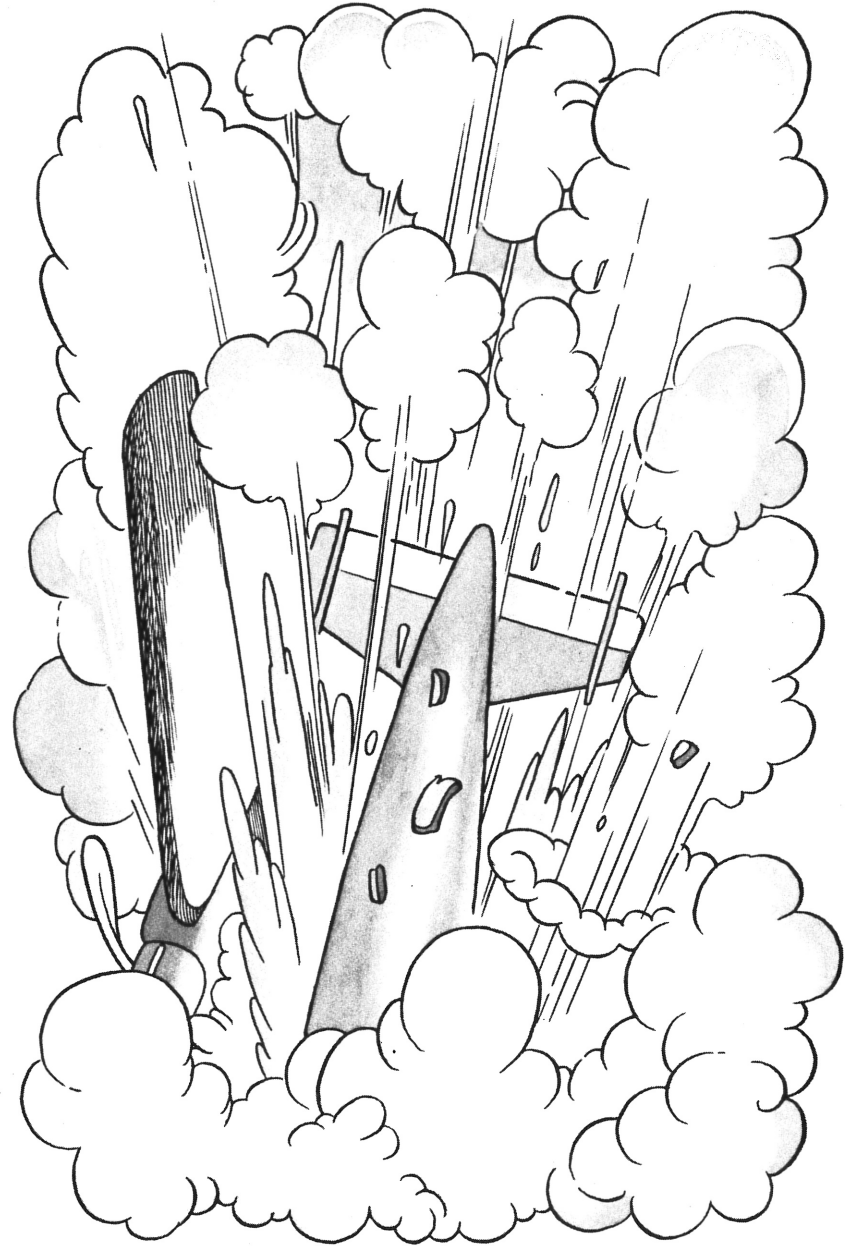
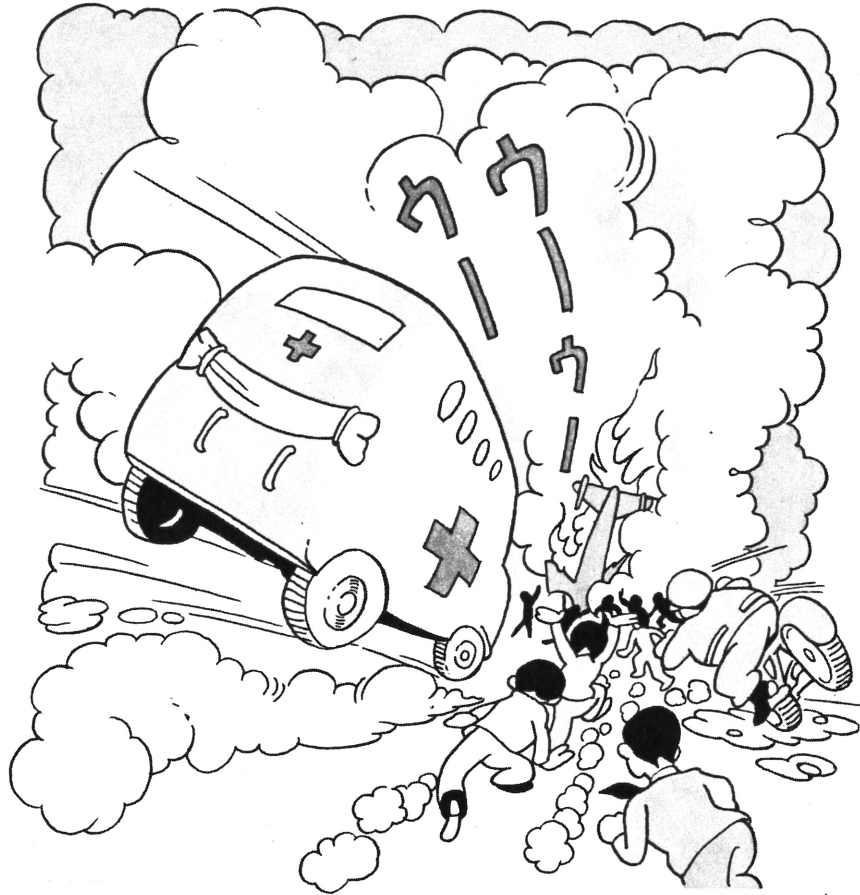
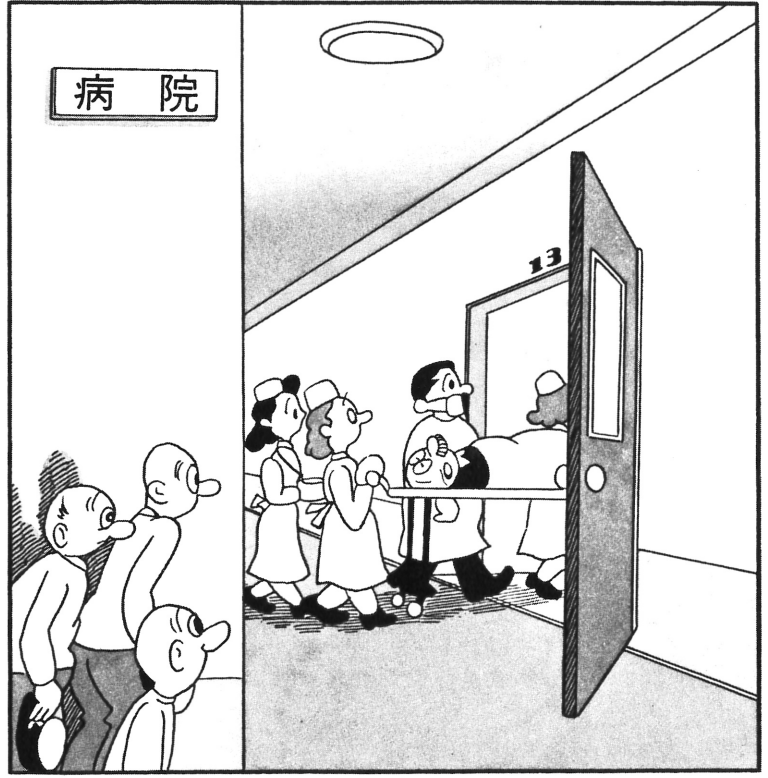
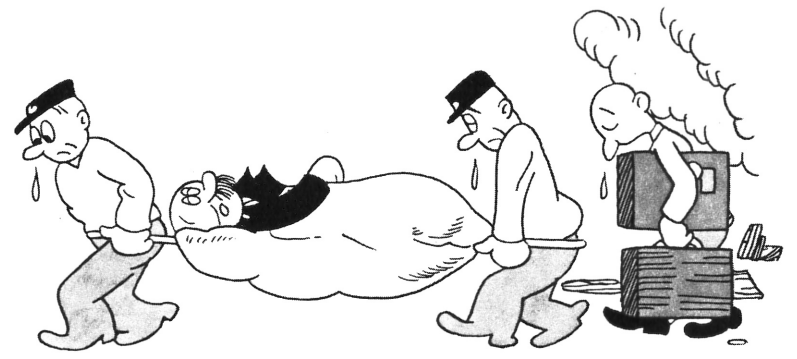
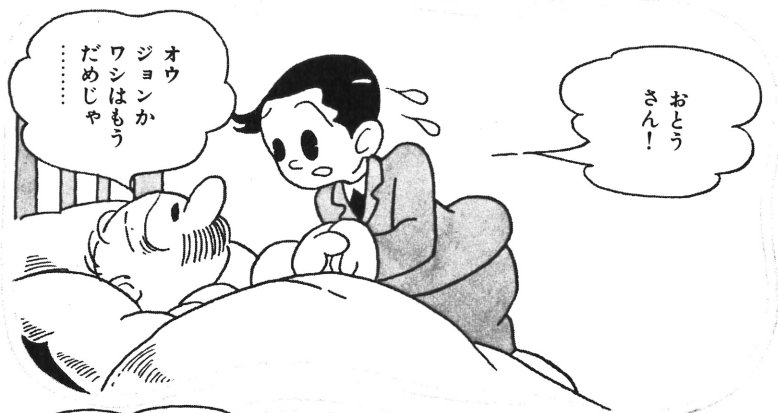




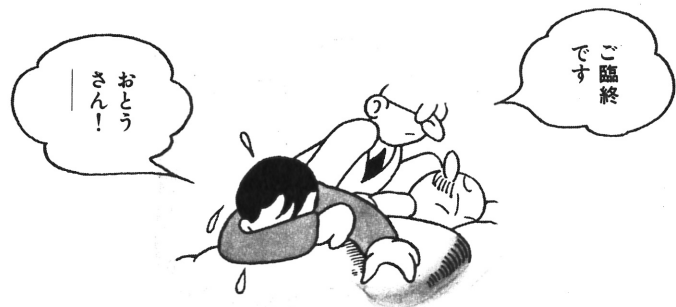
世界一周  
旅客機  
ルビイ号の  
墜落だア

号外

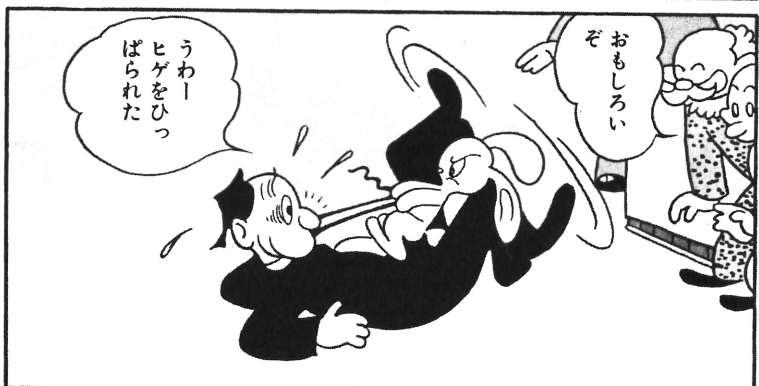
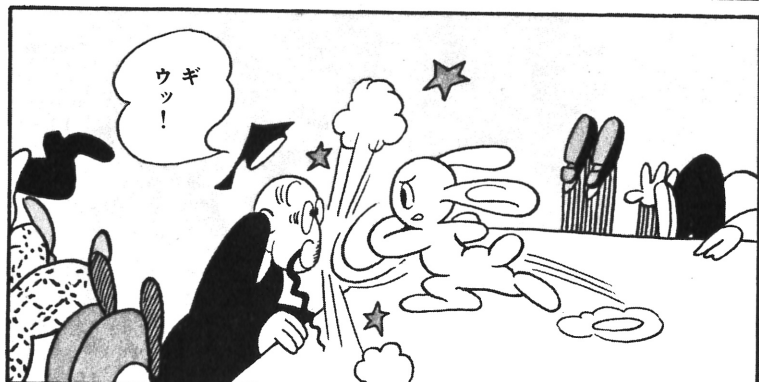
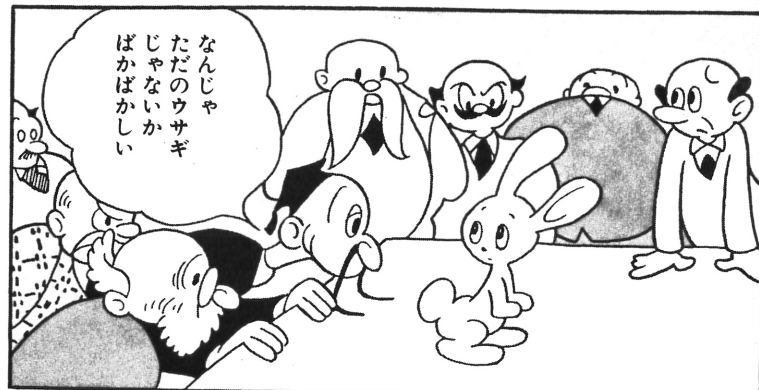
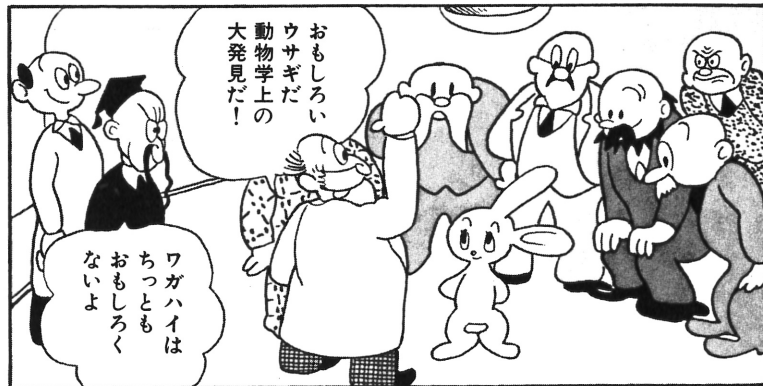
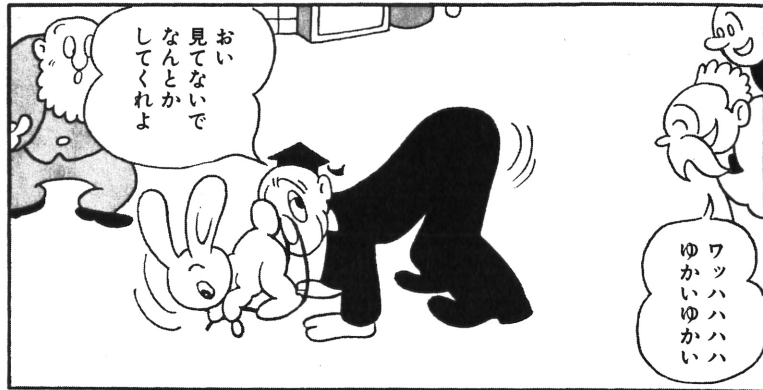


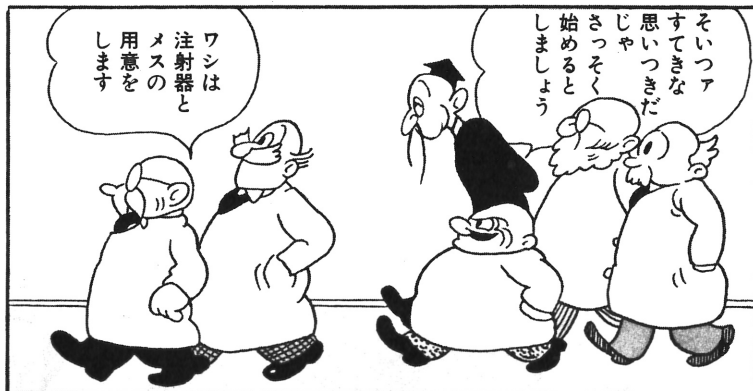
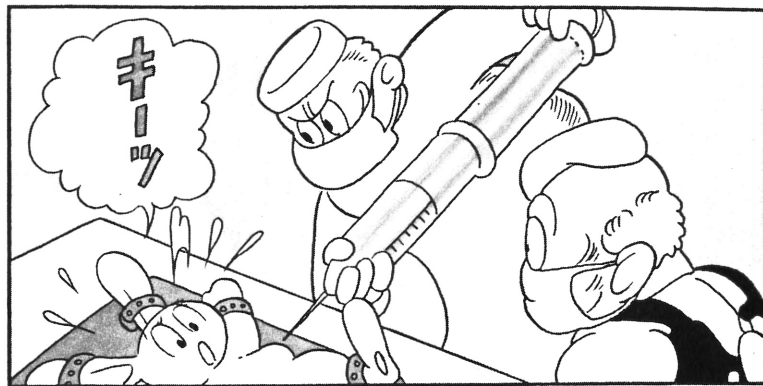


# 地底国の怪人

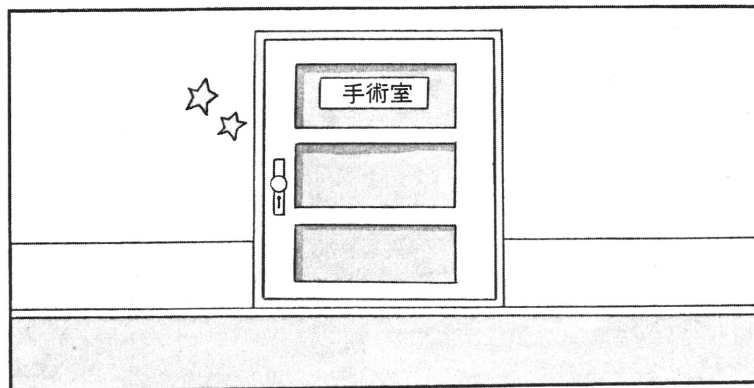
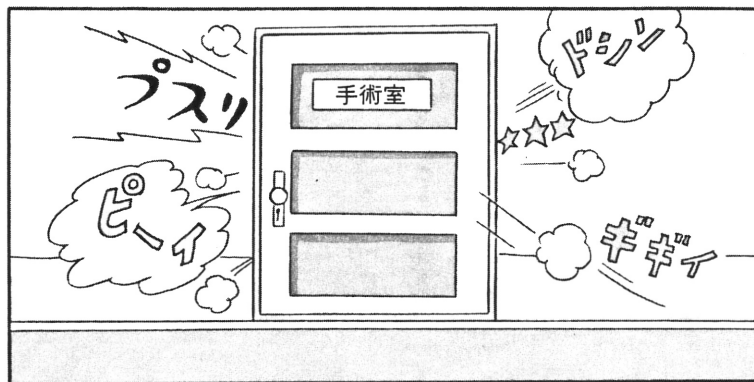
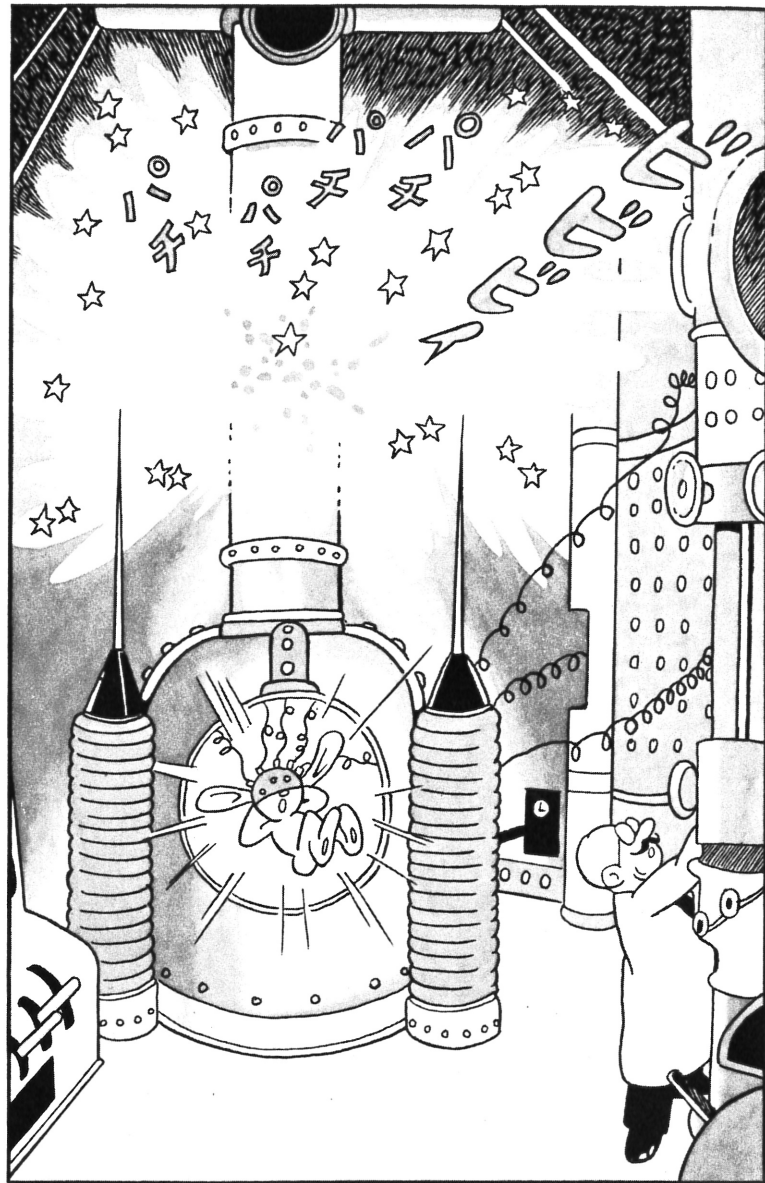




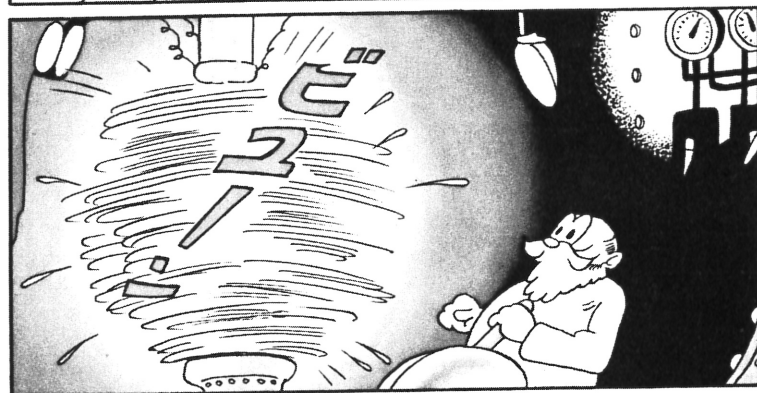
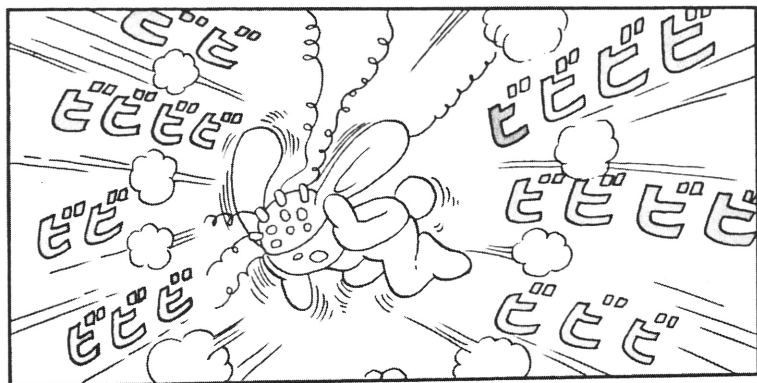
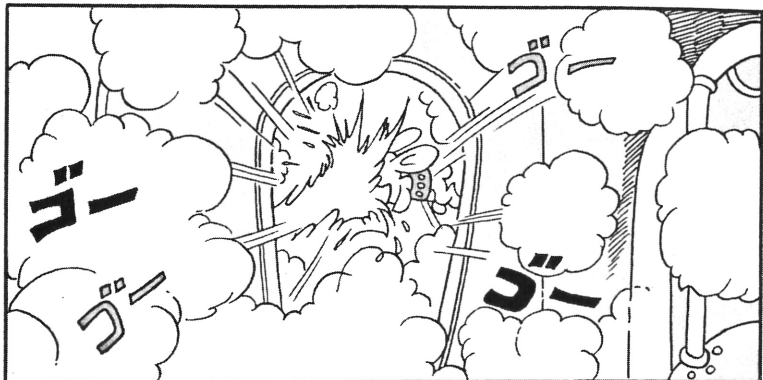
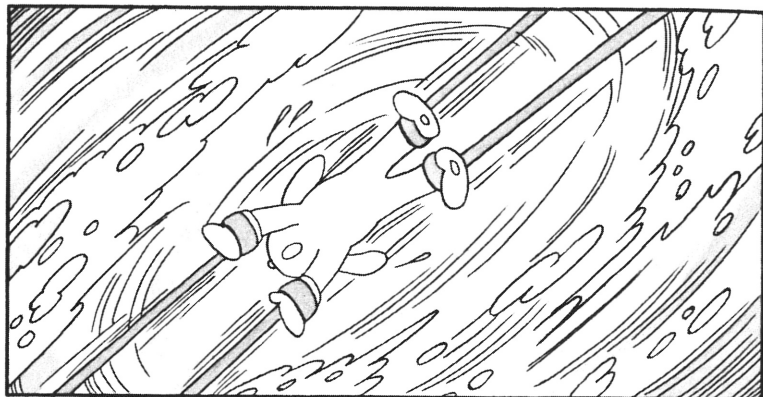


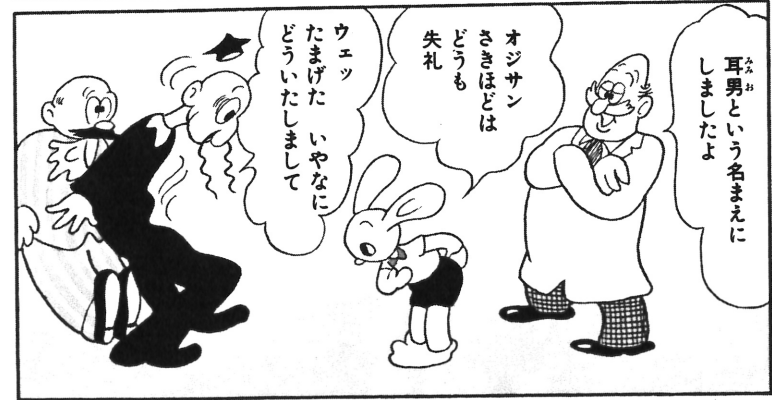
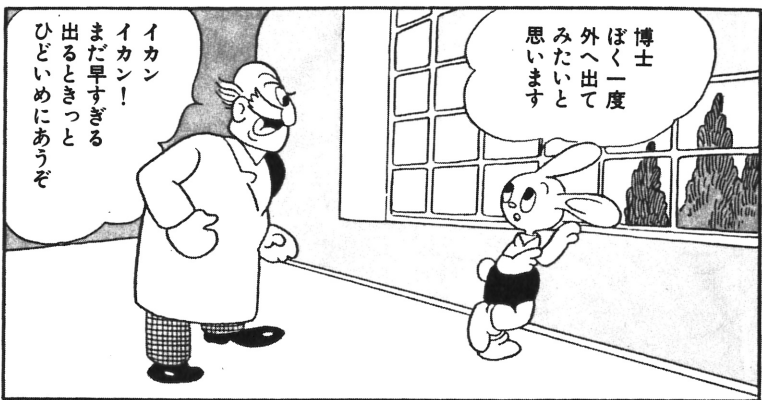
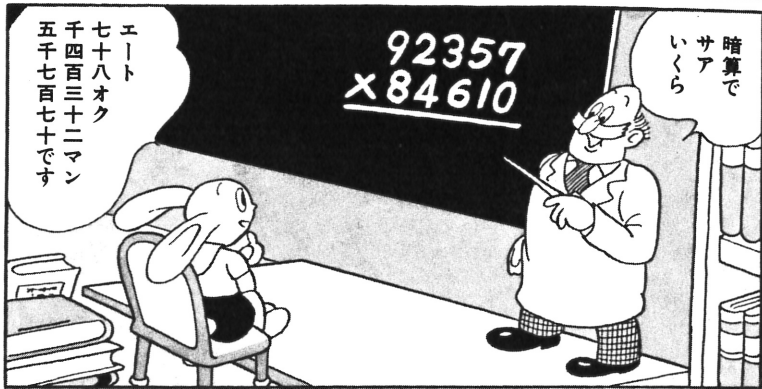
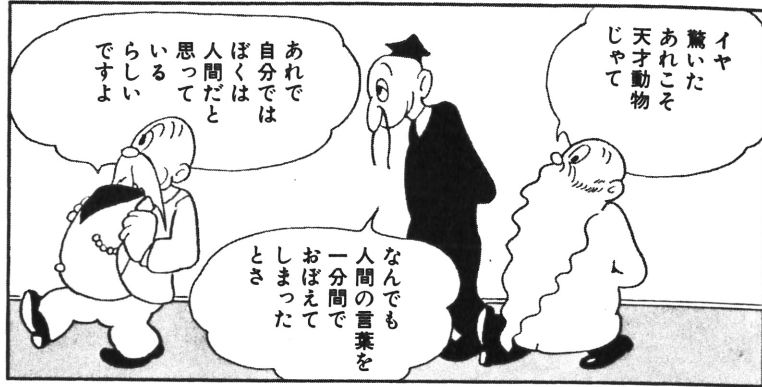


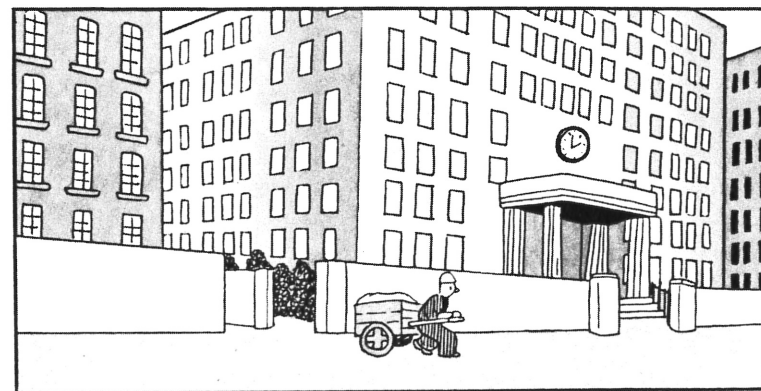
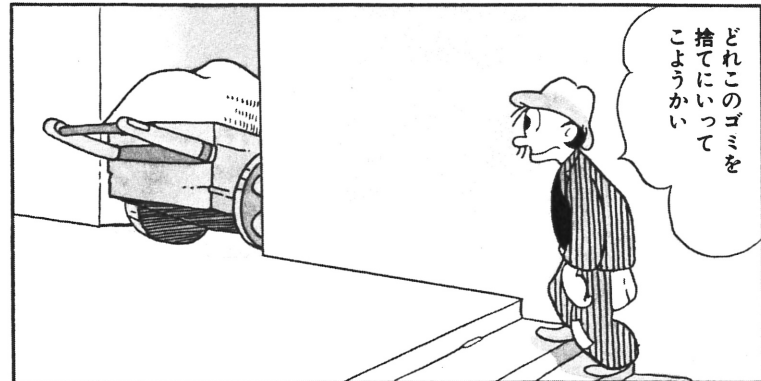
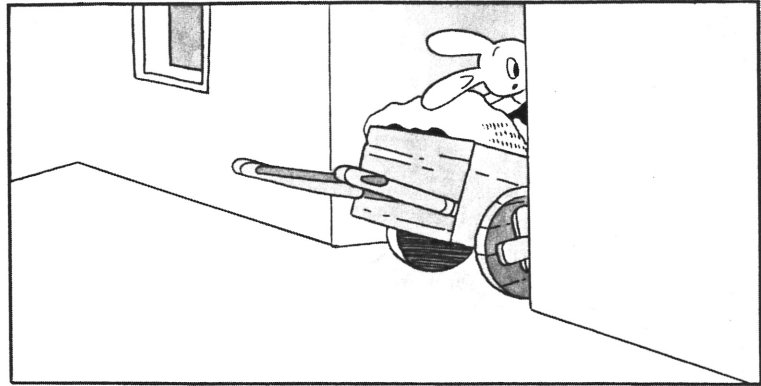
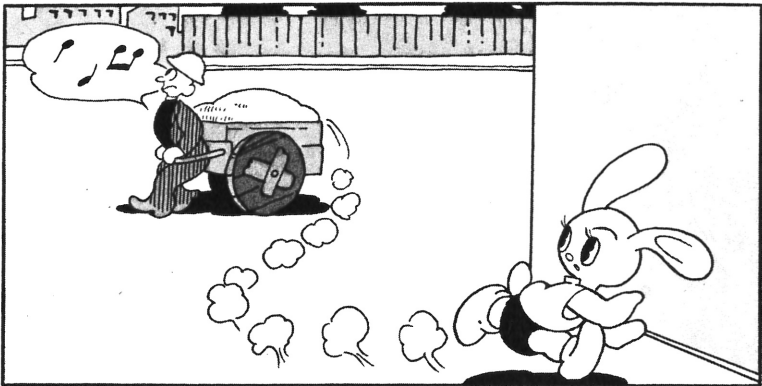
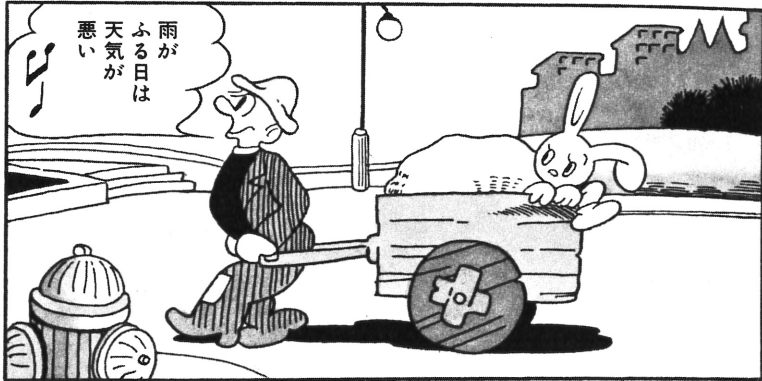


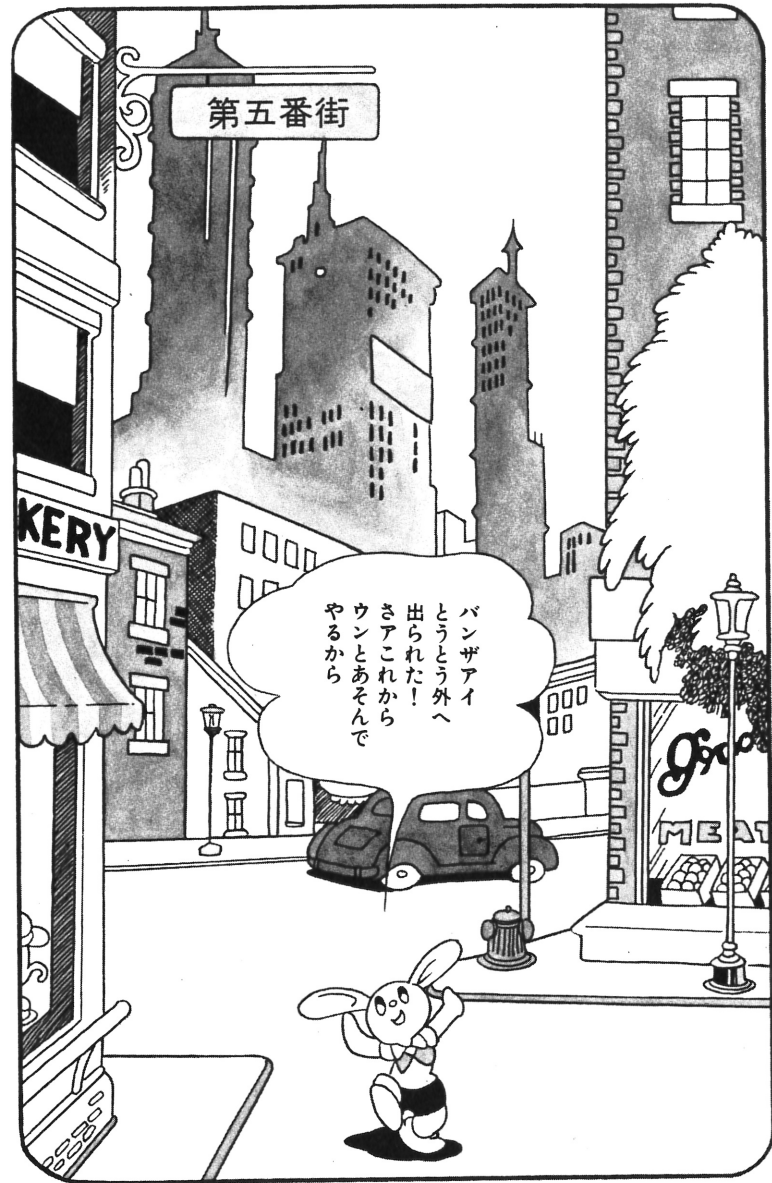
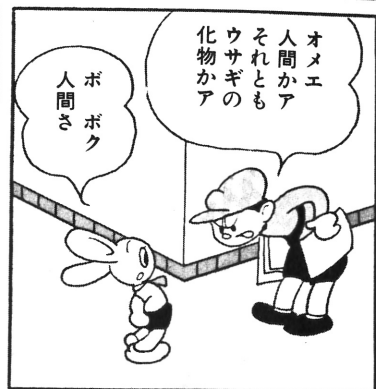
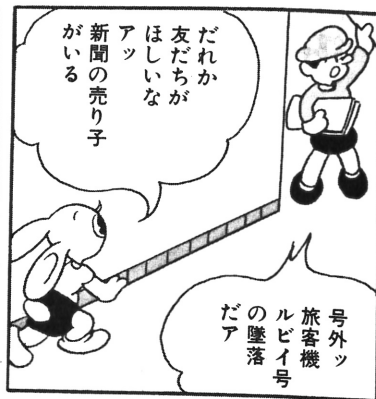






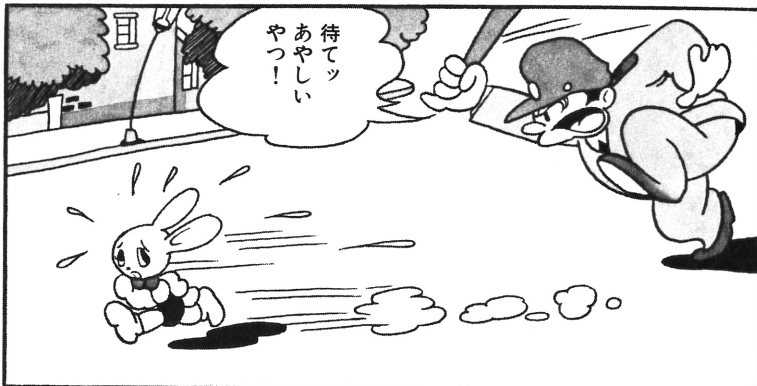




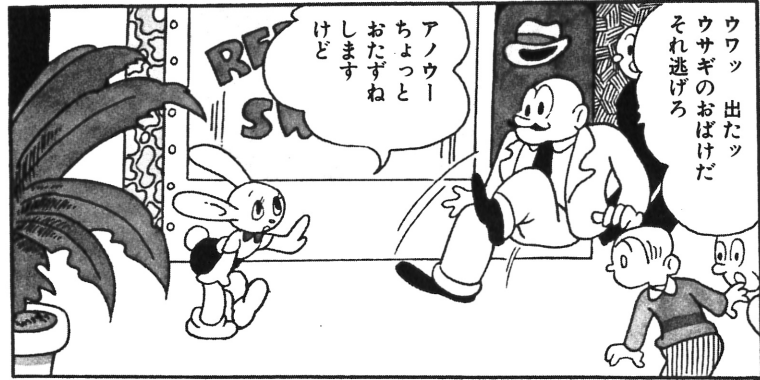




みんな  
ぼくの顔を  
見て  
ビククリ  
しているぞ

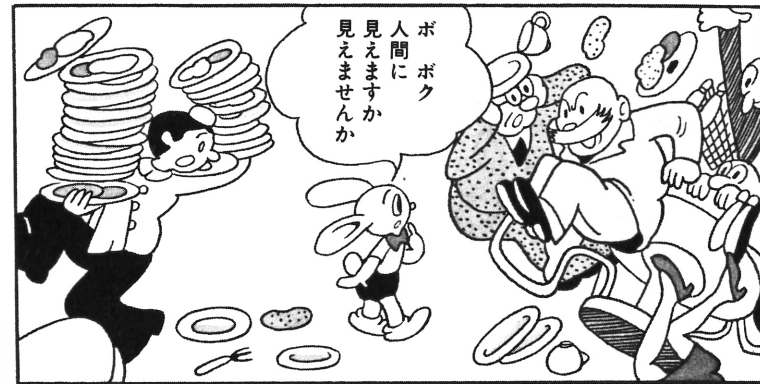


待ってッ  
あやしい  
やつ!



アノウ  
ちよつと  
おたずね  
します  
けど

ウワッ 出たッ  
ウサギのおぼけだ  
それ逃げろ



ボボク  
人間に  
見えますか  
見えますか

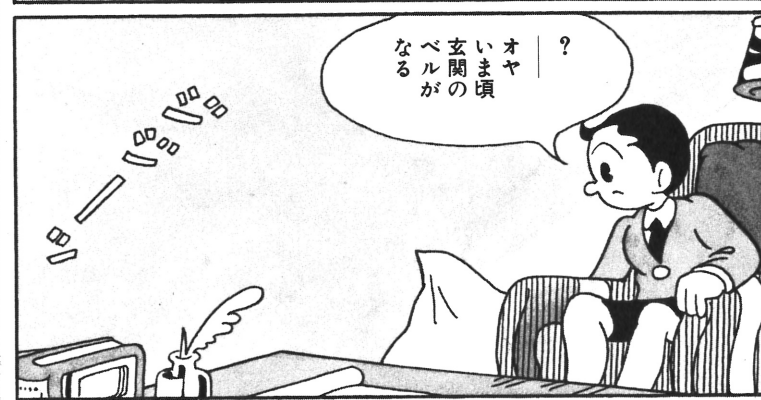
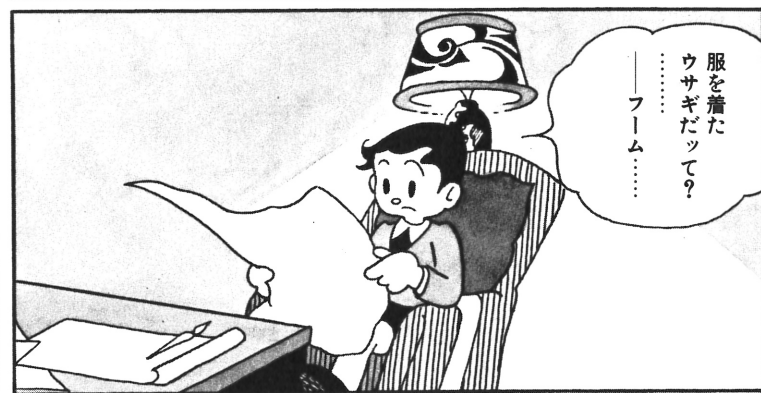
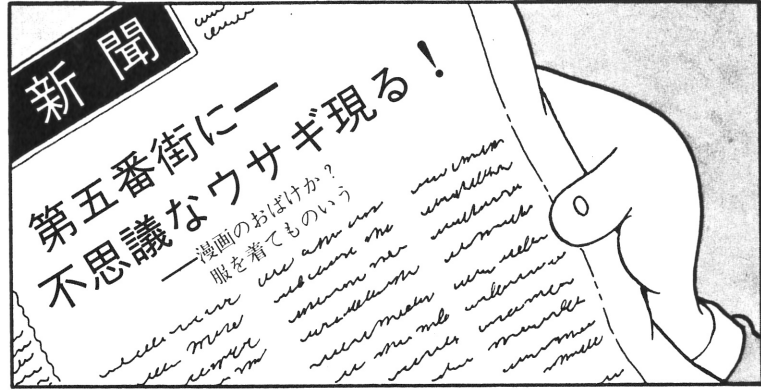
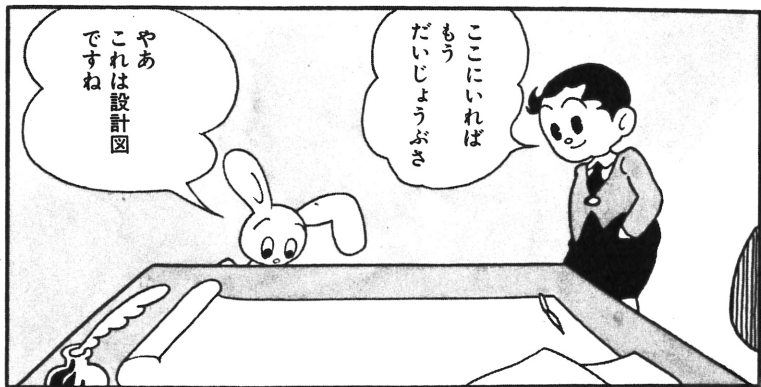
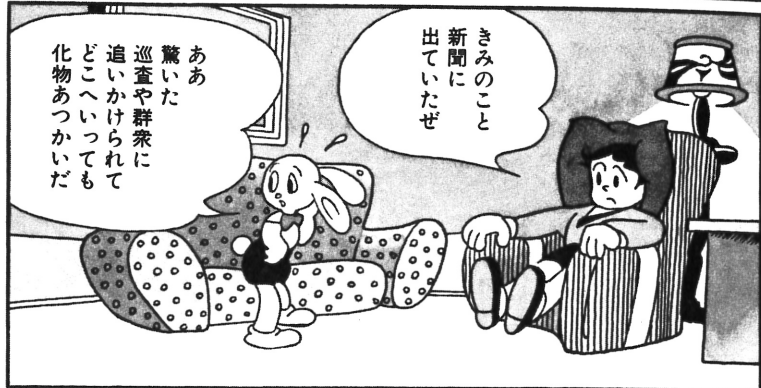
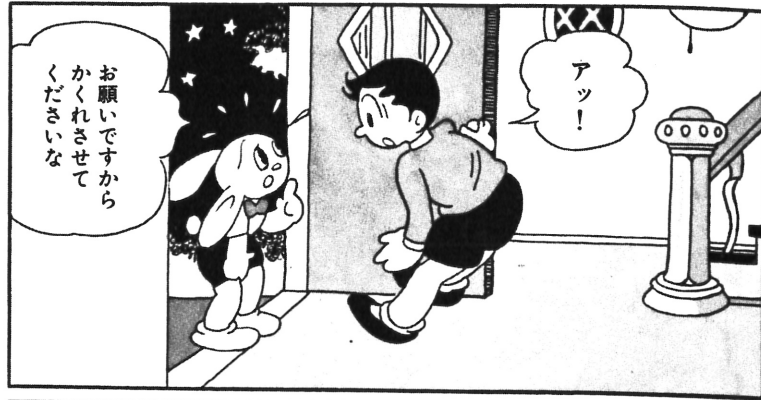


ウツ  
ビフッ  
テキが  
のどに  
よまつた

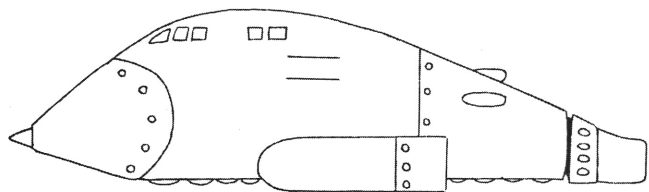
コワイ  
コワイ

あまり  
ウサギばかり  
食うから  
おぼけが  
おこって出て  
きたんだぞ



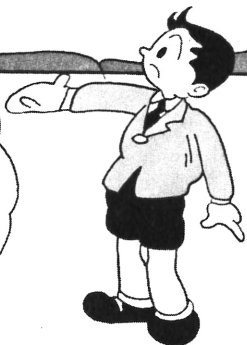


ロケット列車  
設計図



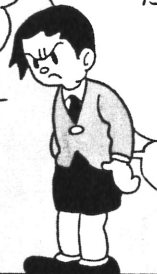
このロケット列車は地球の表から反対側までおよそ一万二千七百公里を十二時間でつらぬく空や地上のように事故の多くない地面の下はいちばん安全でスピーディーな旅だと思ふよ近いうちにロケット列車が完成するのだ

それはりっぱな仕事ですねぜひほくも助手にしてください



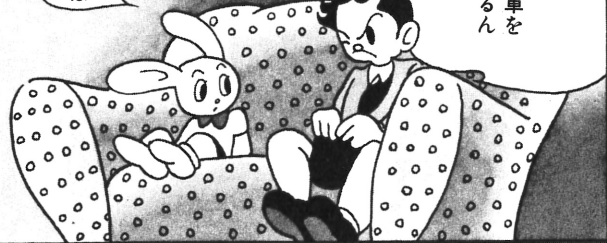
そのときおとうさんは遺言にジョンや大きくなったらいちばん安全ではやいのりものを發明してくれよ

じつはほくのおとうさんは有名な設計家だったそれがついこのあいだ飛行機事故で死んでしまったんだ



それでほくはいま地球貫通列車を計画しているんだよ

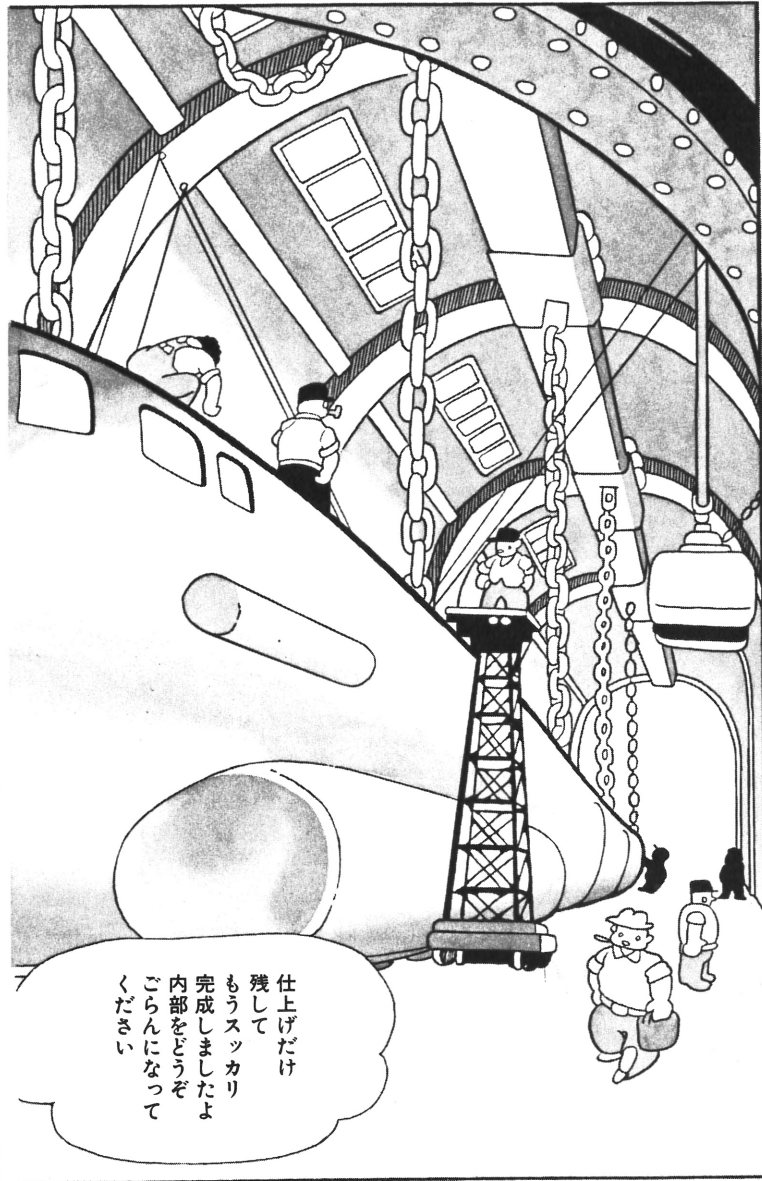
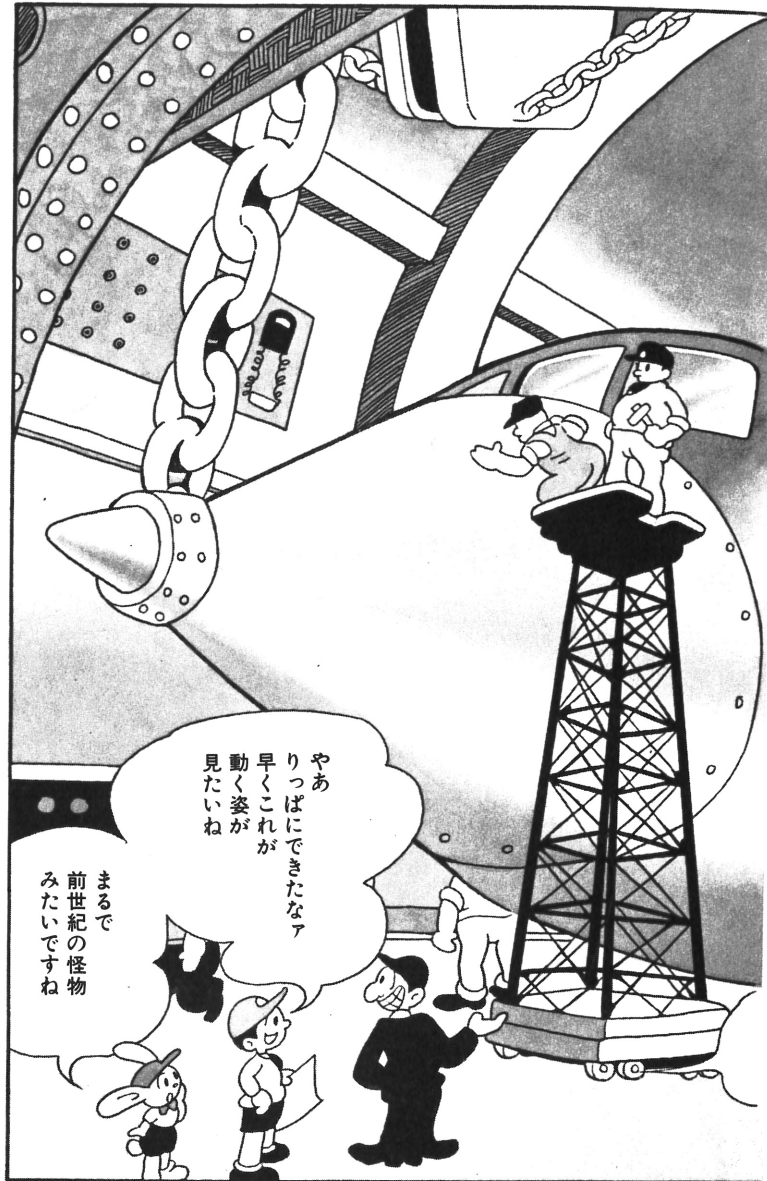
エッ？それはすばらしい



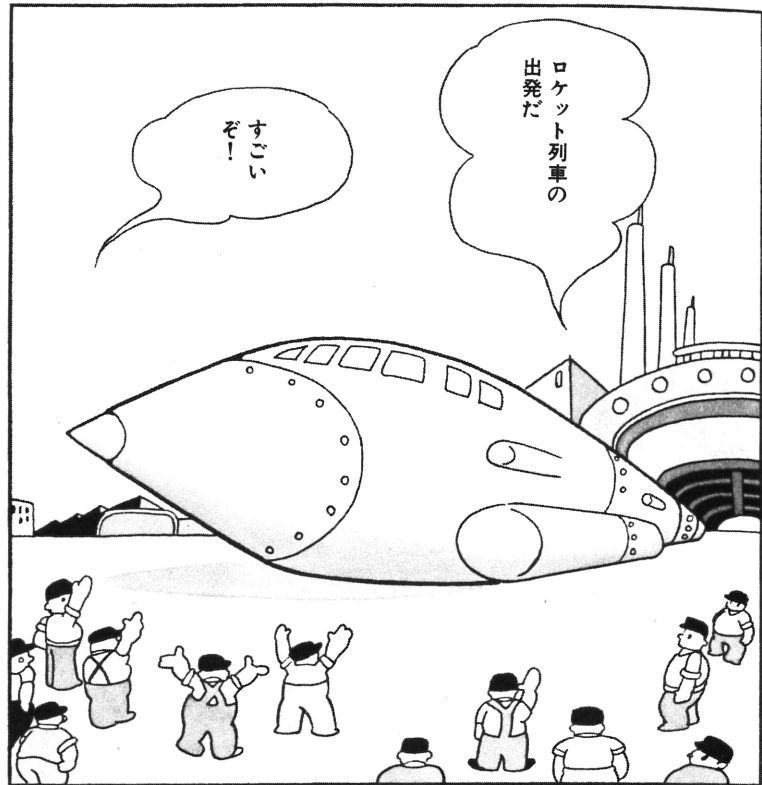
つまり地球の中心は鉄とニッケルのかたまりでできてるんだ

そいつにトンネルをあけてほくの發明したロケット式機関車を走らすのさ



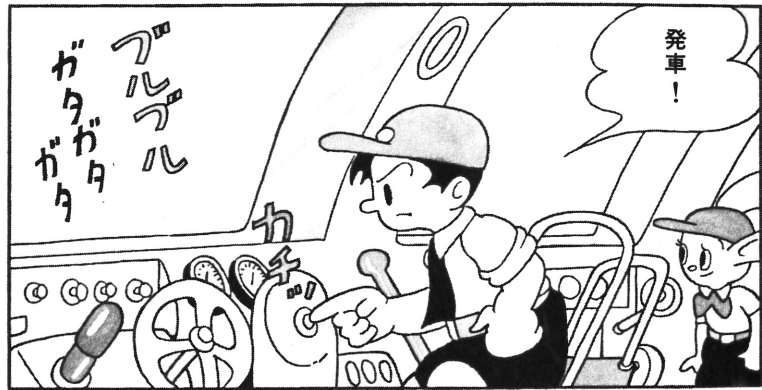






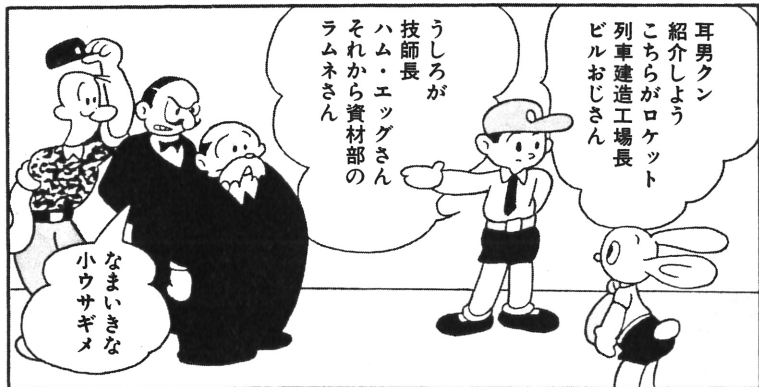
すごいぞ!

ロケット列車の  
出発だ



発車!

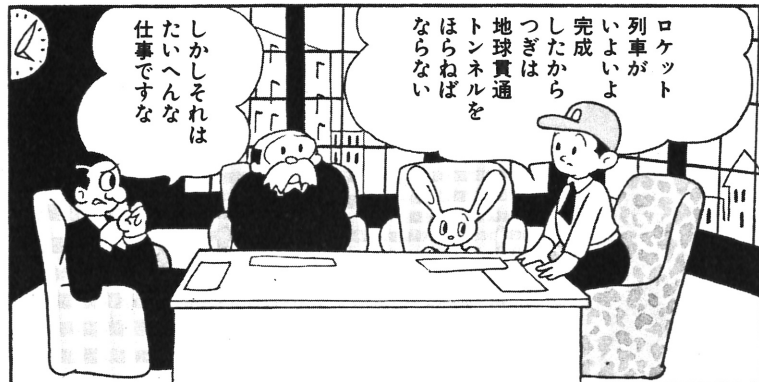
ブルブル  
ガタガタ  
ガタ



耳男くん  
紹介しよう  
こちらがロケット  
列車建造工場長  
ビルおじさん

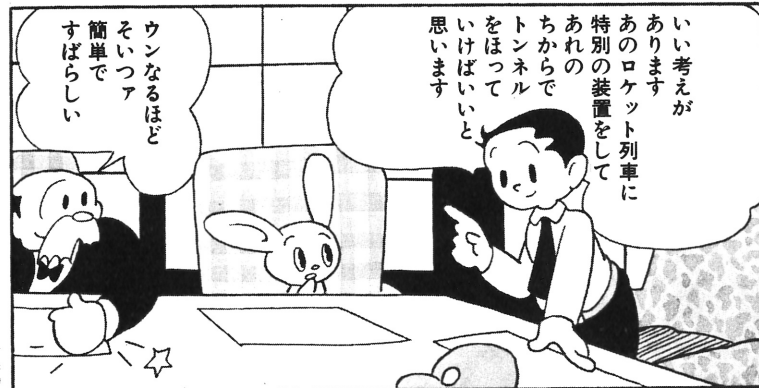
うしろが  
技師長  
ハム・エッグさん  
それから資材部の  
ラムネさん

なまいきな  
小ウサギメ



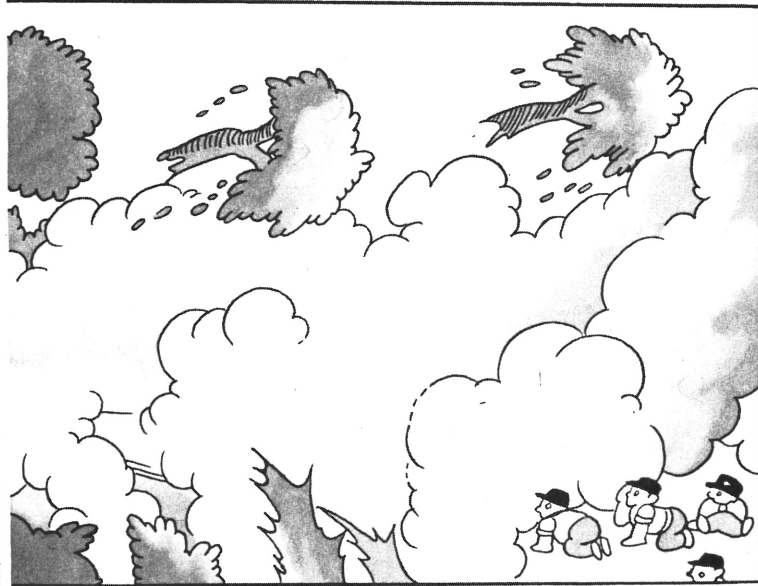
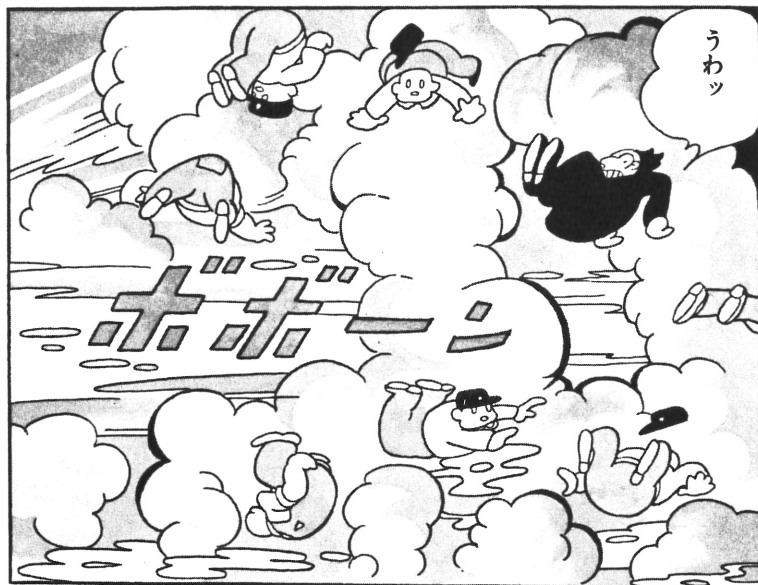
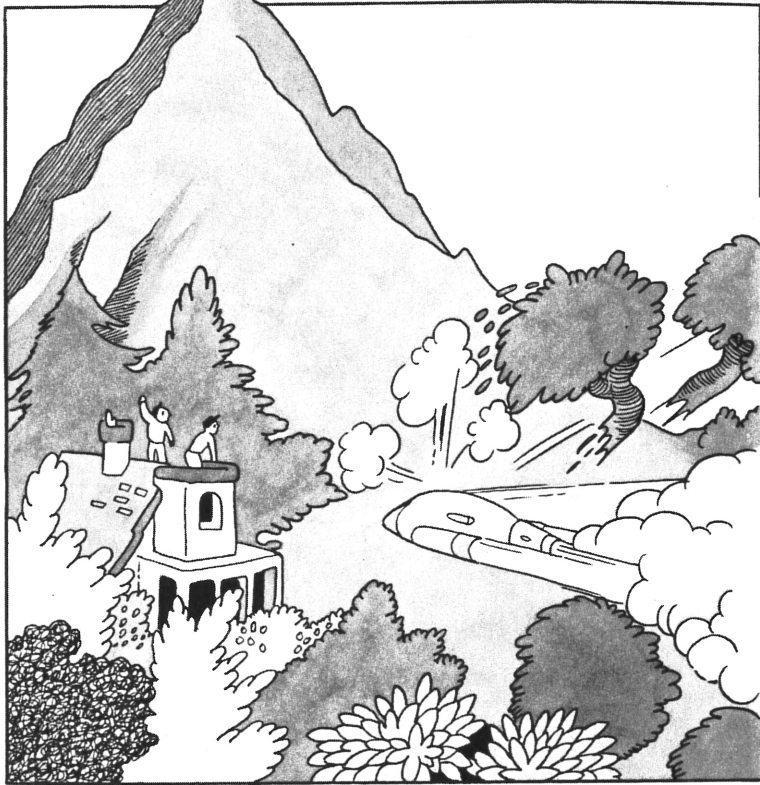
ロケット  
列車が  
いよいよ  
完成  
したから  
つぎは  
地球貫通  
トンネルを  
ほらねば  
ならない

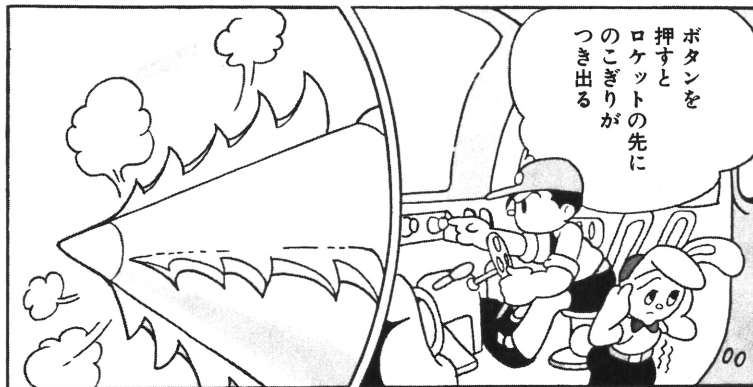
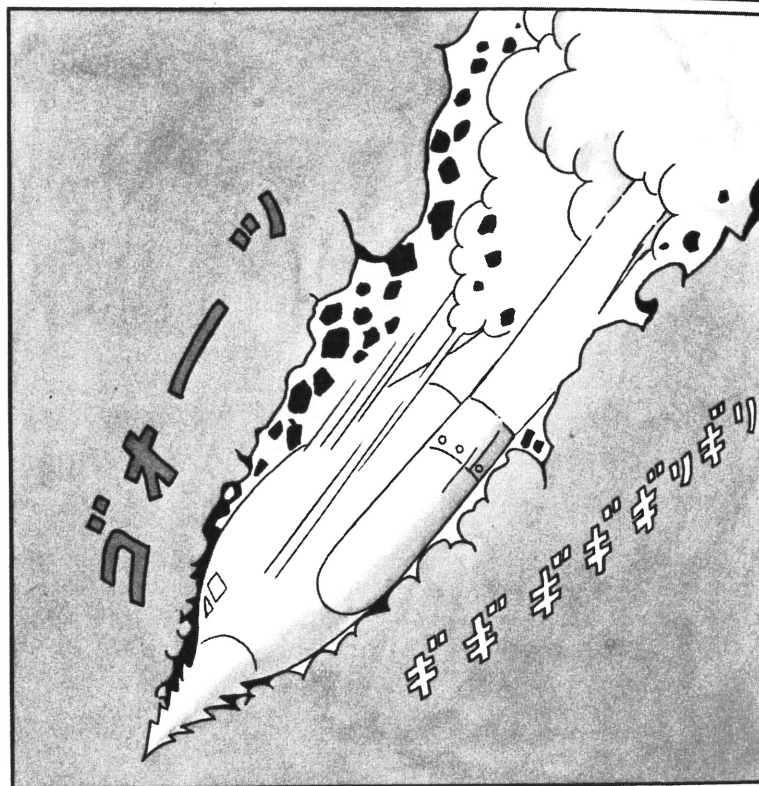
しかしそれは  
たいへんな  
仕事ですな



いい考えが  
あります  
あのロケット列車に  
特別の装置をして  
あれからで  
トンネル  
をほって  
いけばいいと  
思います

ウンなるほど  
そいつア  
簡単で  
すばらしい







金の  
鉱脈が  
露出して  
いるのさ

あの  
キラキラ  
光っている  
のは何で  
しょう



地球の中って  
どこまでいっても  
岩ばかりなん  
ですね

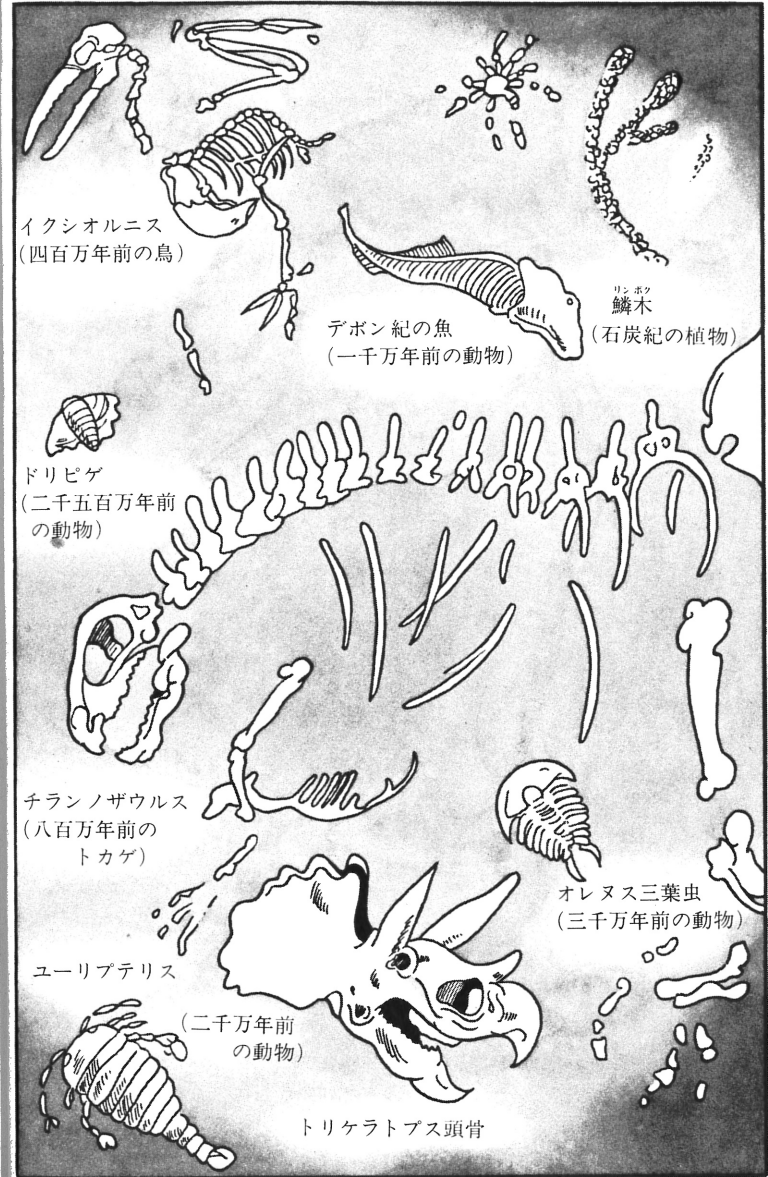
ぼくは  
地球の内部は  
溶岩のように  
どろどろして  
いるんだと  
思っ  
て  
ましたよ

溶岩なんて  
地球の表面に近い  
ところにはか  
ないんだよ



地球の表面から  
約百キロ  
ぐらいの  
深さまでは  
水成岩の  
ように  
わり  
に  
かる  
い  
岩石で  
できているんだ

それから地球の中心へ  
近づくと、  
重い金属や岩が多くなり  
地球の中心は半径三千キロぐらいの  
鉄とニッケルのかたまり  
なんだそうだよ



イクシオルニス  
(四百万年前の鳥)

デボン紀の魚  
(一千万年前の動物)

リンゴノ  
鱗木  
(石炭紀の植物)

ドリビゲ  
(二千五百万年前  
の動物)

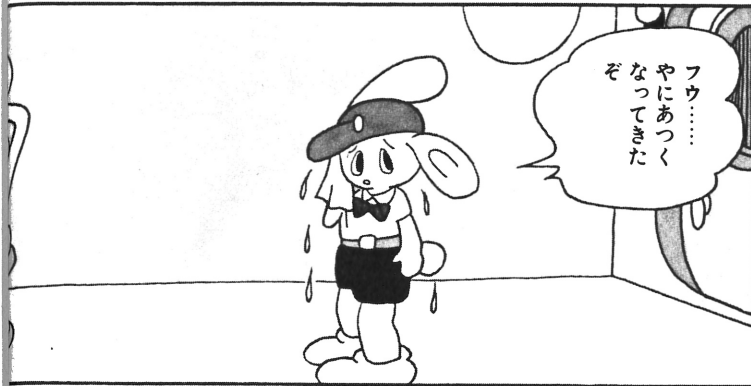
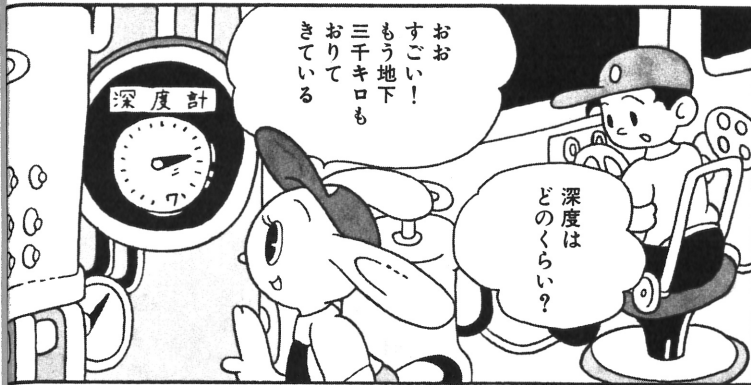
チランノザウルス  
(八百万年前の  
トカゲ)

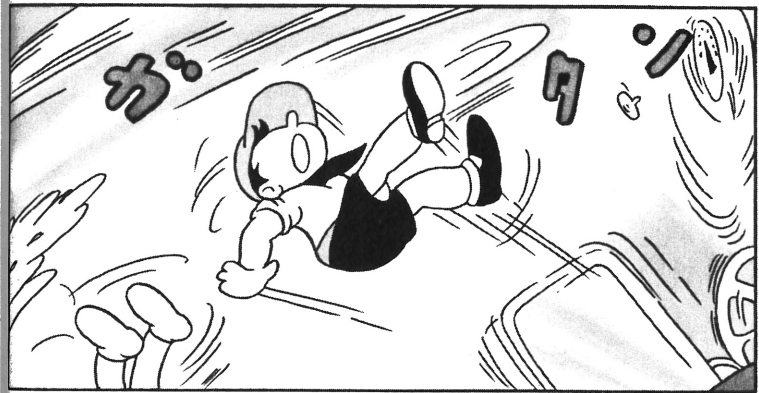
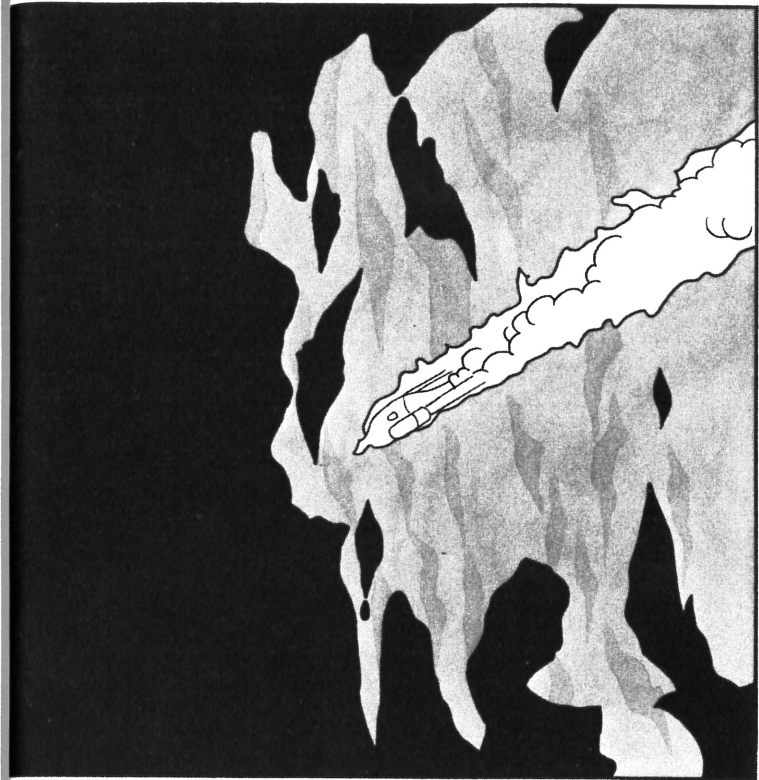
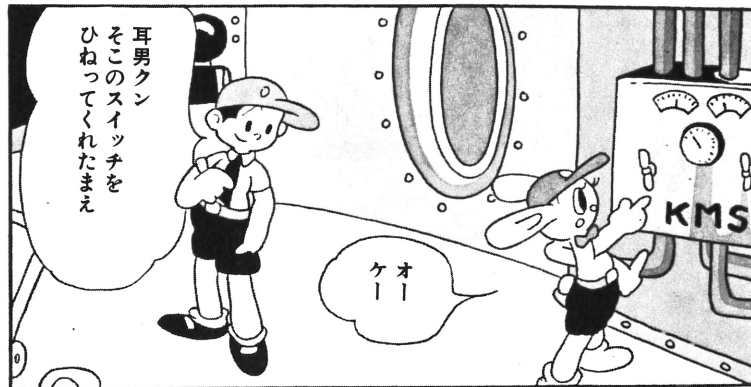
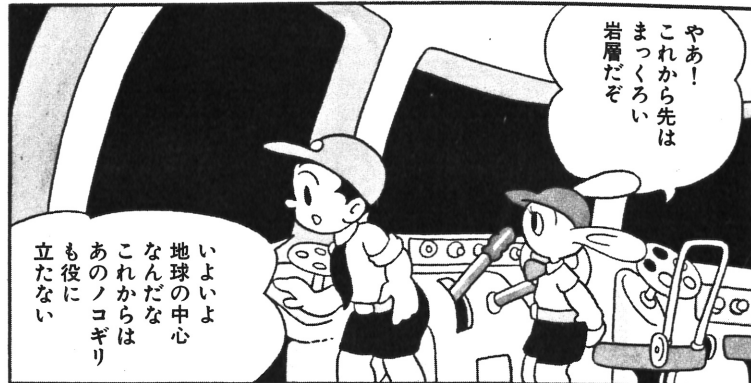
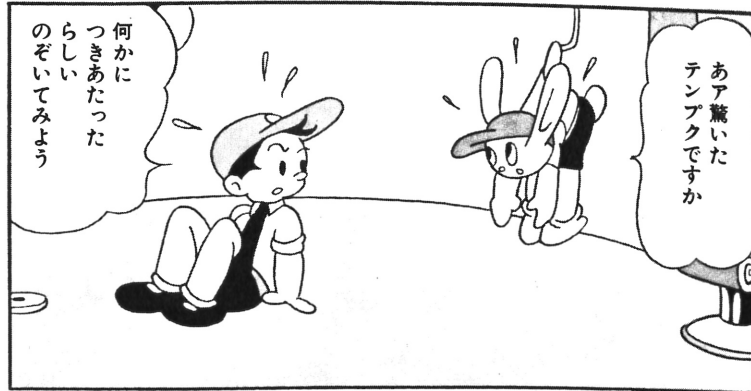
オレヌス三葉虫  
(三千万年前の動物)

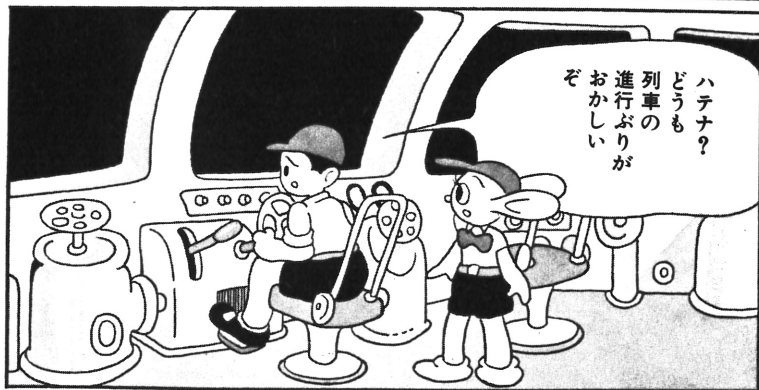
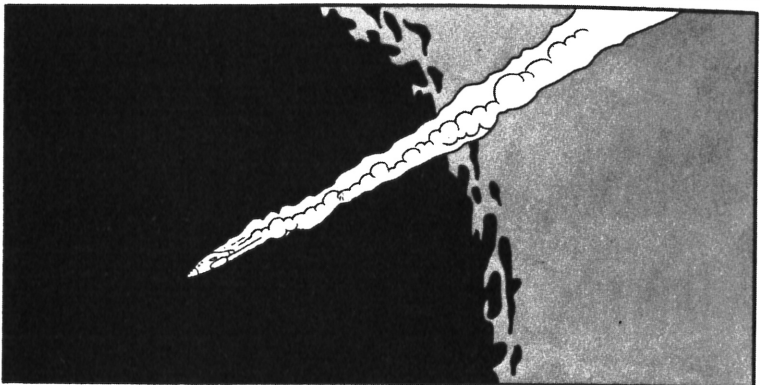
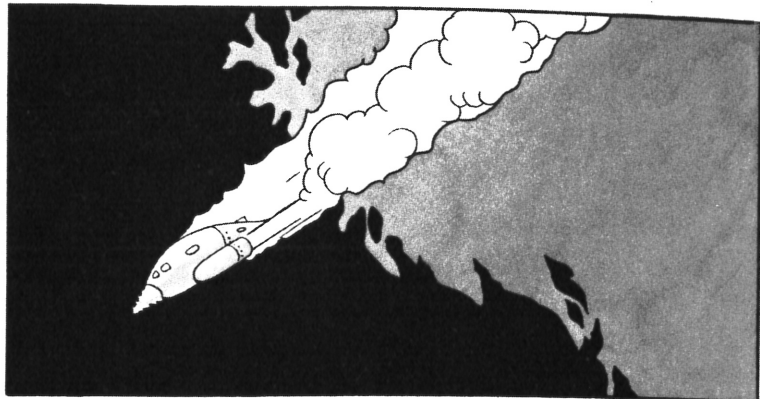
ユーリプテリス  
(二千万年前  
の動物)

トリケラトプス頭骨

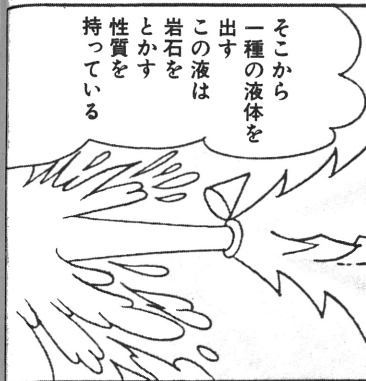








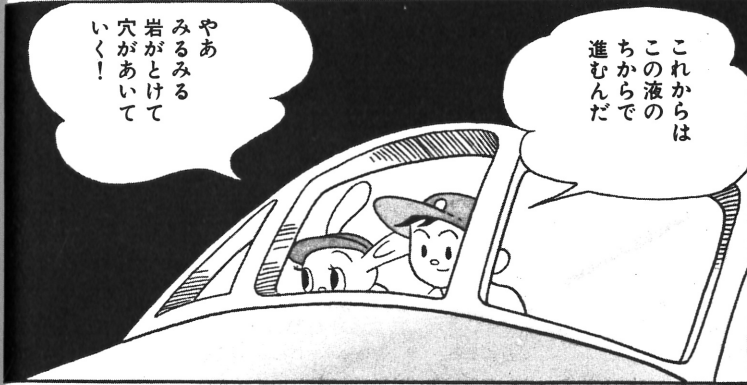
ハテナ？  
どうも  
列車の  
進行ぶりが  
おかしい



そこから  
一種の液体を  
出す  
この液は  
岩石を  
とかす  
性質を  
持っている

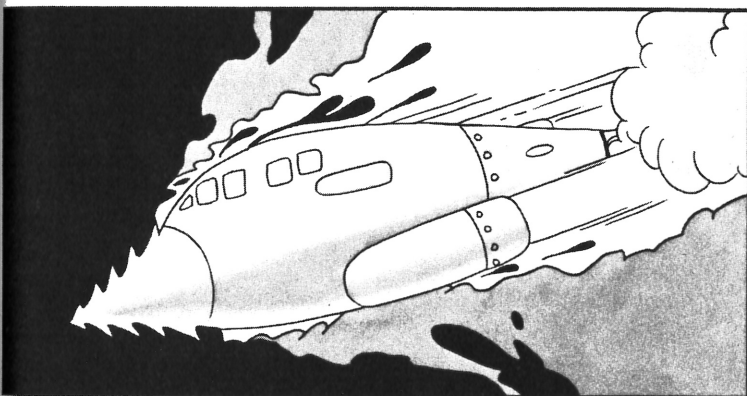


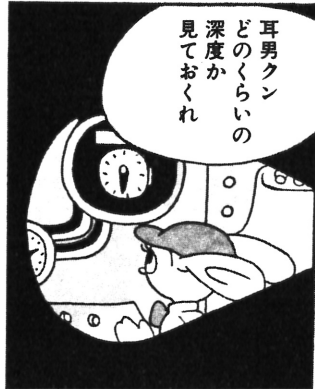
スイッチを  
ひねると  
ロケットの  
先の口が  
あき



これからは  
この液の  
ちからで  
進むんだ

やあ  
みるみる  
岩がとけて  
穴があいて  
いく！

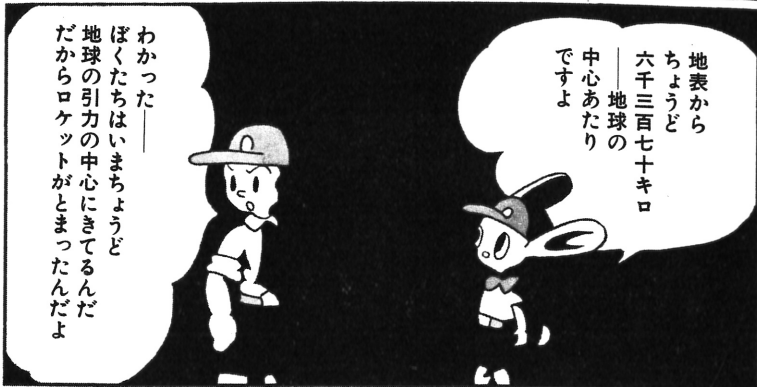




耳男クン  
どのくらいの  
深度か  
見ておくれ



とうとう  
とまっちゃった  
ふしぎだ！  
故障でも  
ないのに



地表から  
ちようど  
六千三百七十キロ  
地球の  
中心あたり  
ですよ

わかった  
ぼくたちはいまちようど  
地球の引力の中心にきてるんだ  
だからロケットがとまっただよ

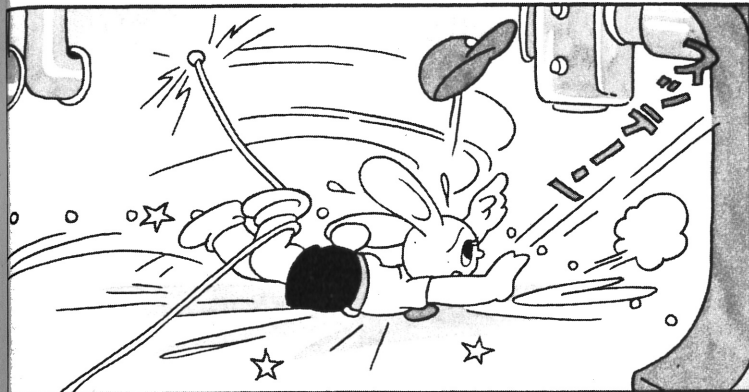


しかたがない  
外へ出て  
みよう



列車が  
とまりそうだ！  
耳男クン  
ボンヤリ  
つっ立って  
いないで！

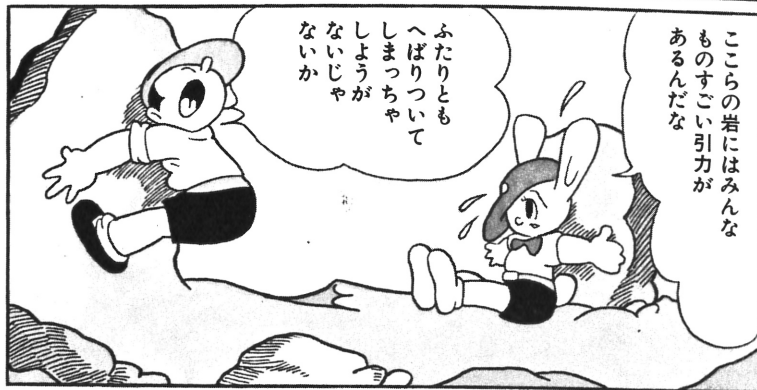
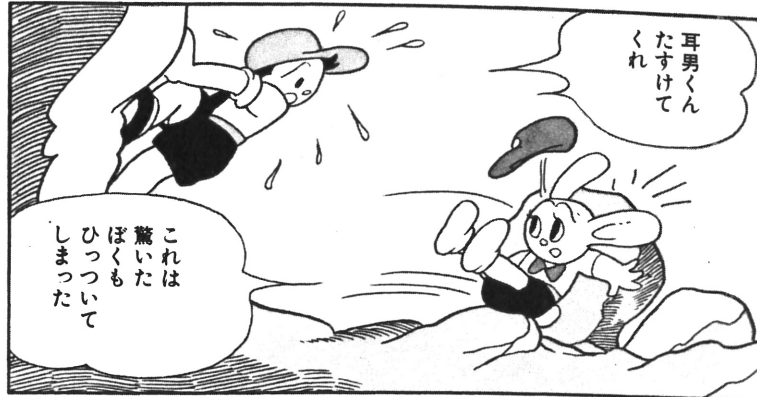
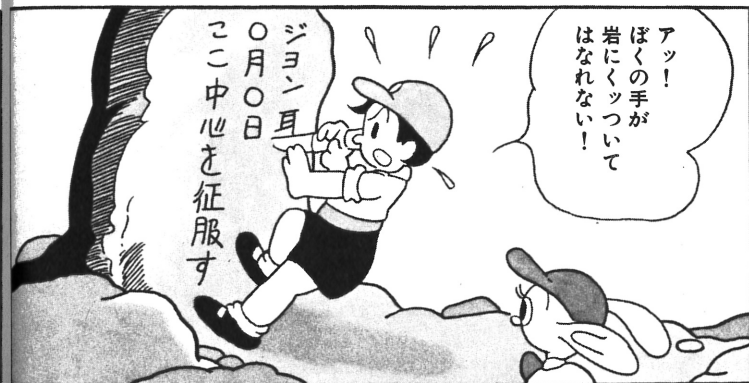
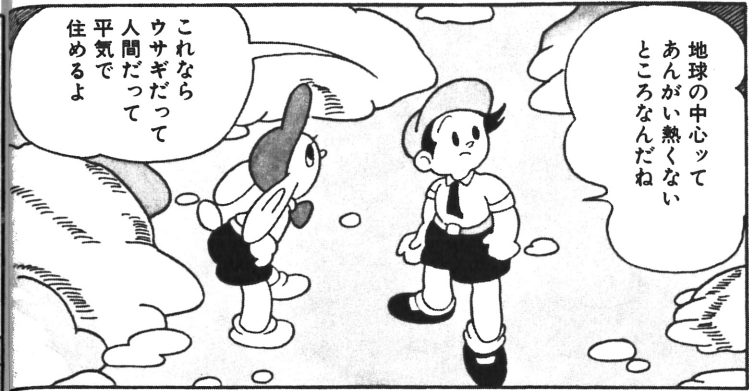
早く早く  
そっちのボタンを  
押してッ！



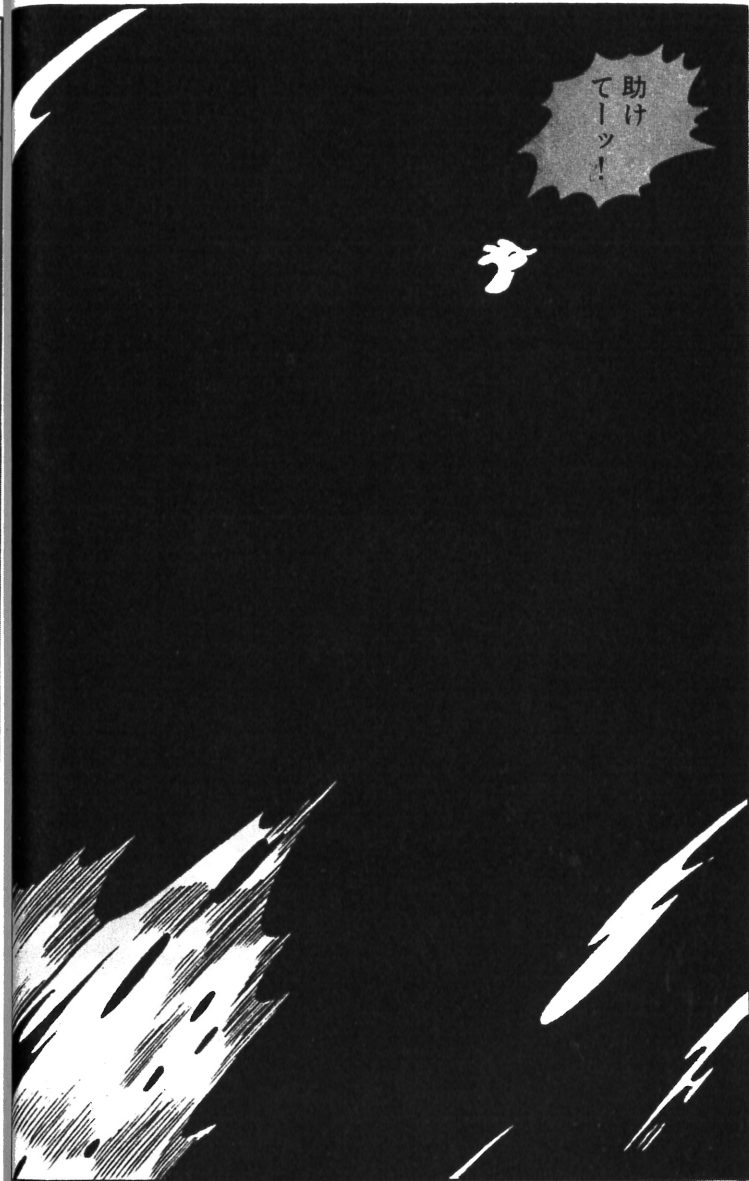
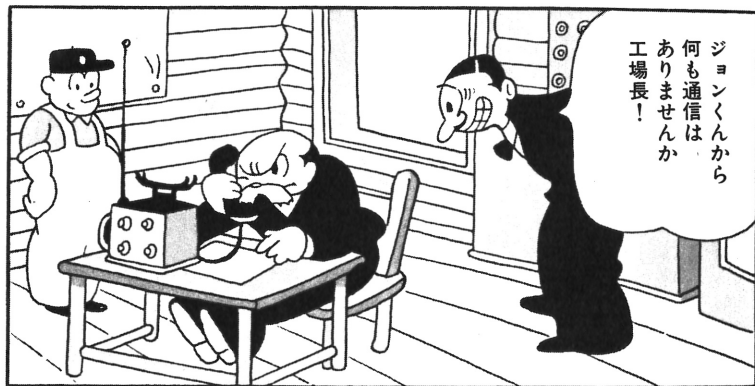
ごめんなさい  
電灯線を  
切っちゃい  
ました

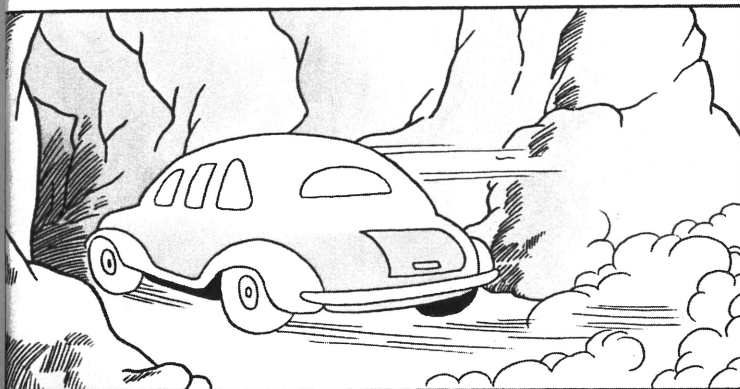
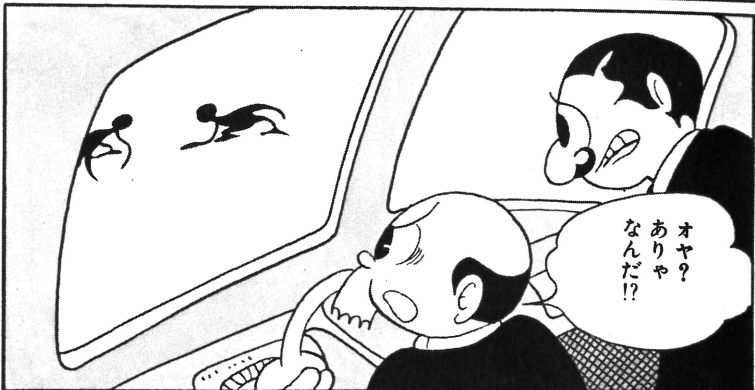
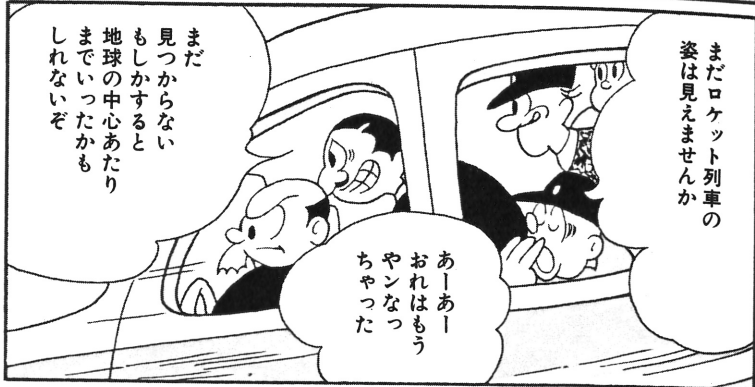
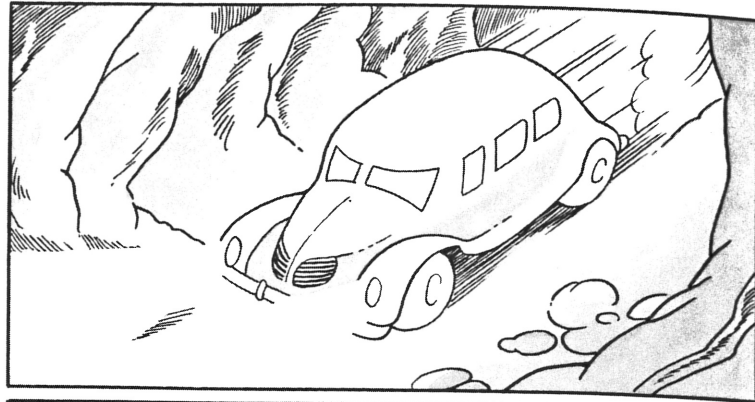
どうしたん  
だ？  
電灯が  
消えちゃっ  
たぞ



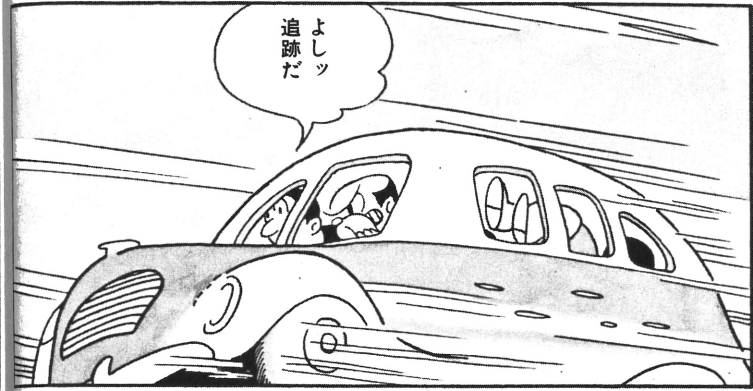
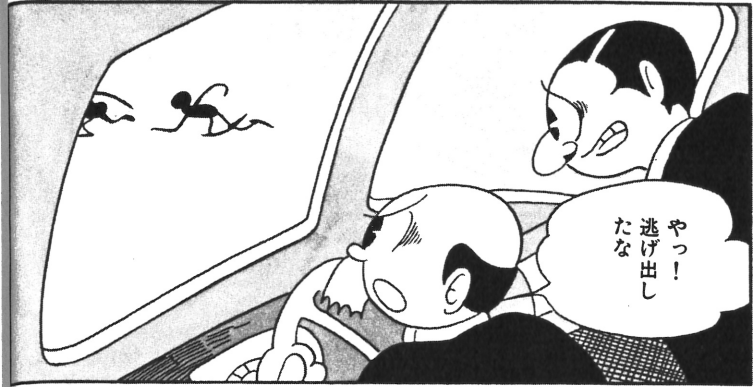
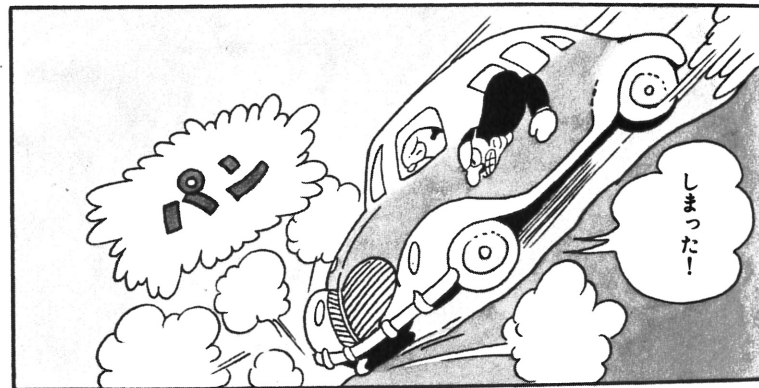
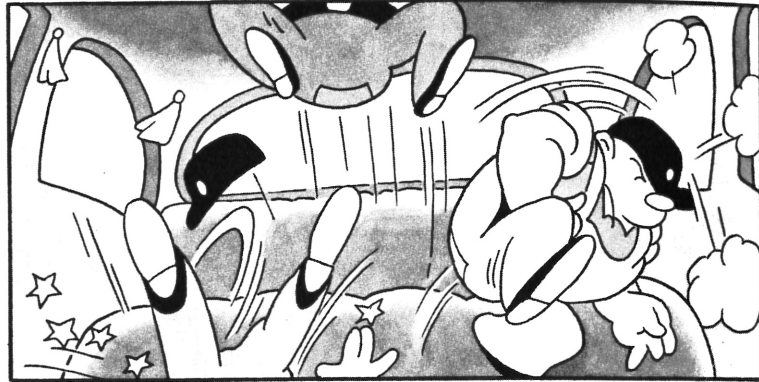
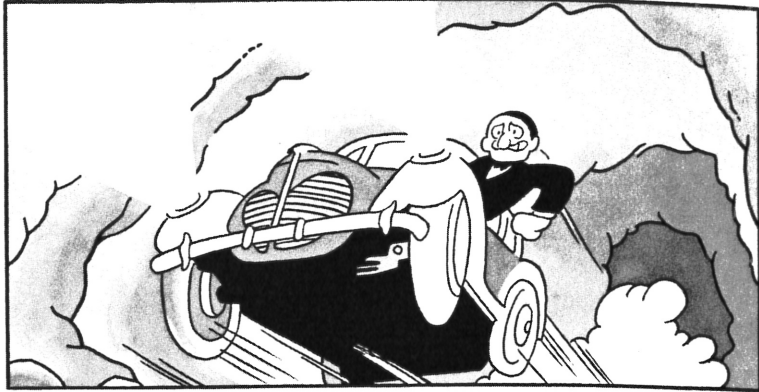


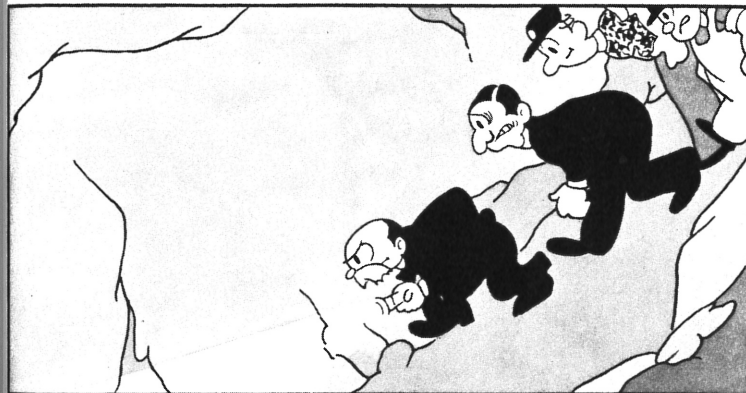
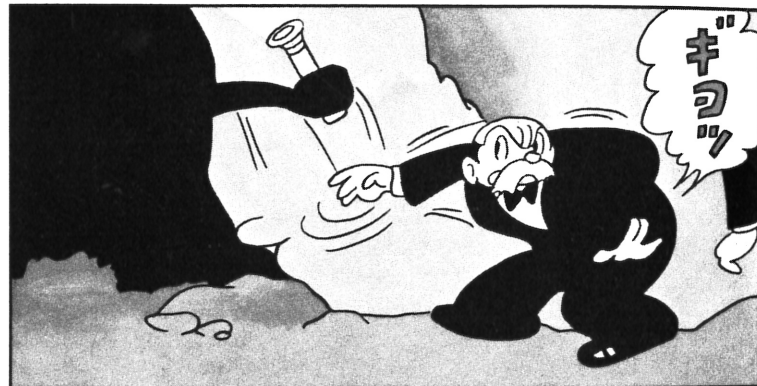
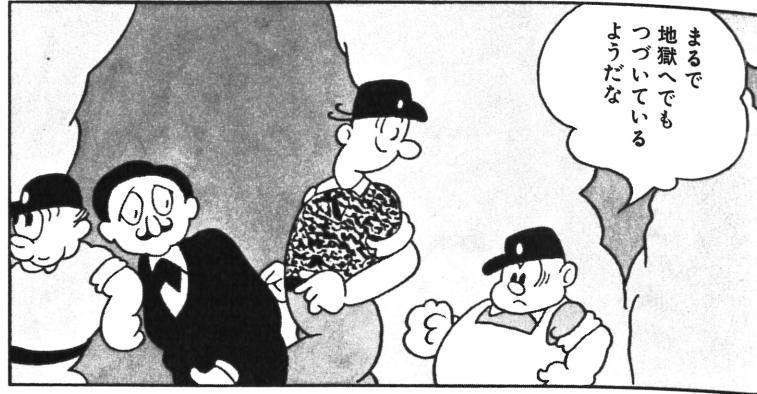






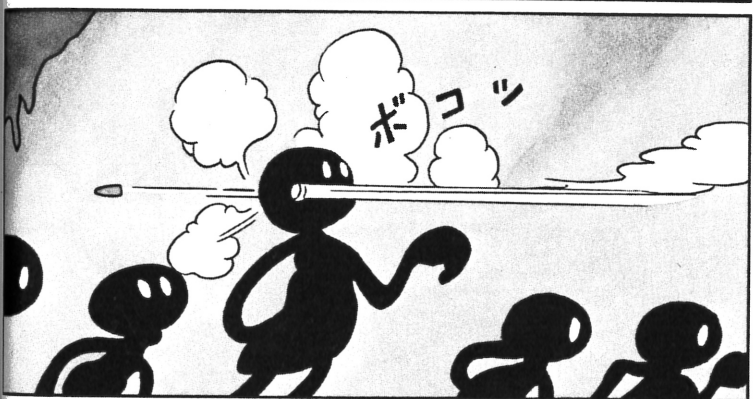
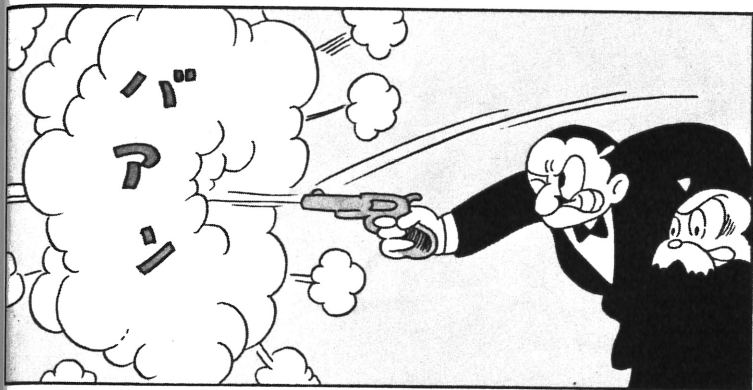
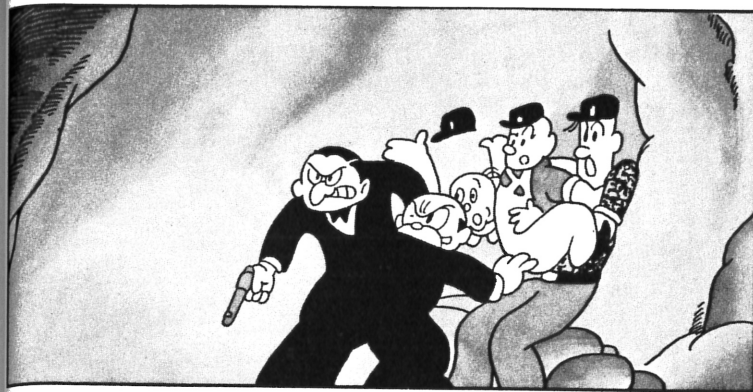




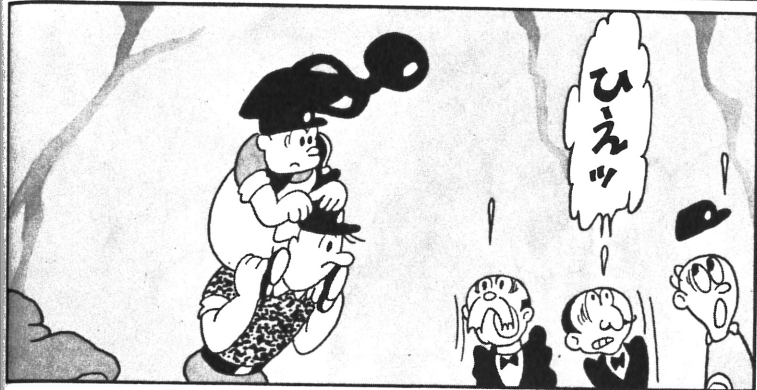
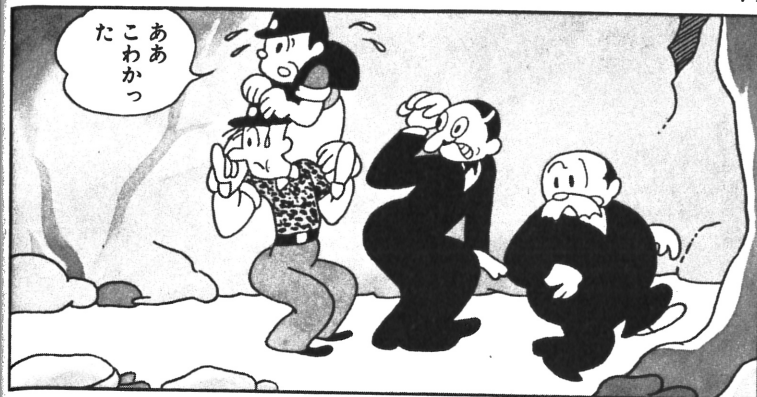
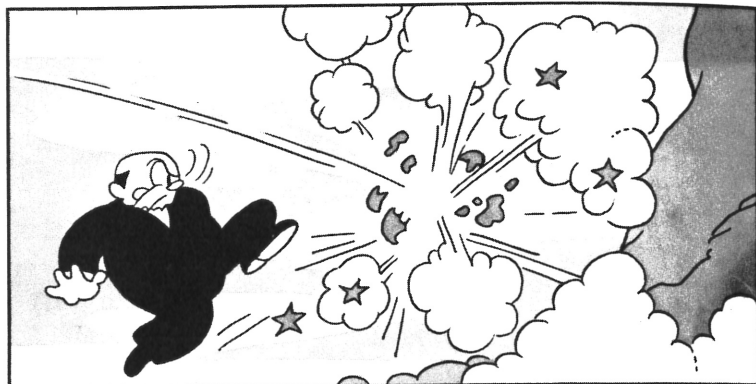
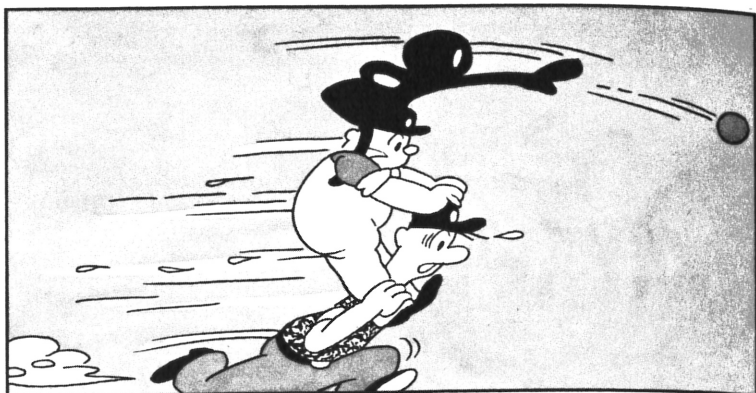


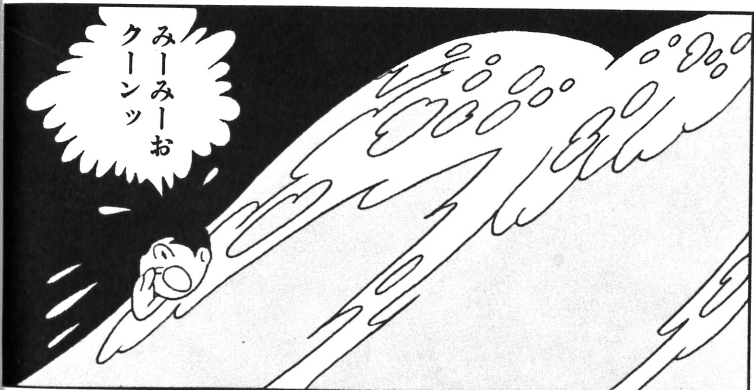
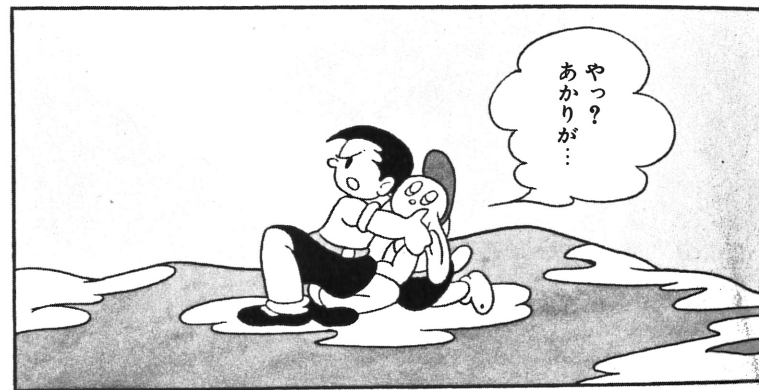
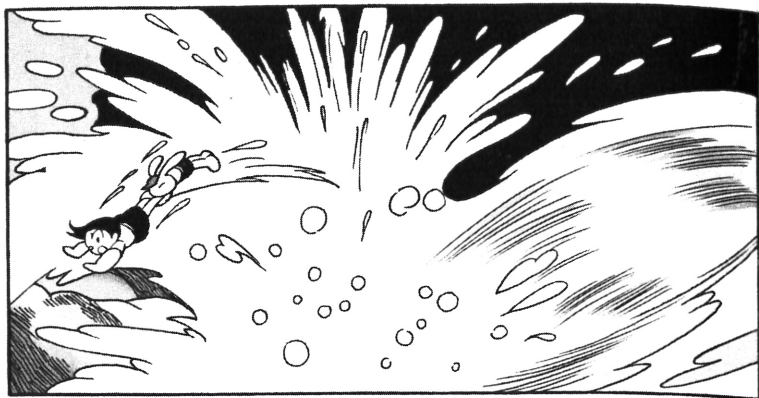


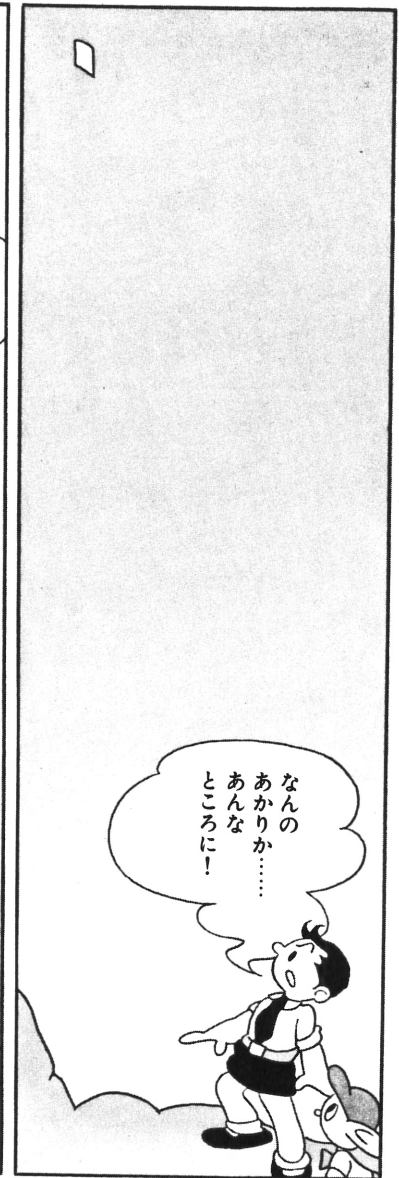
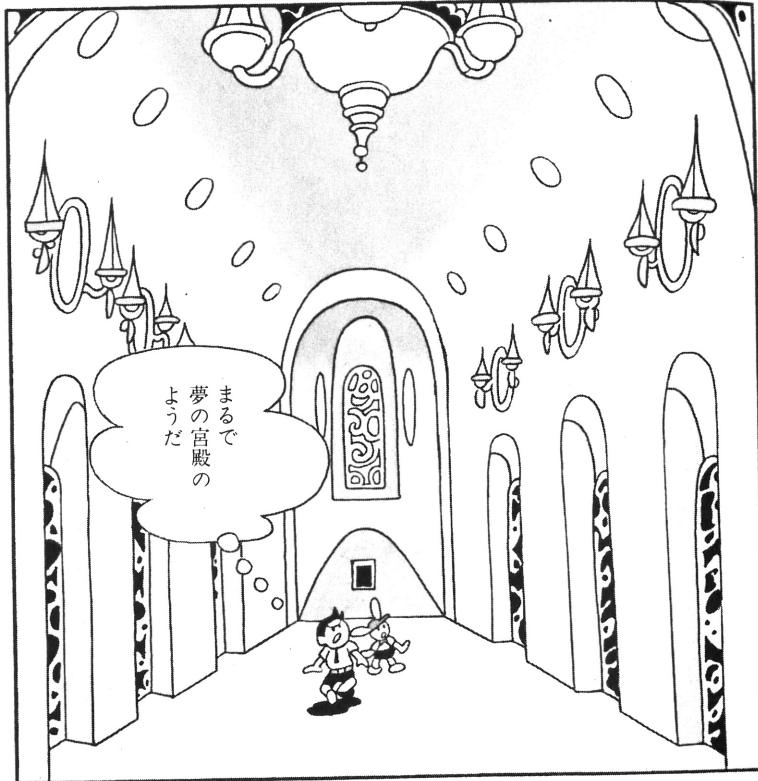
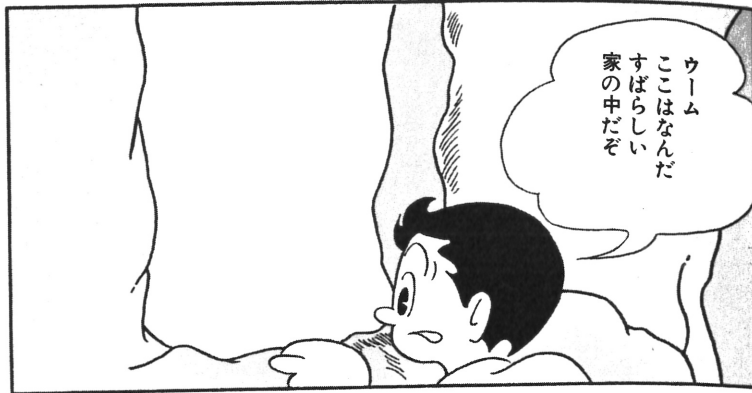


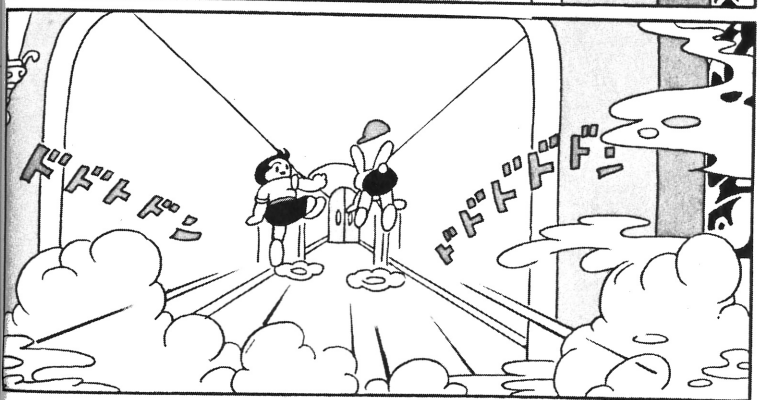
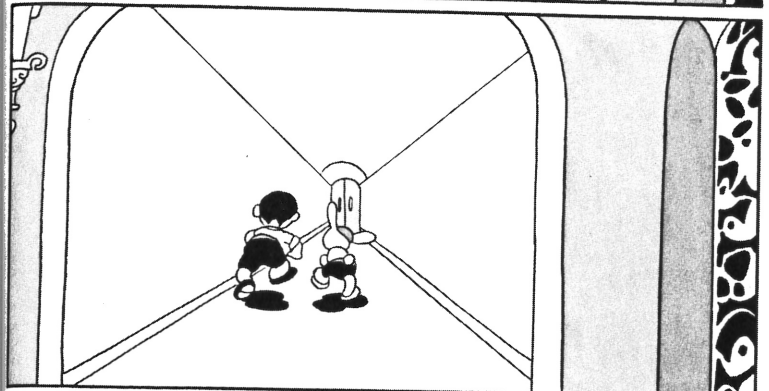
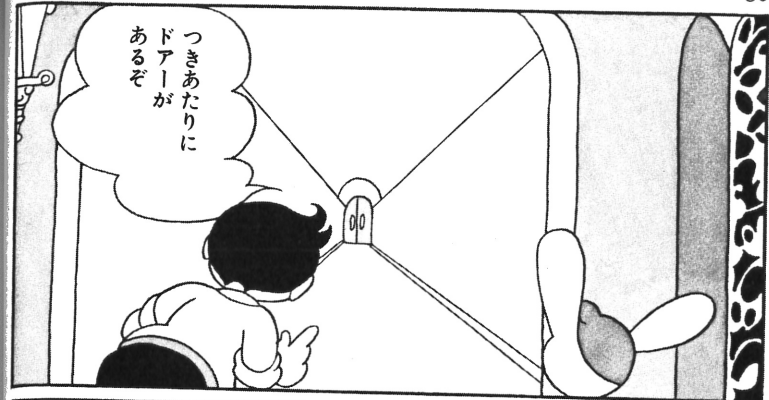
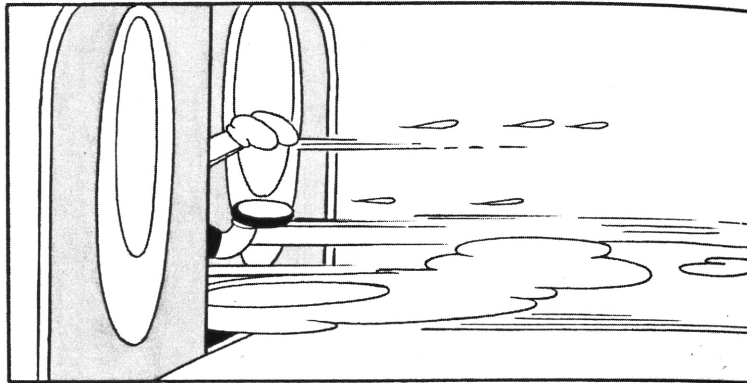
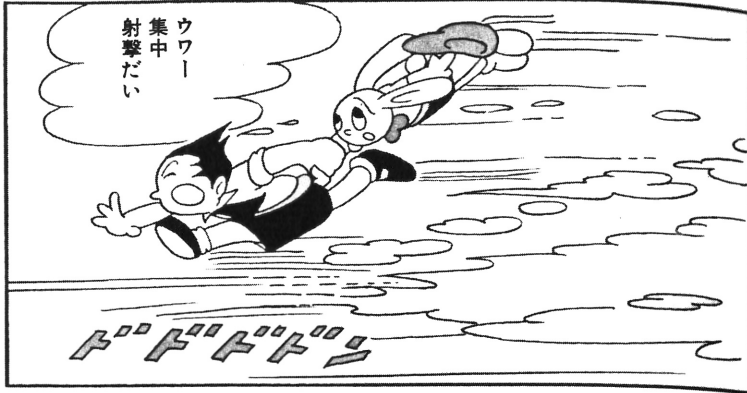




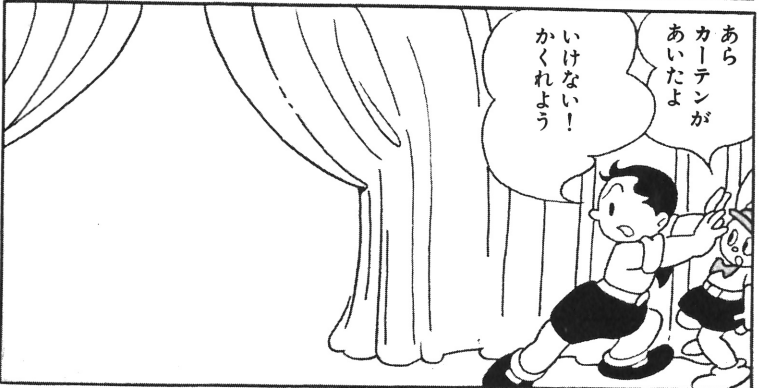
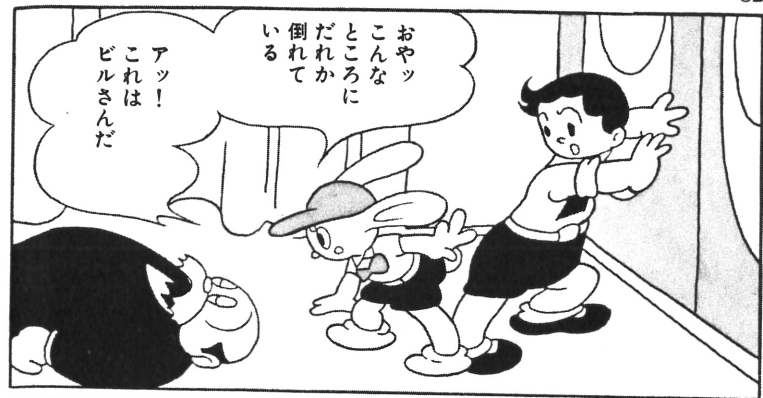
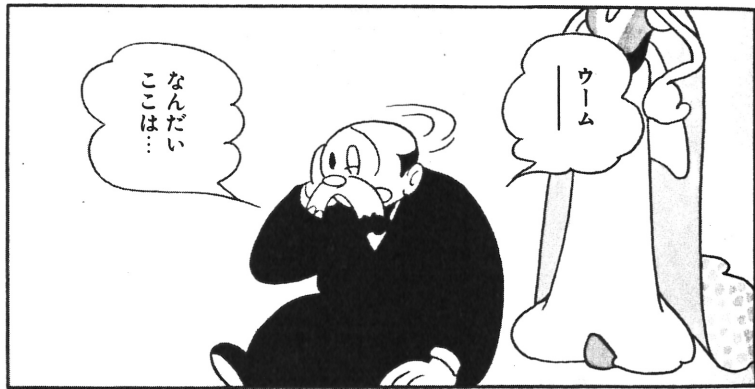






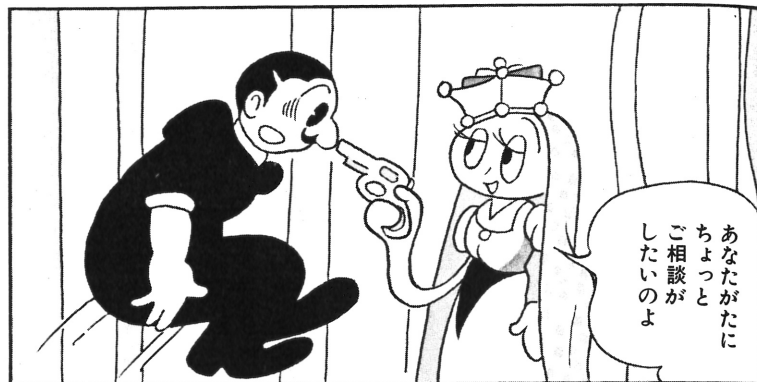








オット いけないいけない  
これはあなたのピストルよ  
弾がこもってますよ



あなたがたに  
ちよつと  
ご相談が  
したいのよ

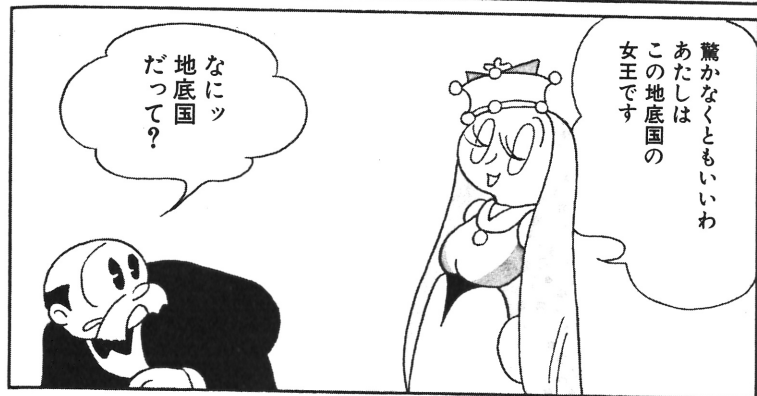


まず  
あたしたちの  
身の上を聞いて  
くださいな

しかたがない  
なんだい  
相談ってのは

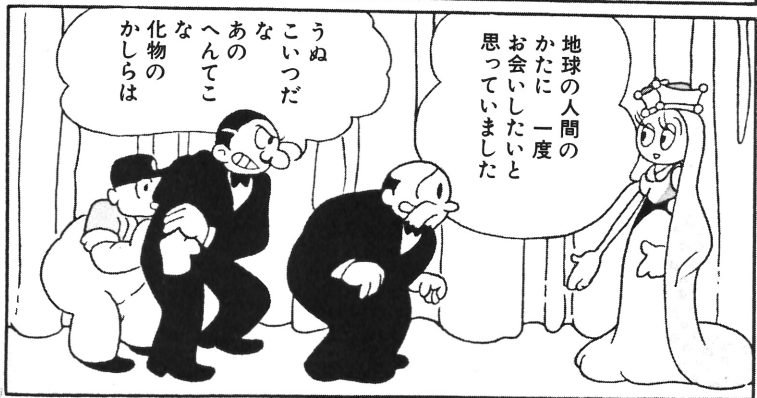


ウワッ  
きさまは  
だれだッ



なにッ  
地底国  
だって？

驚かなくともいいわ  
あたしは  
この地底国の  
女王です



地球の人間の  
かたに一度  
お会いしたいと  
思っていました

うぬ  
こいつだ  
あの  
へんてこ  
な  
化物の  
かしらは

## 石炭紀

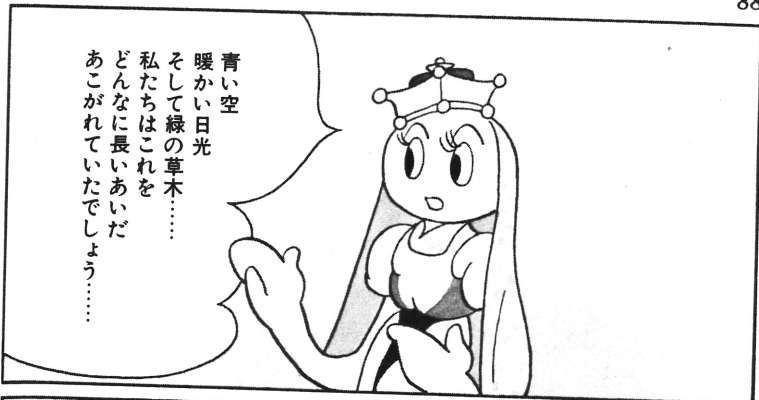


地球がまだ  
石炭紀と呼ばれる古いむかし  
私たちの祖先は  
この地上でたのしく  
生活していました  
ところがその後  
巨龍や怪獣や人間たちが  
地上に現れて栄えたため  
私たちの祖先は追われて  
地下へもぐって 地面の中で  
住まなければならなくなりました



——それ以来  
何百万年ものあいだ  
私たちは暗い地下で  
生活してきました  
しかし、いつかはふたたび  
地上でくらすことができる  
という希望を持って——  
そしていまではいつでも  
地上へ出られるだけの  
準備ができています  
地上へ攻めのぼって  
あらゆる動物を征服し  
私たちの世界をつくるだけの  
用意が……





青い空  
暖かい日光  
そして緑の草木……  
私たちはこれを  
どんなに長いあいだ  
あこがれていたでしょう……



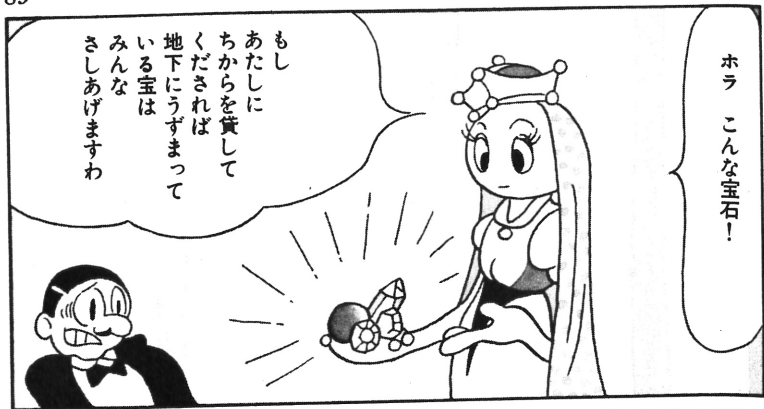
人間は陸も海も  
空も征服した……

そして今度は  
地球の中まで  
はいって来た  
ああ もう  
がまんが  
できないわ！



サア  
命がおしかったら  
おとなしく  
あたしのいうことを  
おきなさい

あたしの  
地上征服の  
仕事を  
手伝ってくれる？  
イエス？  
ノウ？



ホラ こんな宝石！

もし  
あたしに  
ちからを貸して  
くだされば  
地下にうずまって  
いる宝は  
みんな  
さしあげますわ

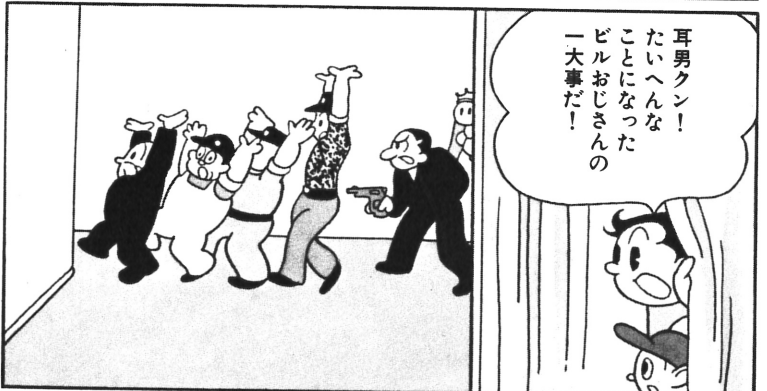
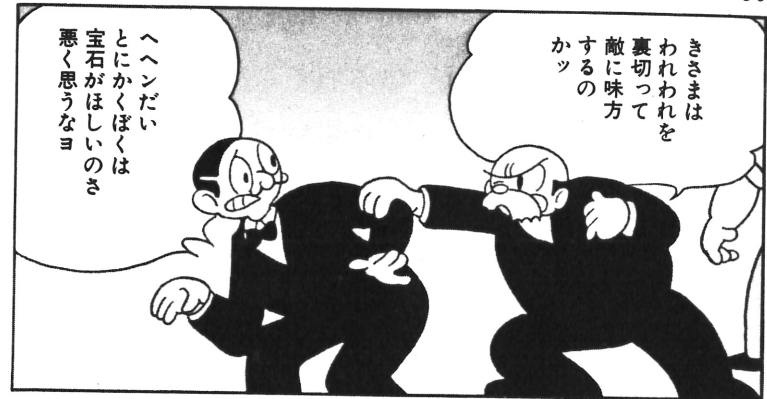
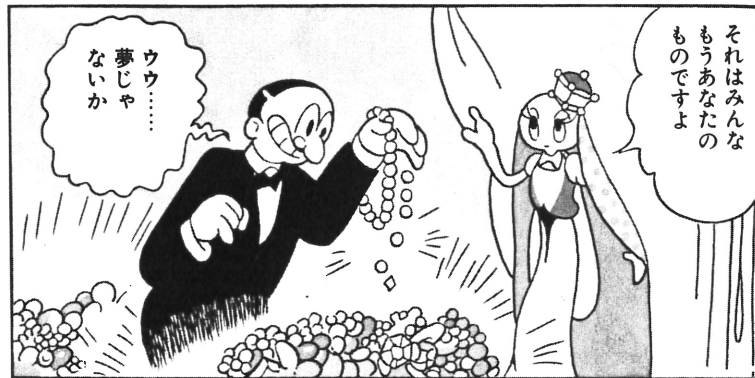
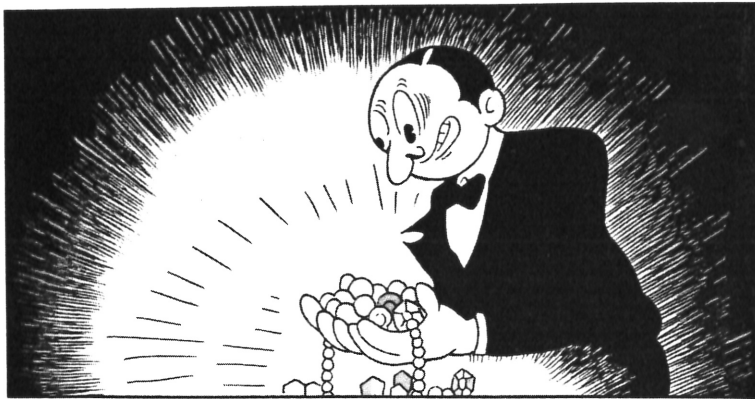


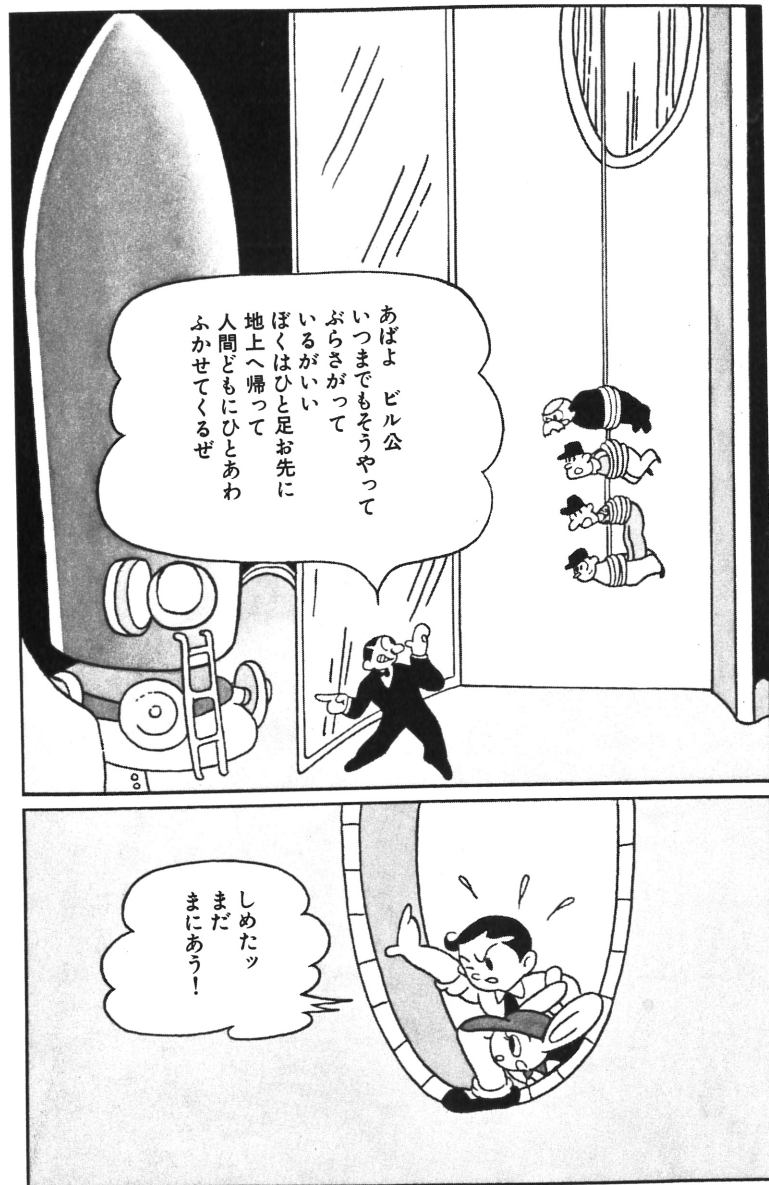
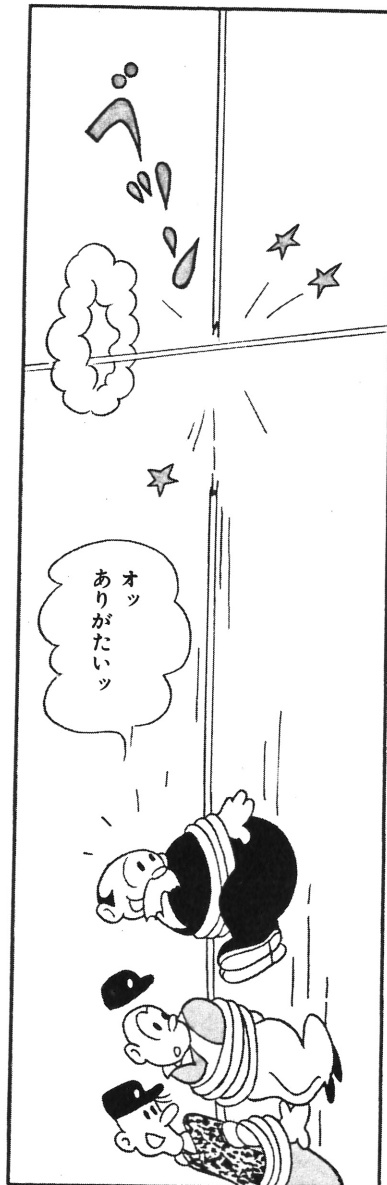
おお……  
これは  
すばら  
しい……  
いまま  
いったことは  
ほんとかね

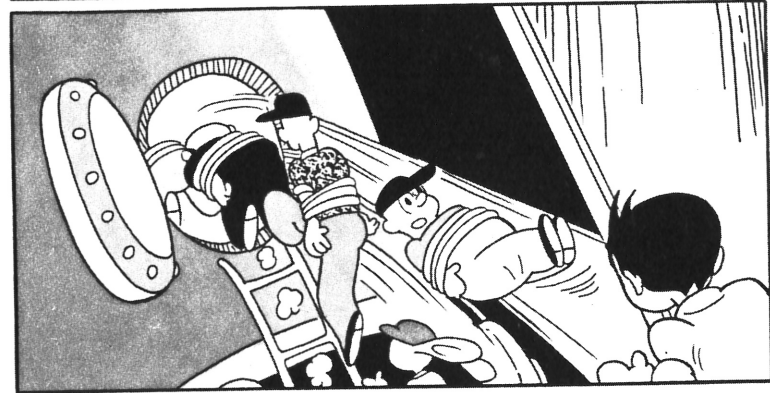
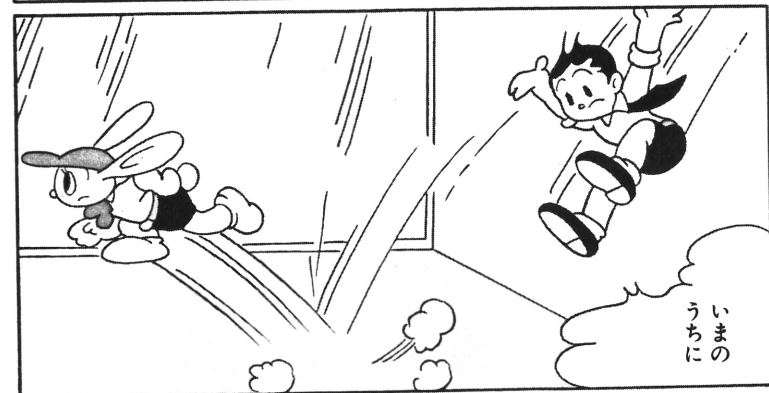
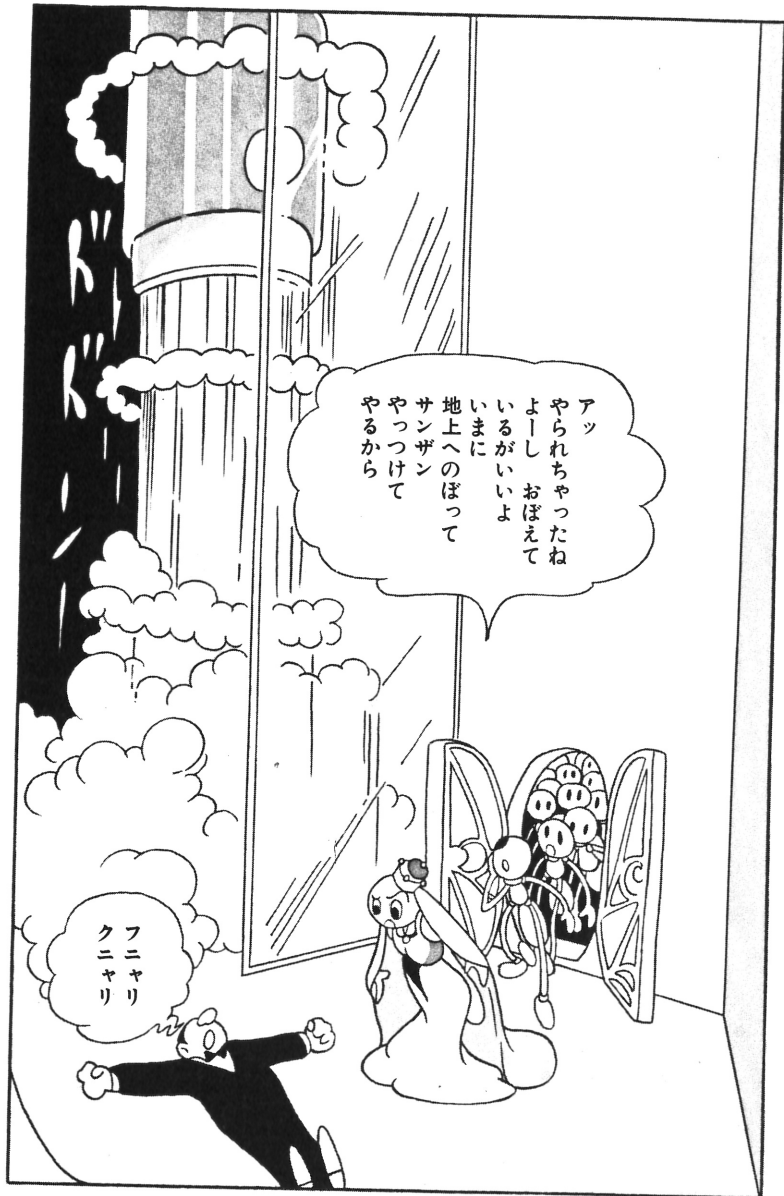


よし……  
ぼくは  
あなたの  
味方に  
なろう！

待てッ  
ハム・  
エッグ！

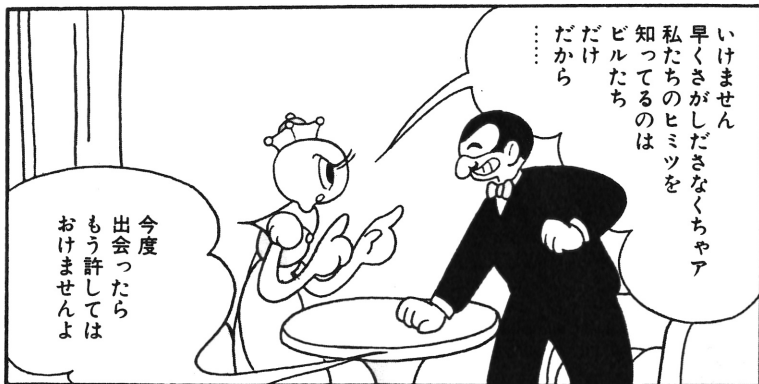














地底国の  
ロケットを奪って  
地上へ帰って  
きたのはいいが  
カンジンの  
ロケット列車を  
地球の中心へ  
忘れてきてしまった

だからこうして  
ロケット列車  
もう一度  
地底に  
ゆくんじやよ

ぼう?!

ビルおじさん  
地底国の  
あのみような  
生きものはいい  
なんでしょう

ぼくは  
白アリか  
何かの  
昆虫が  
進化した  
もんだと  
思います



町はずれの  
一軒家にかくれて  
ロケット列車第二号  
建造に一生  
けんめいです

なに  
またロケットを  
つくって  
いるの  
か!

なまいきな  
まだこりずに  
地底へもぐろうと  
するんだねッ



OK

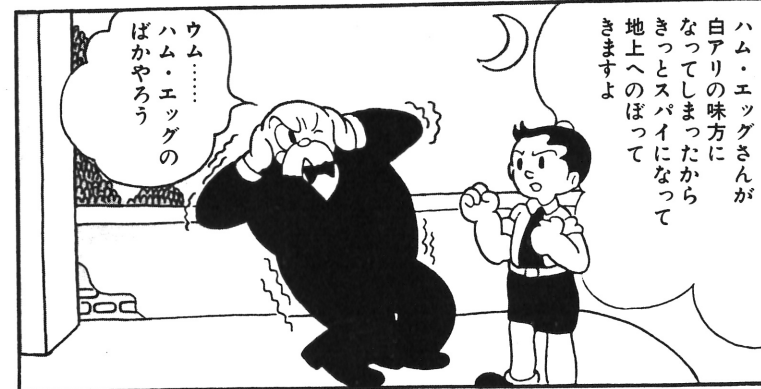
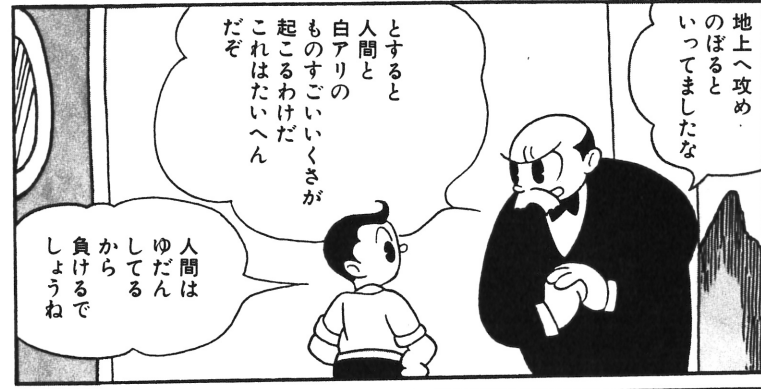
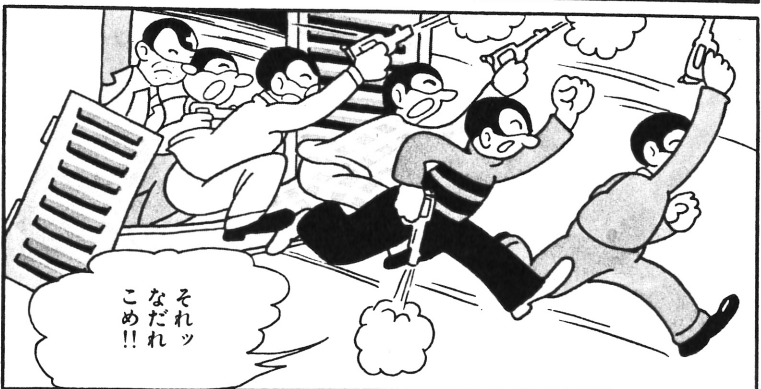
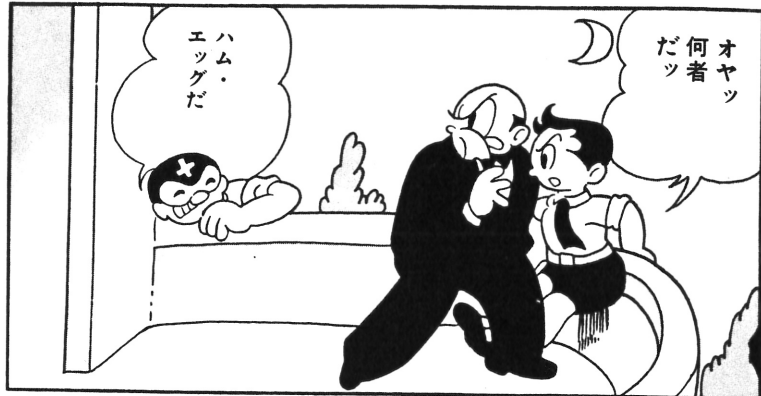
よしッ  
オイみんな  
ビルの居所が  
わかったぞ

いますぐ  
にでも押しかけて  
やつ息のねを  
とめッちまえ!

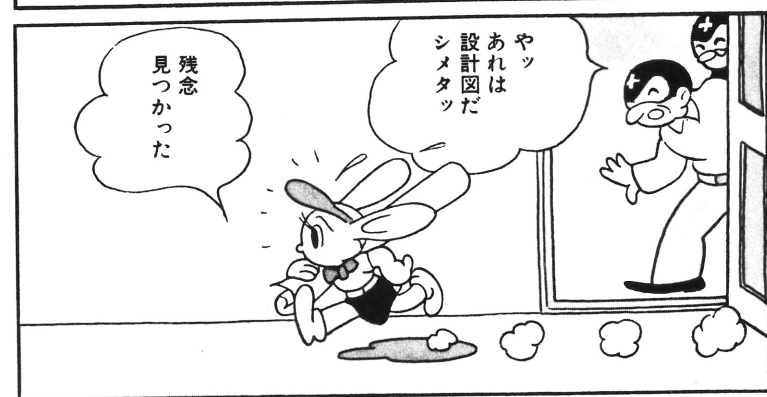
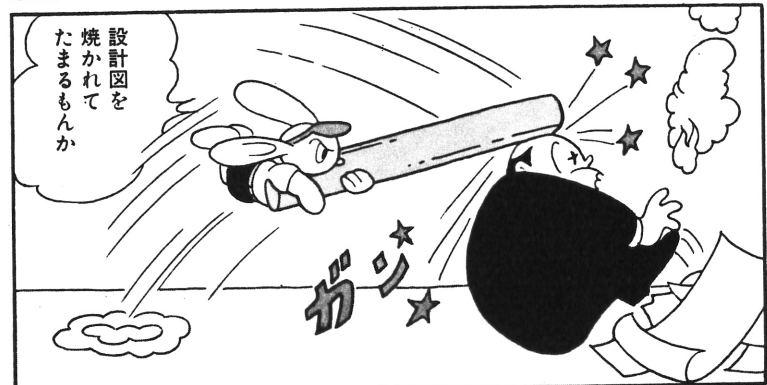
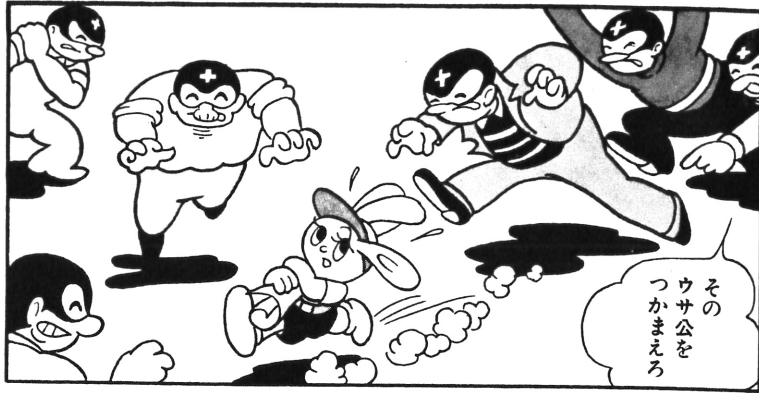


あれが  
ビルの  
かくれがだ

ぬかるな

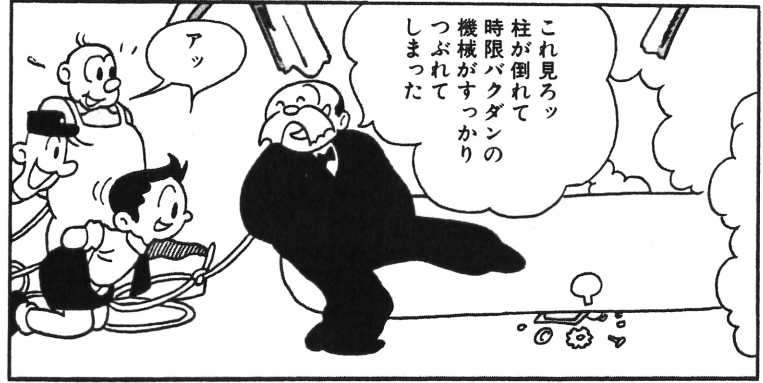
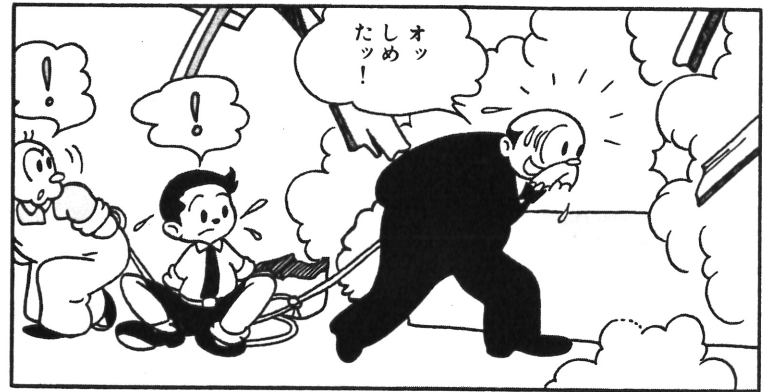


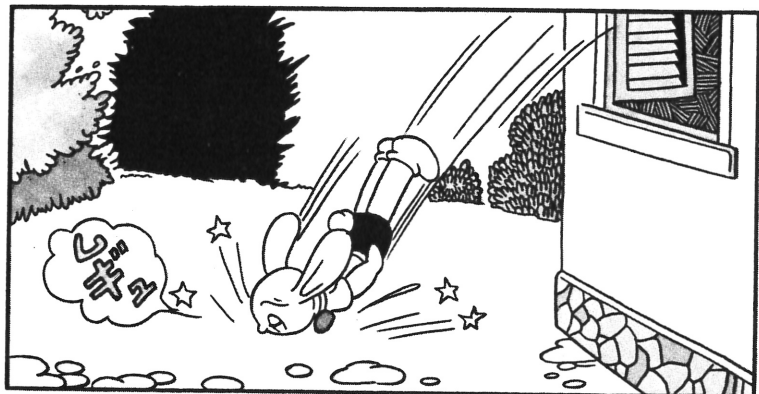
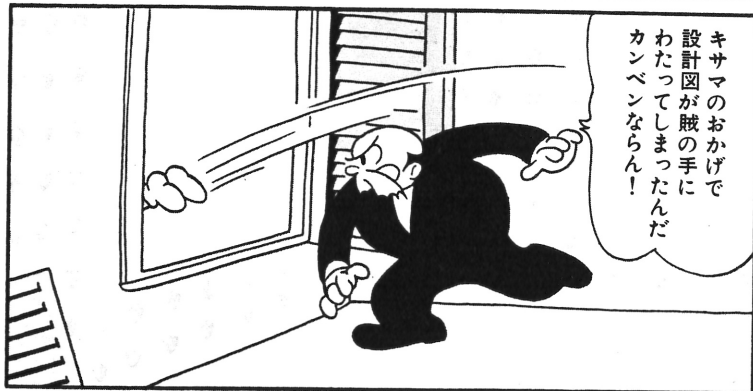
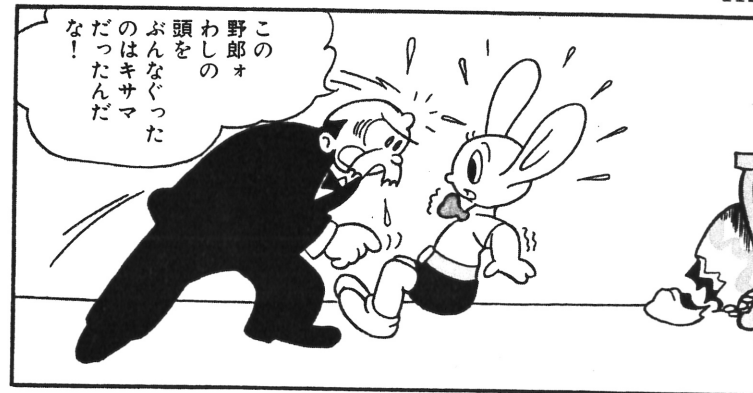


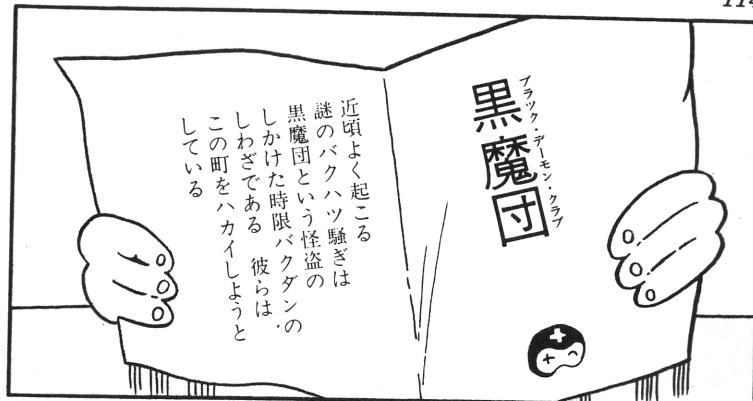
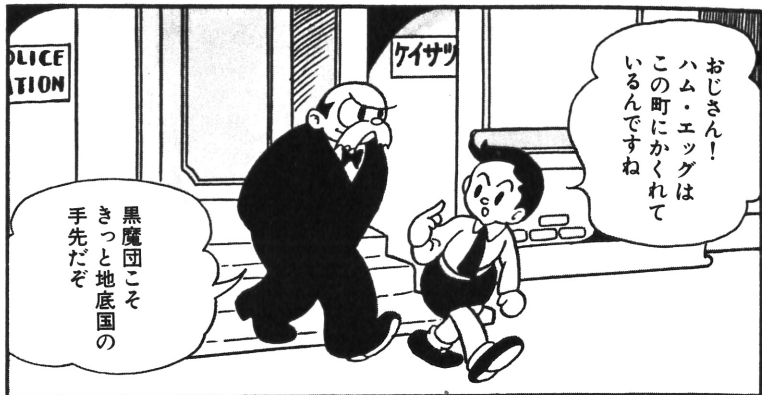


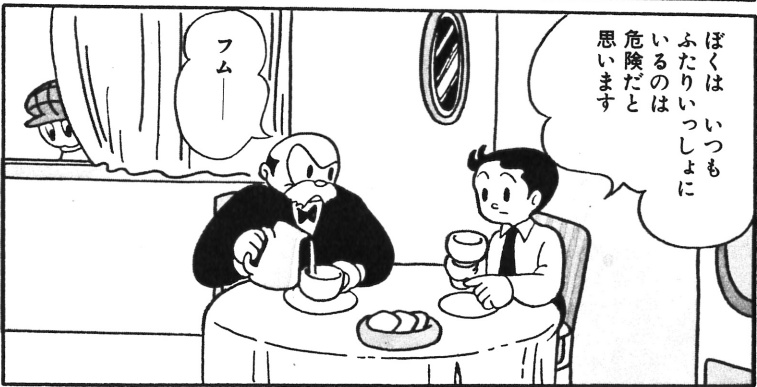
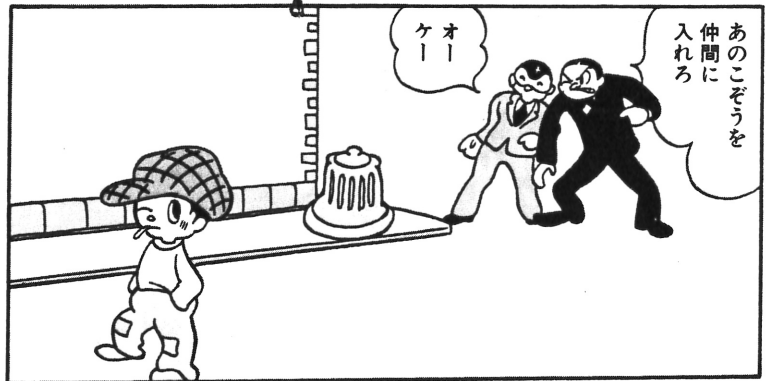
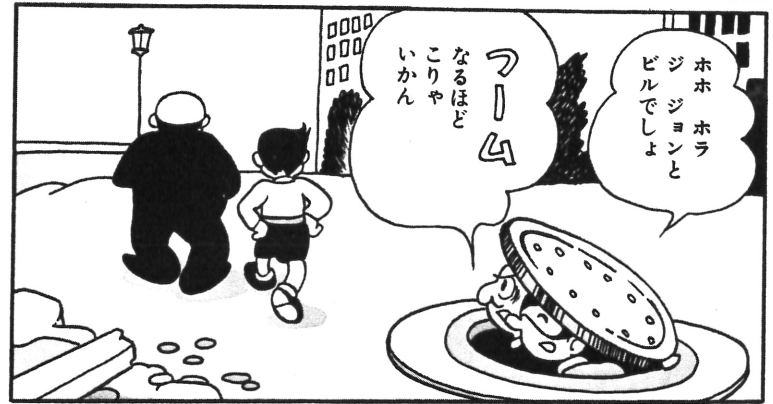




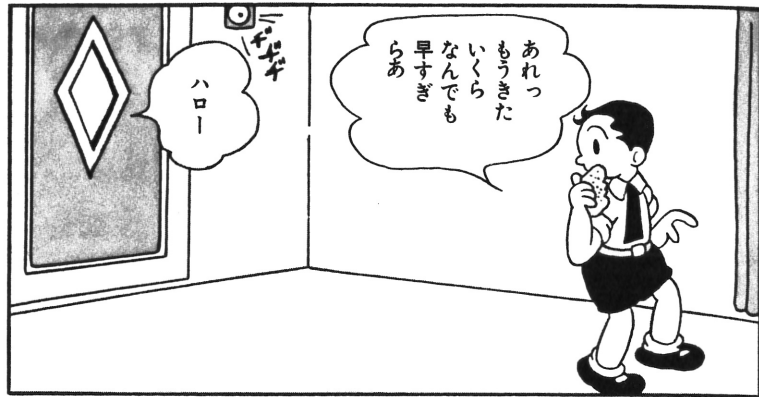












あれっ  
もうきた  
いくら  
なんでも  
早すぎ  
らあ

ハロー



ありやジョウゲンじゃやないぜ  
ないよ  
ここは幼稚園じゃア

大学から  
まいりました  
あたしミミーと  
申します  
よろしく

ウヘッ  
大学からきたん  
だッて？



どうも  
おか  
ない  
ア

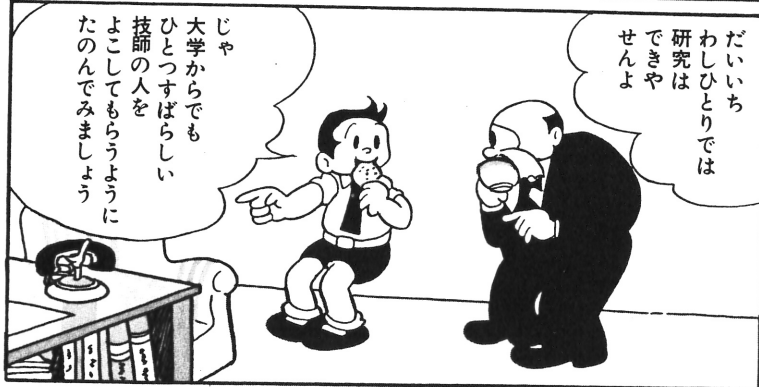
おかしけりや  
笑いなさい

あたし  
これでも  
りっぱな  
技師なのよッ



ふたりで彼らのかくれがへ  
のりこんでは  
目立つから  
ぼくひとり  
いきます  
おじ  
さんは  
あとに  
残って  
研究を  
していて  
ください

それは  
イカン  
万一  
キミのからだに  
もしものが  
あれば



だいいち  
わしひとりでは  
研究は  
できや  
せんよ

じゃ  
大学からでも  
ひとつすばらしい  
技師の人を  
よこしてもらうように  
たのんでみましょう



あー  
もしもし  
ノートル  
大学ですか  
ロケット列車  
工場へ  
腕のある  
技師を  
たのみます



おじさん  
ふたりの  
かくれがを  
見つけて  
きたよ

いい子だ  
いい子だ  
サア  
ごほうびを  
やるぞ



時限爆弾を  
目ざまし時計の  
中へ  
しかけて

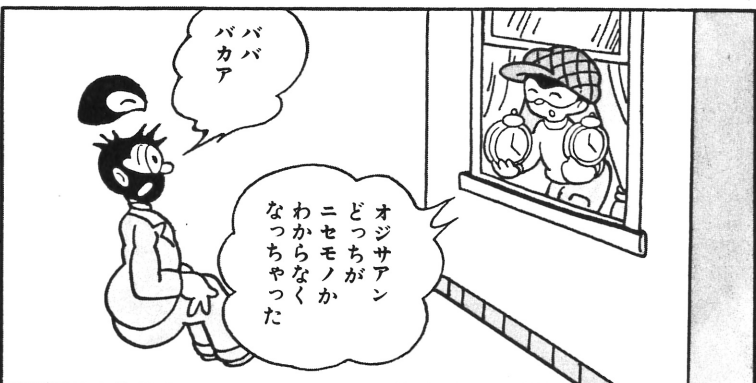
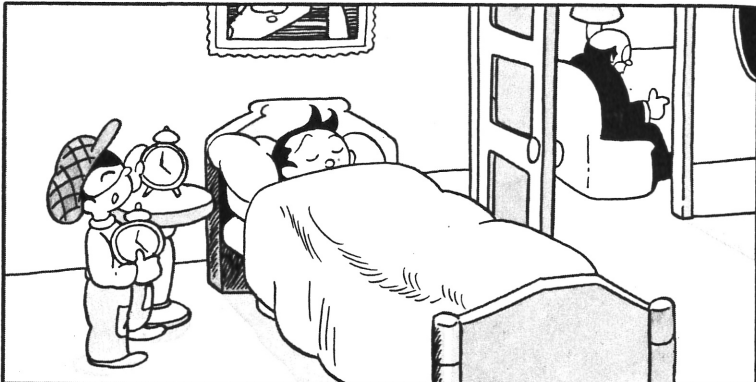
なるほど  
それは  
うまい  
考えだ



サア  
こぞう  
そのうちへ  
案内  
してくれ

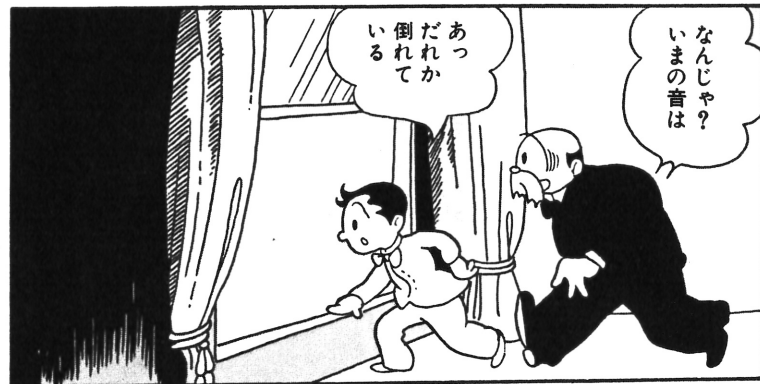


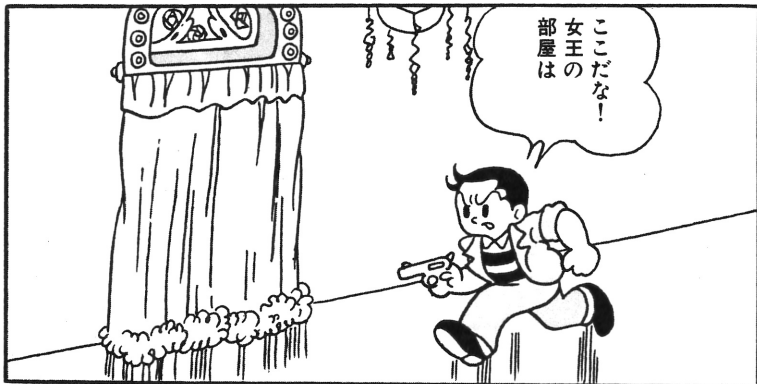
このうち  
か?  
ヨシヨシ  
それじゃ  
ひとつ  
おまえ  
中へしのび  
こんで  
このニセとほんもの時計  
とをすりかえてくるんだ

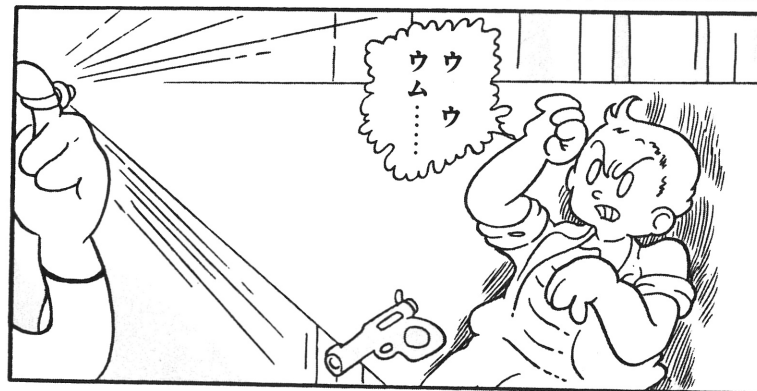
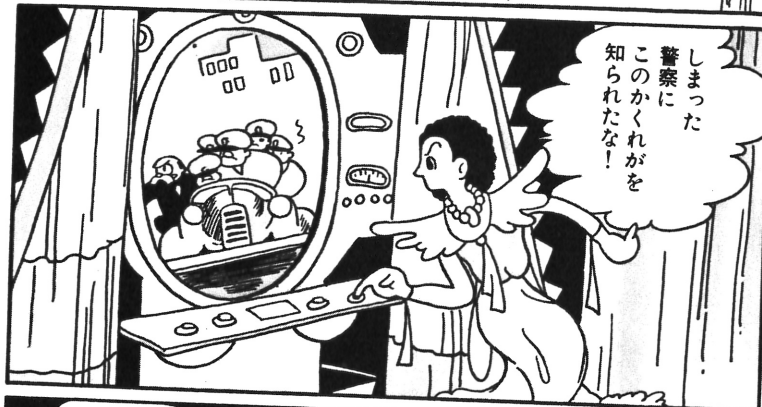


ババ  
アカア

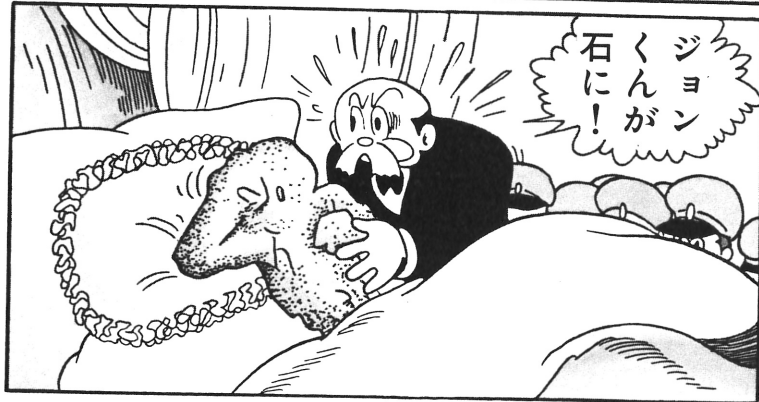
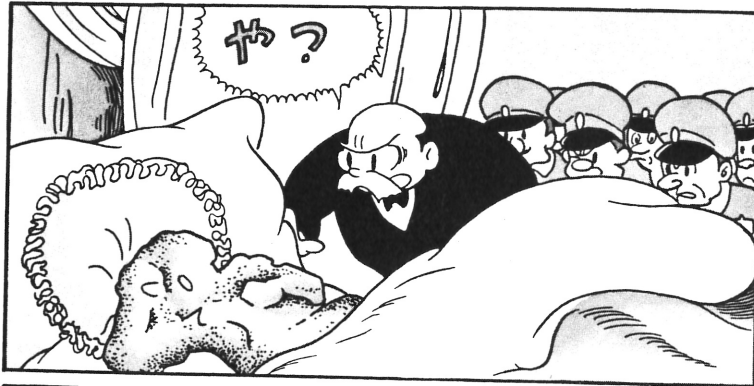
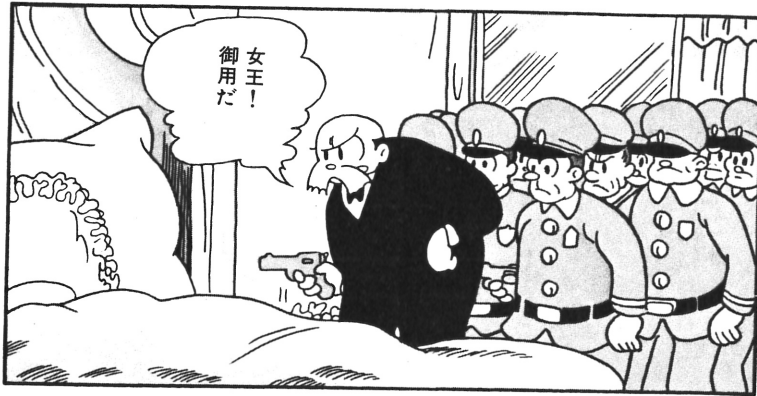
オジサアン  
どっちが  
ニセモノか  
わからなく  
なっちゃった

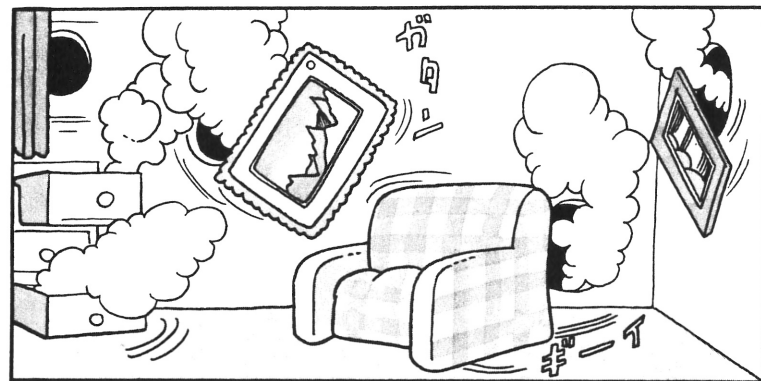
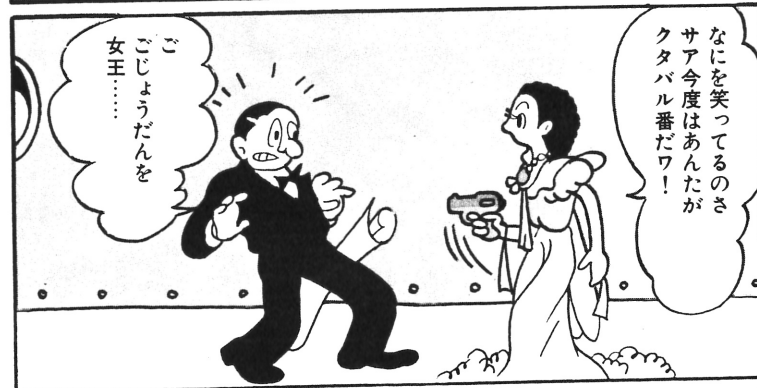


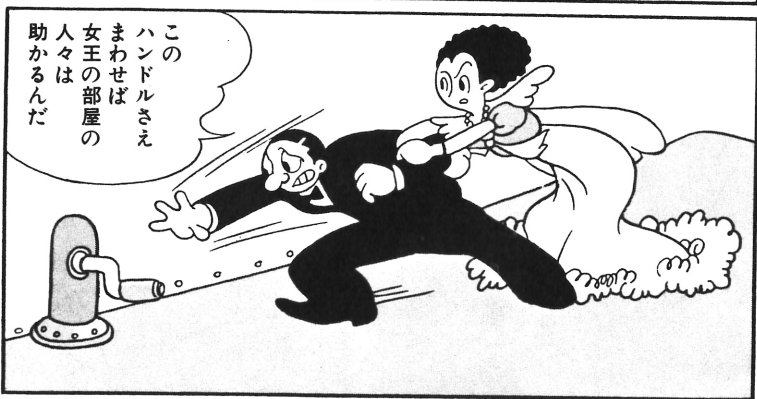
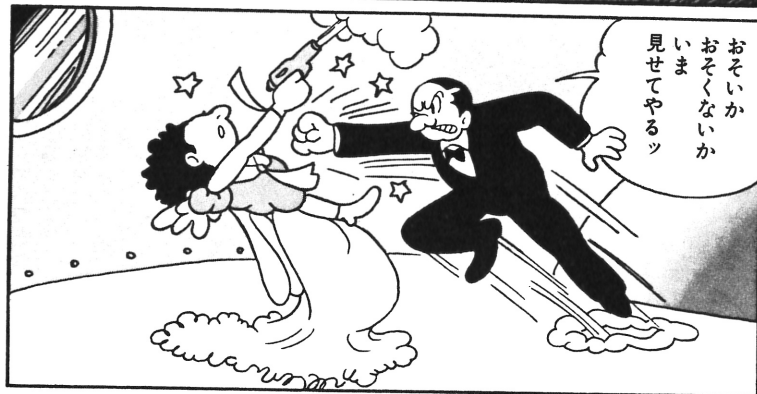
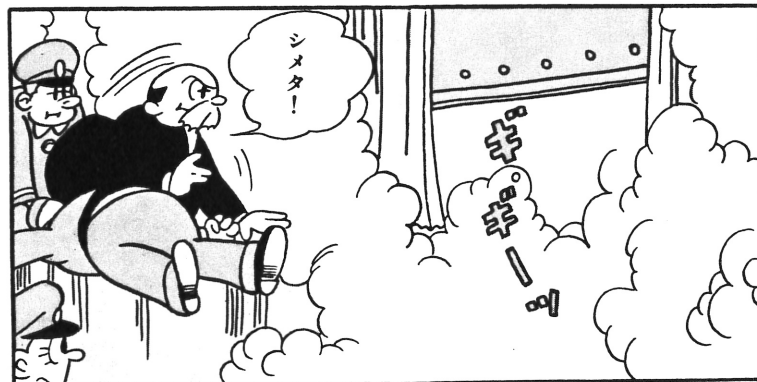
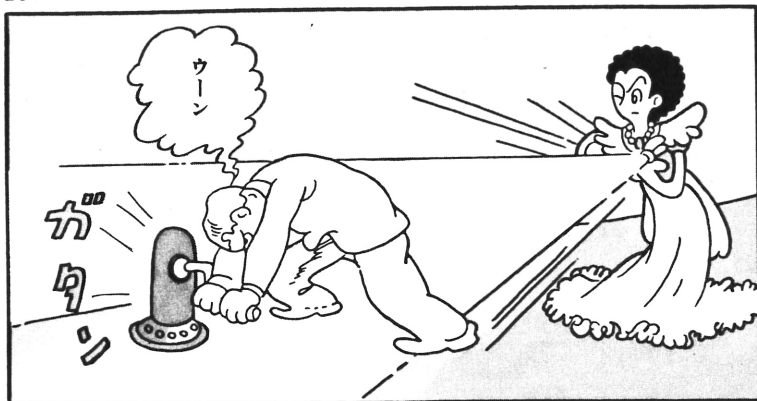


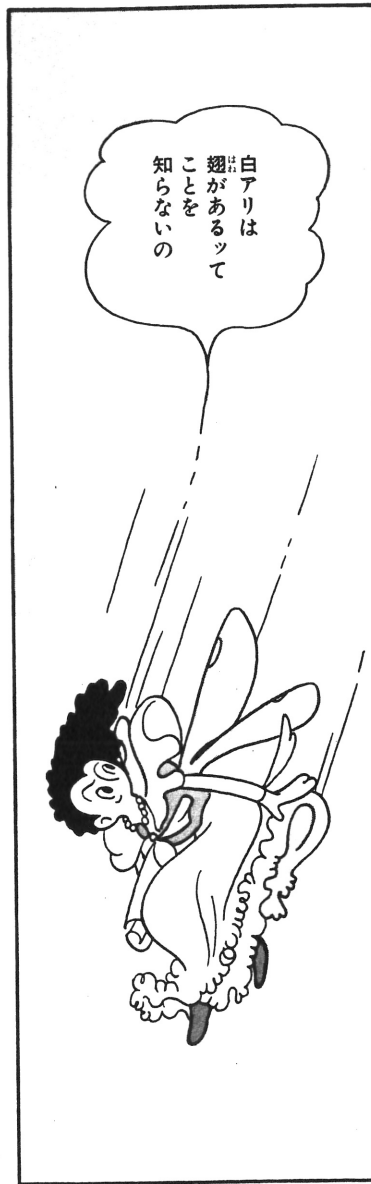










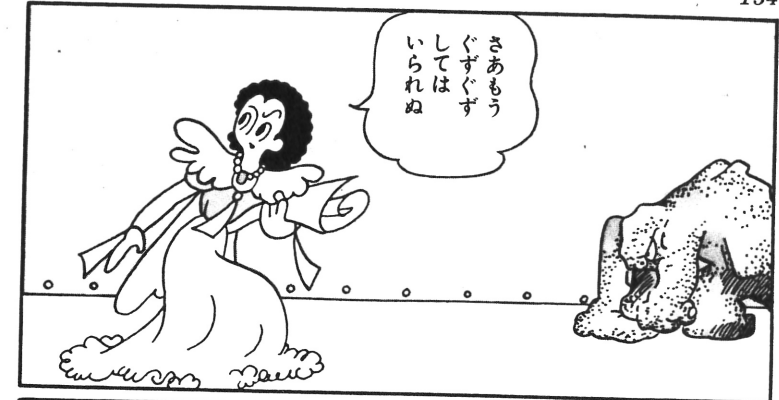


白アリは  
翅があるって  
ことを  
知らないの



やっ  
とびおりました

おどろ  
かされた



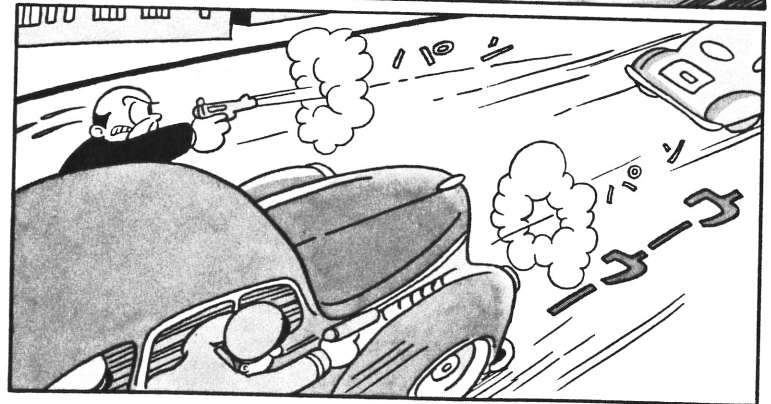
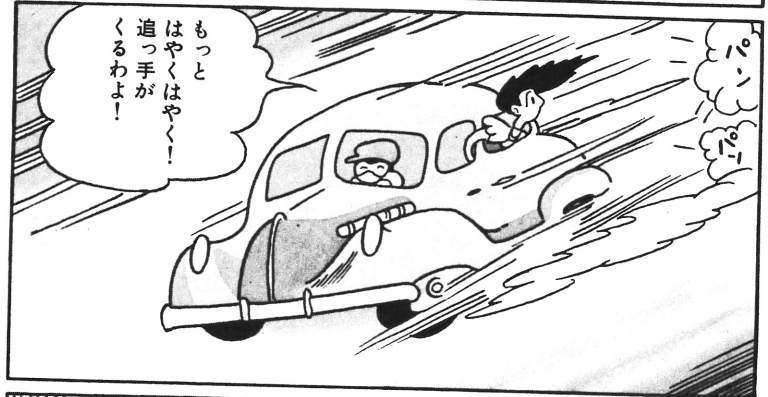
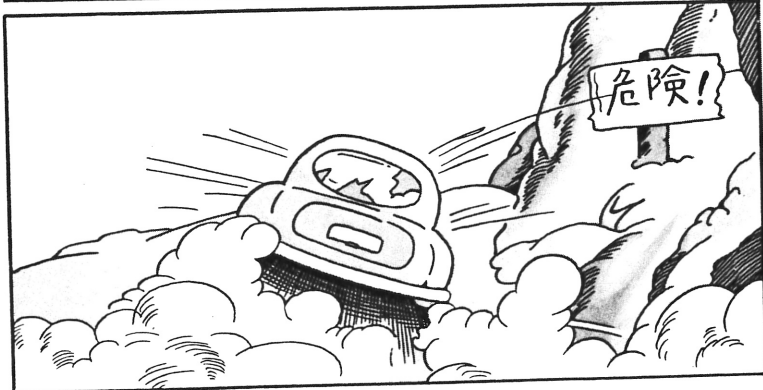
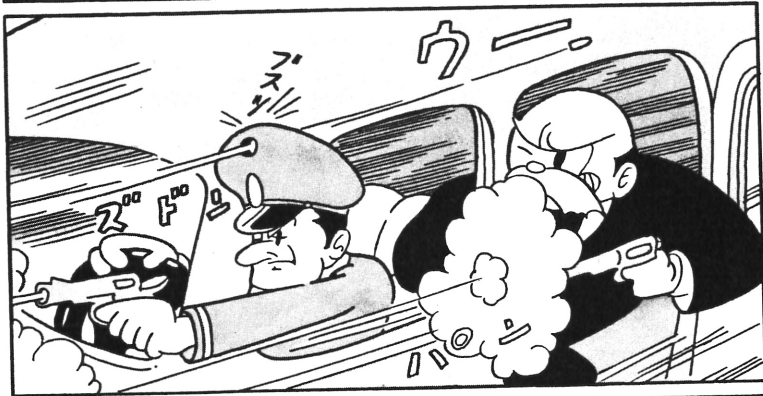
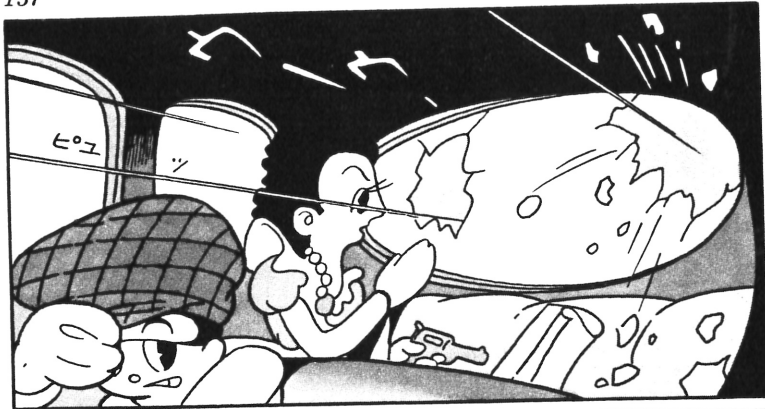
さあもう  
ぐずぐず  
しては  
いられぬ



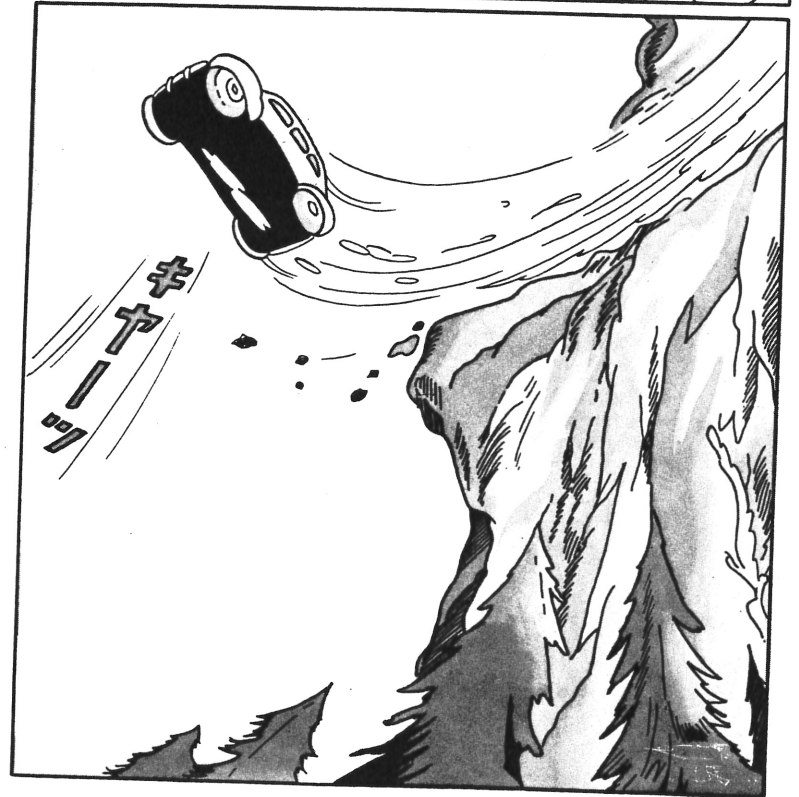
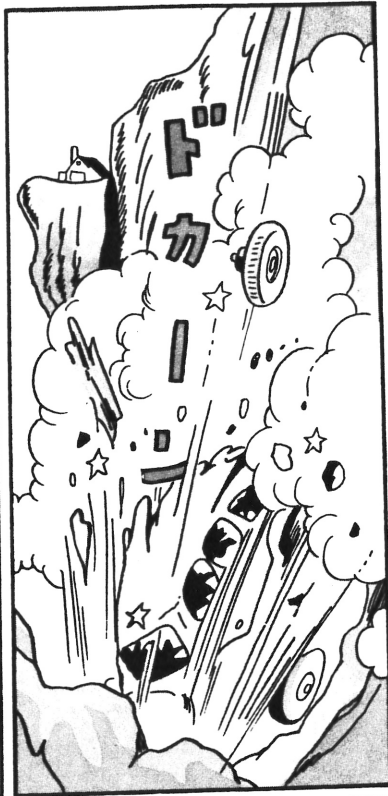
オホホ  
そろったわね  
ウジ虫ども  
つかまえられる  
ものなら  
つかまえて  
ごらん

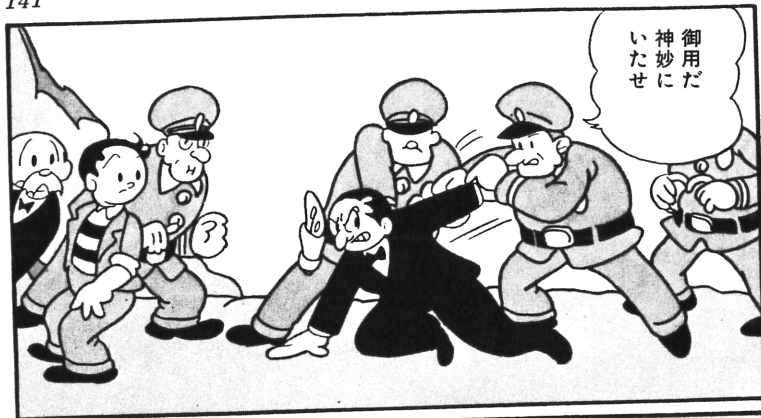
この場に  
なって  
ジタバタする  
のはよせッ

ウジ虫とは  
ケシカラン









御用だ  
神妙に  
いたせ



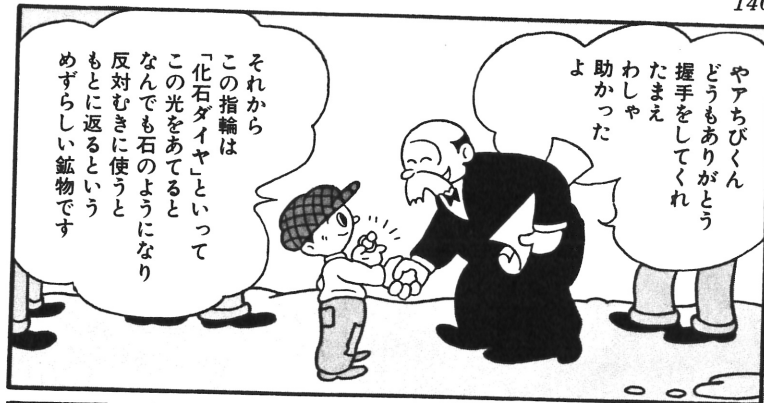
ビル氏  
私が  
悪かった  
私は  
欲に目が  
くらんで  
とんでも  
ない罪を  
おかしました  
いさぎよく  
法のまばらに  
服します

わかってくれ  
さえすれば  
わしも  
うれしい



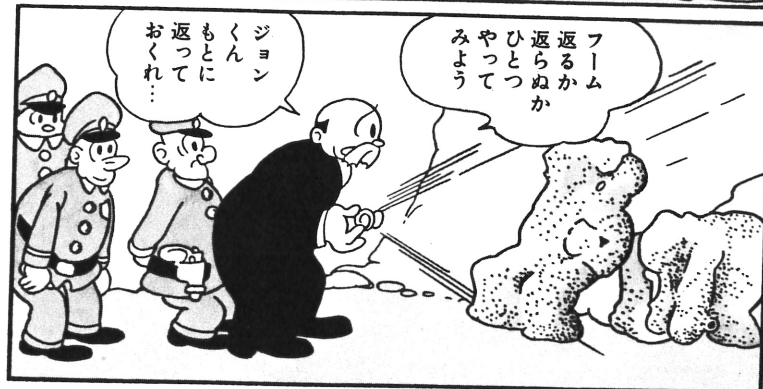
設計図は  
もどつたし  
ハム・エッグさんは  
改心したし

サアジョンくん  
これから大いに  
ガンバろうぜ



やアちびくん  
どうもありがどう  
握手をしてくれ  
たまえ  
わしや  
助かった  
よ

それから  
この指輪は  
「化石ダイヤ」といって  
この光をあてると  
なんでも石のようになり  
反対むきに使うと  
もとに戻るとい  
めずらしい鉱物です



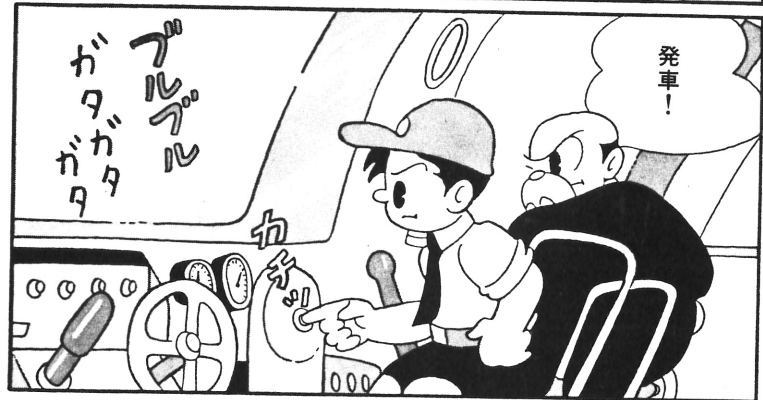
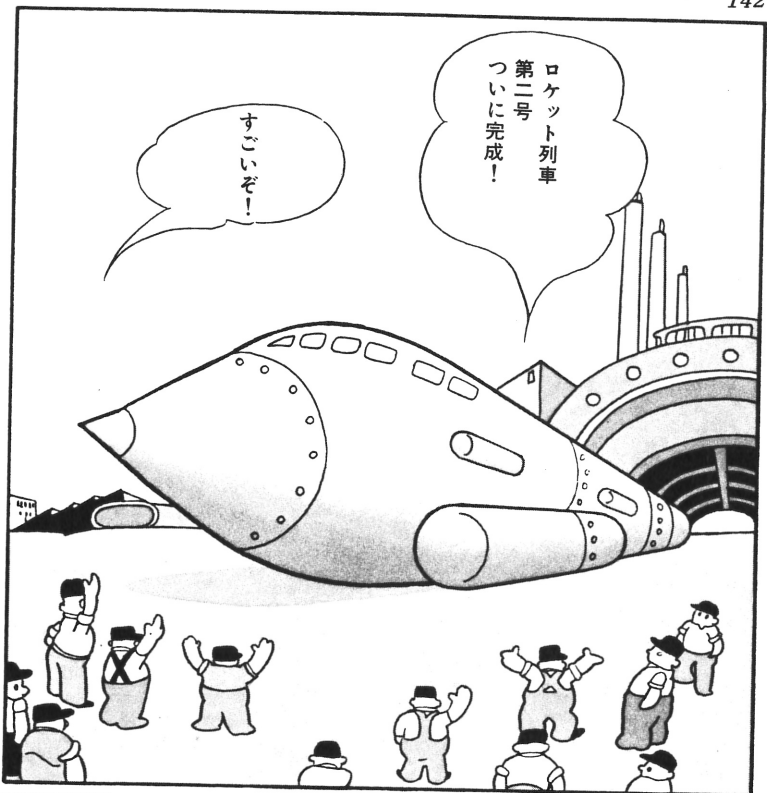
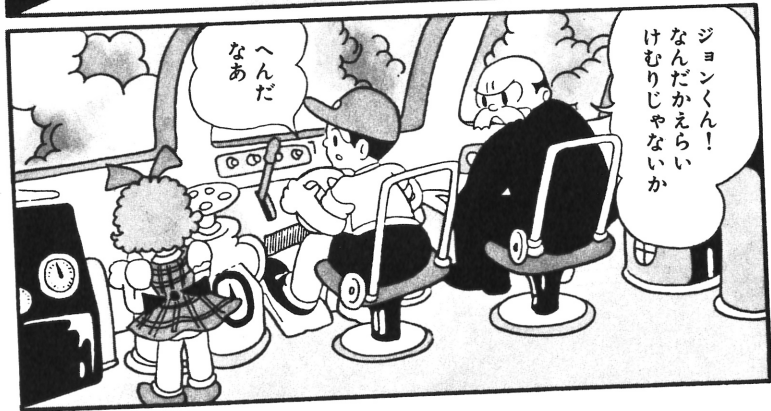
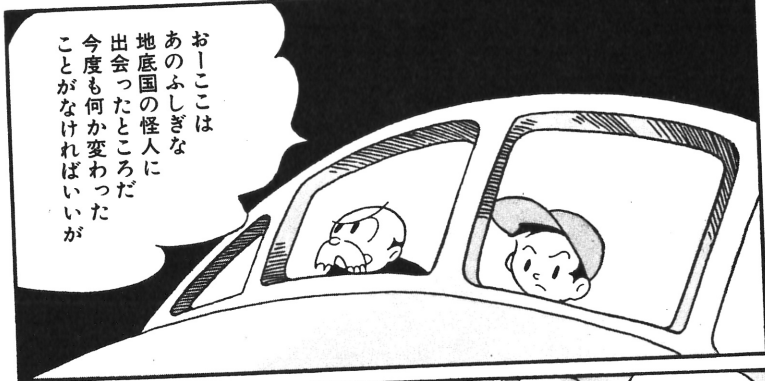
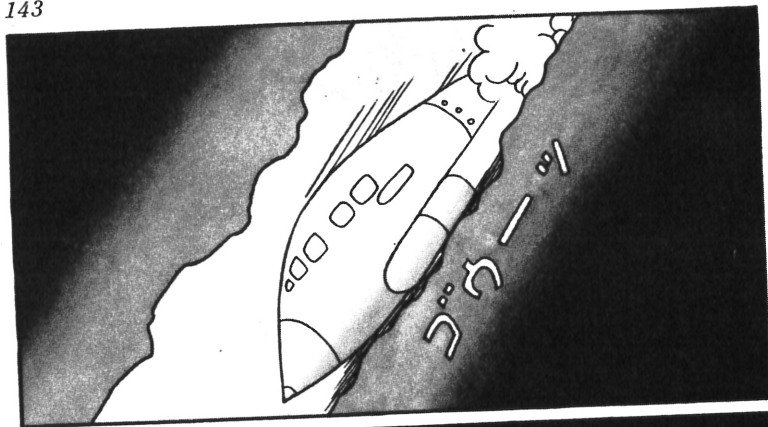
フーム  
返るか  
返らぬか  
ひとつ  
やつて  
みよう

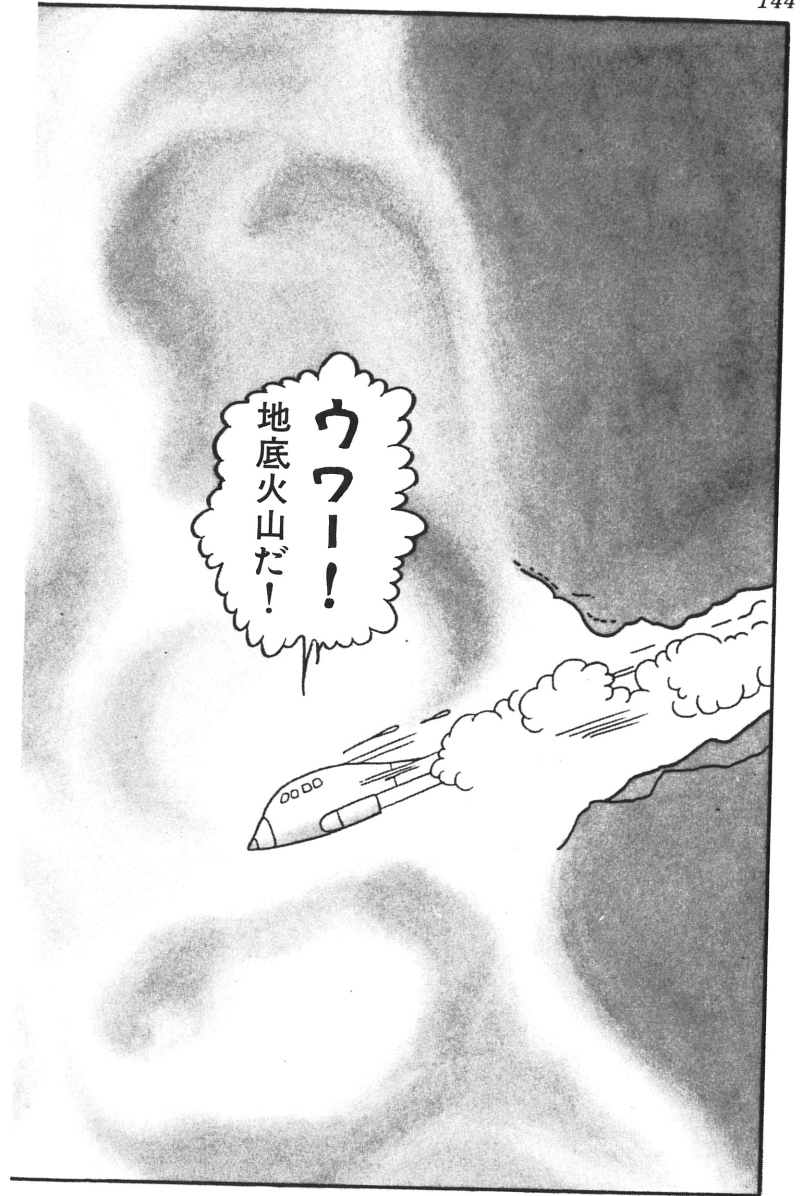
ジョン  
くん  
もとに  
返つて  
おくれ..



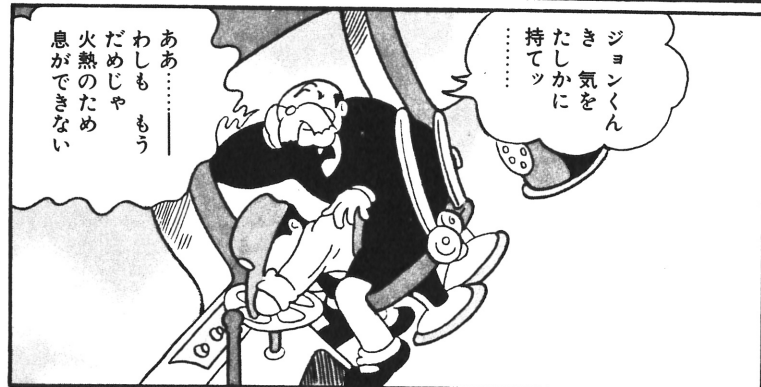
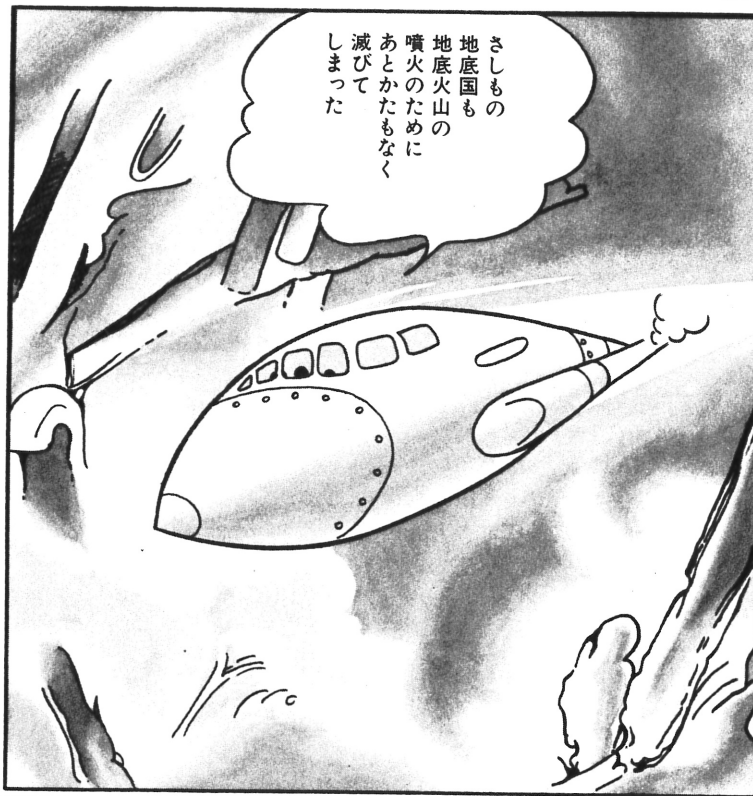
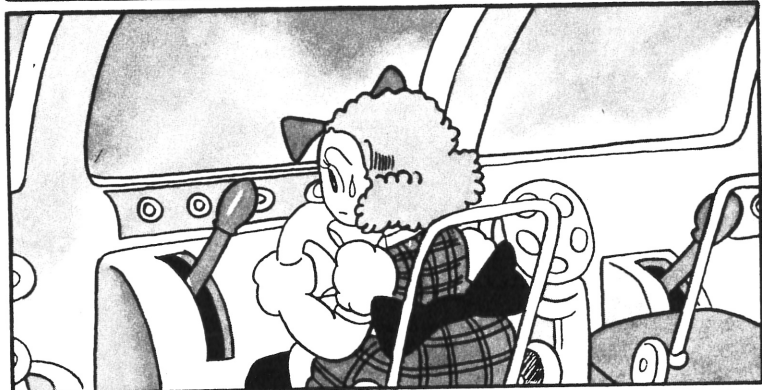
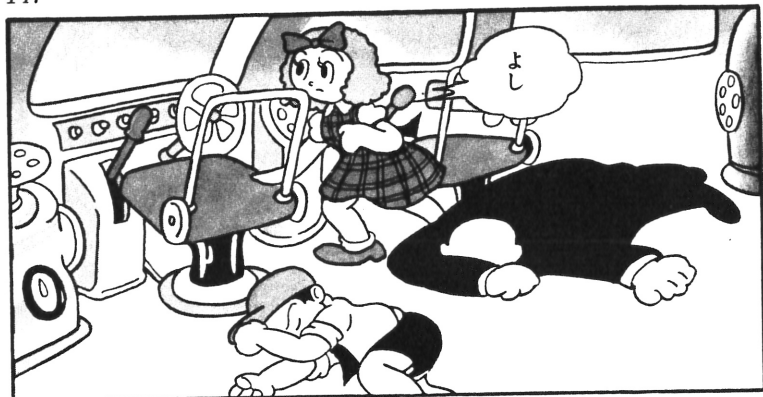
ビル  
おじさん

オー  
ジョンくん  
生き返つて  
くれたか..

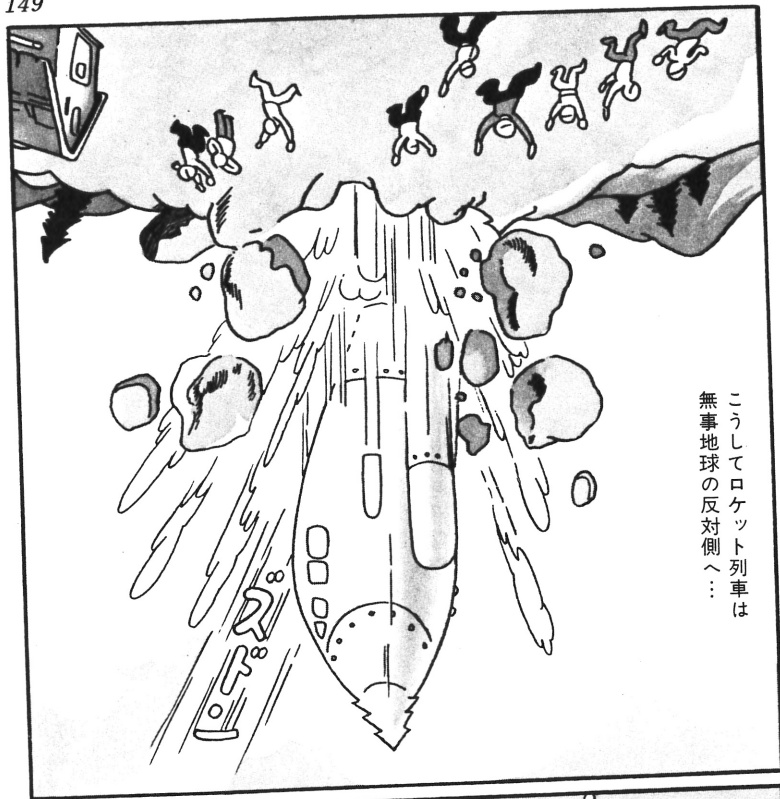




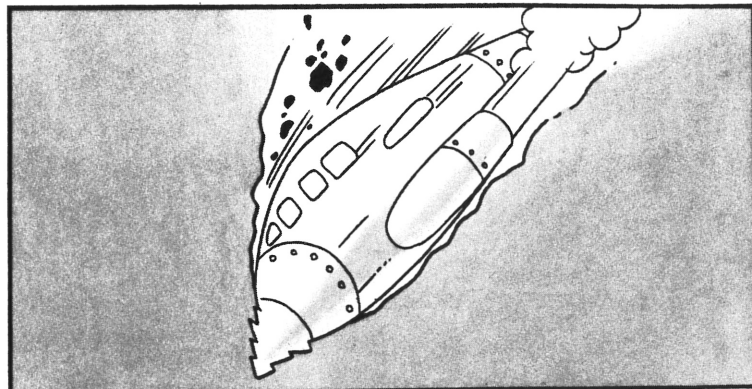
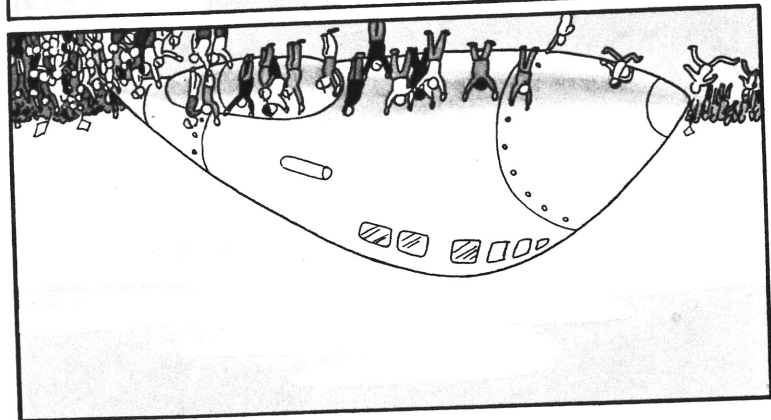
ウワー!  
地底火山だ!



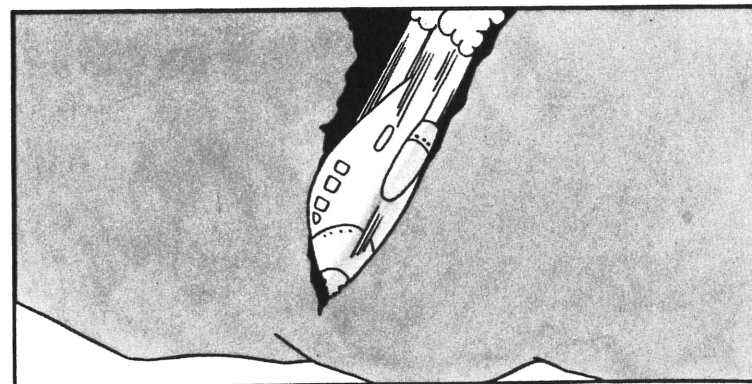




こうしてロケット列車は  
無事地球の反対側へ…



火山を  
とおりと  
すぎた…



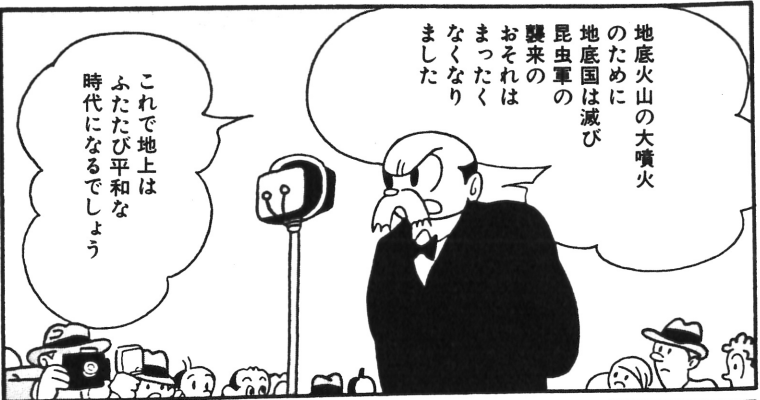
# ロケット列車 地球貫通

—無事トンネルをあけて反対側へ到着す—

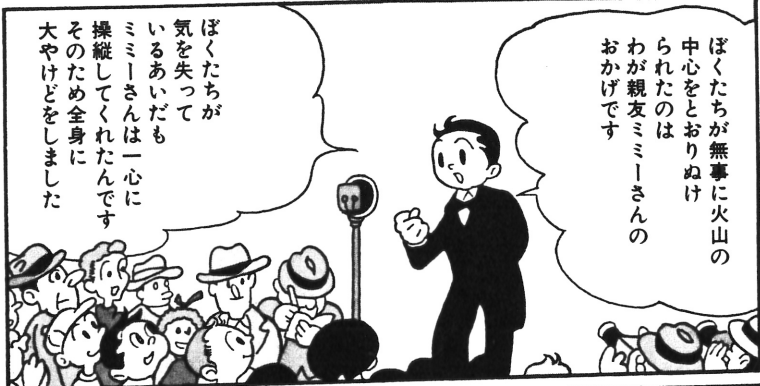
ジョンくん ヒル氏 ミミー嬢をのせたロケット  
 中間苦難をもともせずバクシンをつ  
 中心を通過 本日地球の反  
 その勇姿をあらわ ってもこ



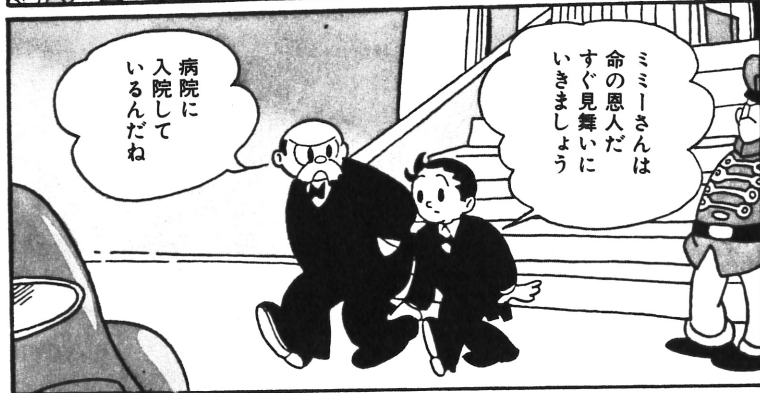
バンザイ



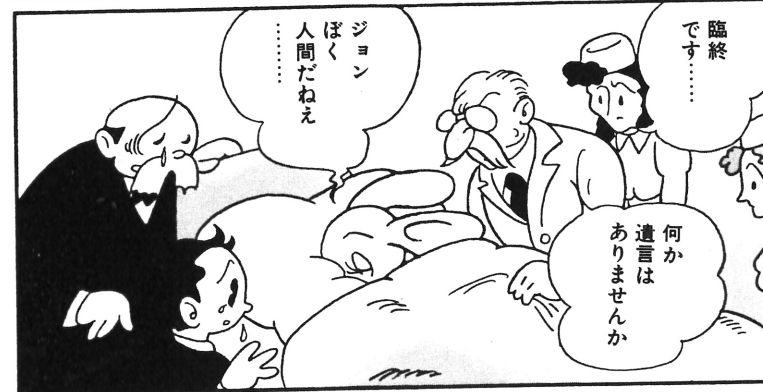
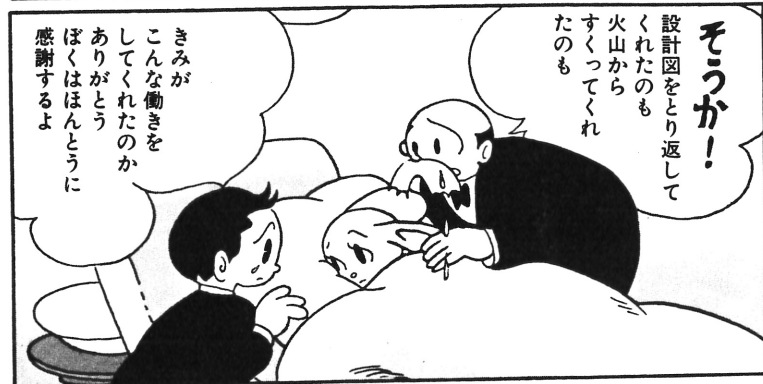
これで地上は  
ふたたび平和な  
時代になるでしょう



ぼくたちが  
氣を失って  
いるあいだも  
ミミーさんは一心に  
操縦してくれたんです  
そのため全身に  
大やけどをしました



病院に  
入院して  
いるんだね



地底国の怪人

昭和23年2月20日

不二書房 発行



Φ VII 1947

〔地底国の怪人〕 完